3-864-632-07 (2)

デジタルビデオカメラレコーダー

Mini DV Digital Video Cassette

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Handycam

DCR-TRV900

© 1998 by Sony Corporation

必ずお読みください

別売りのアクセサリーキットについて

本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。
お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

カセットメモリー付きのミニDVカセットをおすすめします

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみご使用になれます。本機ではカセットメモリー付きのミニDVカセットを推奨しています。

カセットメモリーの有無により操作方法の違う機能

エンドサーチ（18、22ページ）
「撮影日で頭出しする－日付サーチ」（59ページ）
フォトサーチ（63ページ）

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能

「タイトル場面を頭出しする－タイトルサーチ」（61ページ）
「タイトルを入れる」（77ページ）
「タイトルを作る」（80ページ）
「カセットになまえを付ける－カセットラベル」（82ページ）

詳しくは123ページをご覧ください。

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能には、説明の前に左のマークが付いています。

カセットメモリー付きミニDVカセットにはマークが付いています。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面とファインダーについて

液晶画面やファインダーは非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現われたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。（有効画素99.99%以上）これらの点は、テープに記録されません。

本書内の写真について

ファインダーや液晶画面の映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

目次

再生/サーチ

編集

その他の使いかた

メモリーカードスロットを使う

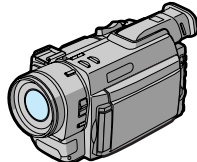
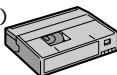
その他

別売りのメモリースティックをご使用の際は、
99ページをご覧ください。

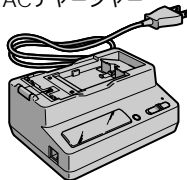
• IBMおよびPC/ATは、米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
• MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
• Macintoshは、米国その他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
• その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

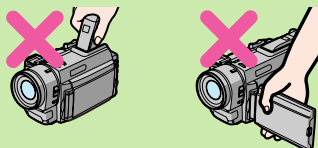
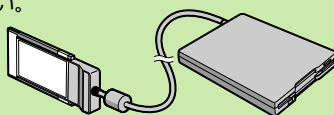
とにかく撮って見る

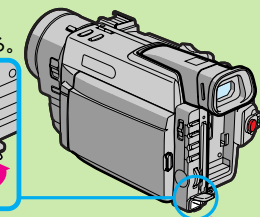
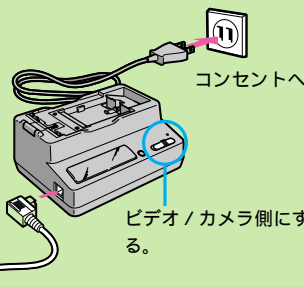
必要なもの

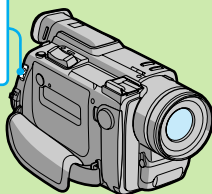
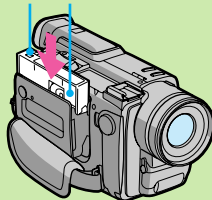
本体（ハンディカム）

ミニDVカセット
（別売り）

本機にはミニDVカセットのみ使えます。

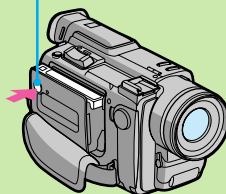
アクセサリーキット（別売り）

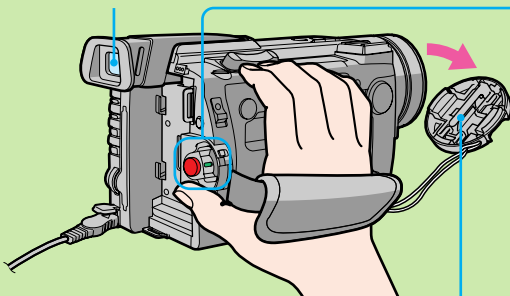
ACチャージャー

DKケーブル

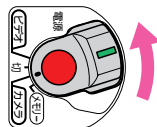
ビューファインダーや液晶画面を持たないでください！

付属のフロッピーディスクアダプターについては、99ページをご覧ください。

1 電源をつなぐ（84ページ）

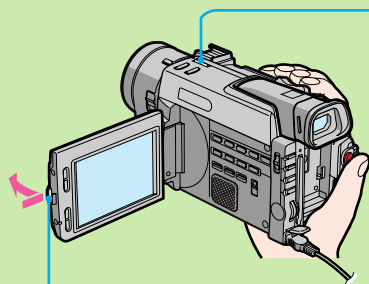
屋外ではバッテリーを使います →8ページ

2 カセットを入れる（10ページ）

❶ **青いボタンを押しながら、カセット取出しスイッチを矢印の方向へずらす。**

❷ **テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上にしてカセットを入れる。**

❸ **押ボタンを押して、カセット入れを閉める。**

押ボタン

3 撮影する（12ページ）

ビューファインダー
この部分に目をあてて画像を見ます。
必要に応じて、伸ばします。

❶ **レンズキャップをはずす。**
左右のつまみを押してはずします。

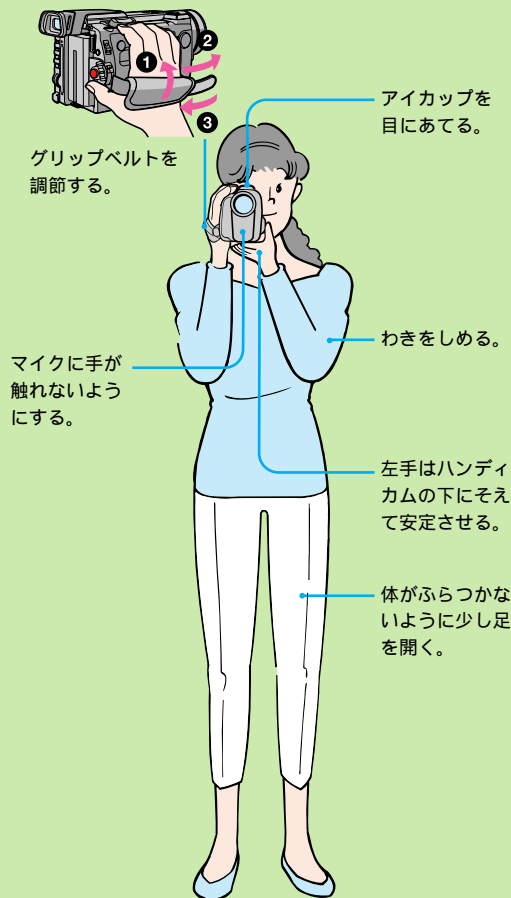
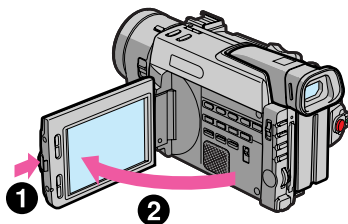
❷ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

❸ **赤いボタンを押す。**
撮影が始まる。
もう1度押すと止まる。

4 撮影できたか、ちょっと確認する（18ページ）

❶ **液晶画面OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。**

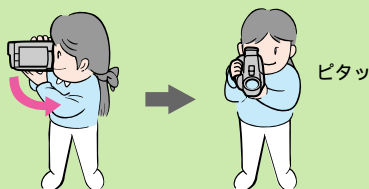
❷ **エディットサーチ ボタンをポンと1回押す。**
最後に撮影した場面を数秒間液晶画面で見られる。

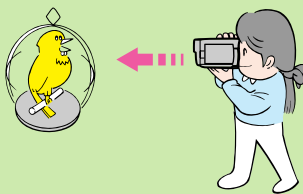
本機の機能が一覧できるデモンストレーションが見られます。（92ページ）

うまく撮る姿勢

見やすい画像にするコツは、ハンディカムを動かしすぎないことです。
ふらつかないよう、安定した姿勢で撮影しましょう。

撮影の基本

ハンディカムをふり回さない。

写真のつもりで固定して撮ります。左右に動かすとき（パンニング）は、撮り終わりの方につま先を向け、ゆっくり動かします。撮り始めと終わりは、しっかり止めます。

ズームは多用しない。

ズームレバーをW側（Wide：広角）にすると、ブレが少なく、ピントが合いやすい状態になります。被写体を大きく撮りたいときは近づいて撮ることをおすすめします。ズームレバーをT側（Telephoto：望遠）にして撮るよりも、音もよく入り、安定したきれいな画像が撮影できます。

安定した画面にする。

- 壁によりかかるなどして安定した姿勢をとる。
- 水平、垂直の線をファインダーまたは液晶画面の枠に合わせる。

- 三脚を使う。

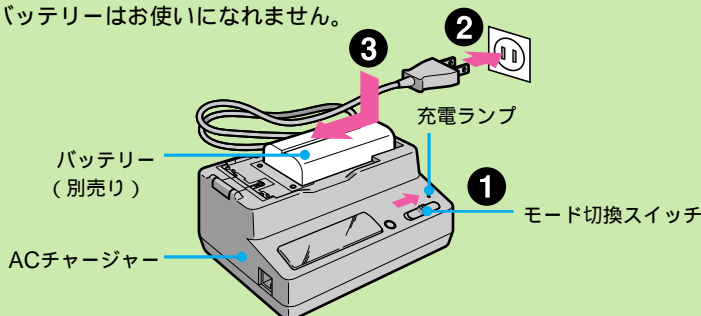
  ネジの長さが6.5mm 未満のものをお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

逆光を避ける。

太陽を背にして、被写体の正面に光が当たるようにします。

準備1 バッテリーを充電する

ACチャージャー（別売り）の取扱説明書もあわせてご覧ください。
本機の電源にはインフォリチウムバッテリー（別売り）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

充電ランプ
バッテリー（別売り）
モード切換スイッチ
ACチャージャー

ご注意

充電する場合はACチャージャーのモード切換スイッチを充電側にしてください。ビデオ/カメラ側にしていると充電できません。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
"インフォリチウム"バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持った新しいタイプのリチウムイオンバッテリーです。本機は"インフォリチウム"バッテリー対応です。"インフォリチウム"バッテリーには InfoLITHIUM マークがついています。InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

1 モード切換スイッチを「充電」にする。

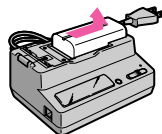
2 コンセントにつなぐ。

3 バッテリーを取り付ける。

充電が始まると、充電ランプが点灯する。

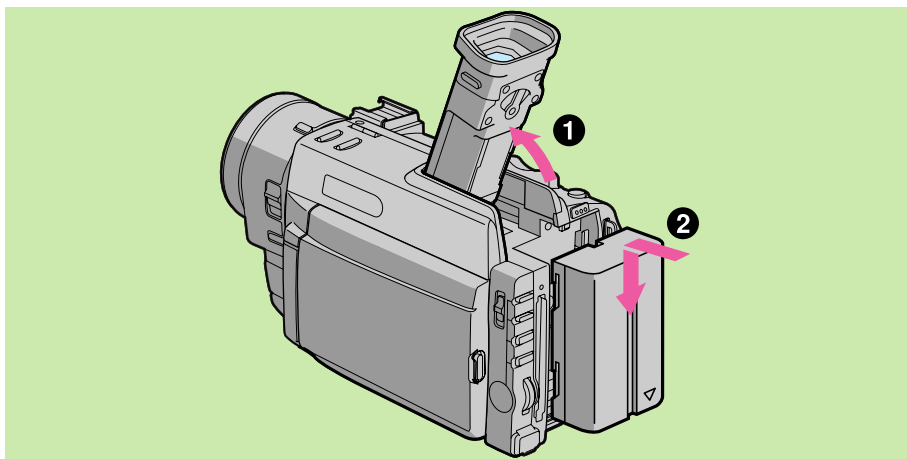
充電が終わると、液晶表示窓のバッテリーマークがすべて点灯する（**実用充電**）。さらに充電ランプが消えるまで充電を続けると、若干長く使えます（**満充電**）。

充電器から取りはずす

バッテリーを矢印の方向にずらす。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）	
NP-F550	約115分	（約55分）
NP-F750	約170分	（約110分）
NP-F950	約225分	（約165分）
NP-F530	約110分	（約50分）
NP-F730	約160分	（約100分）
NP-F930	約210分	（約150分）
NP-CF540	約110分	（約50分）

使い切ったバッテリーをAC-V700で充電したときの時間です。

準備2 バッテリーを取り付ける

バッテリーを取り付けた後は
バッテリーをつかんで本機を持ち運ばないでください。

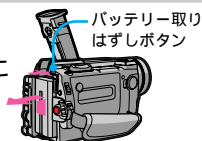
液晶画面とビューファインダーの両方を使って撮影するとき（15ページ）
バッテリーの使用時間は液晶画面を使っての撮影時間より若干短くなります。

撮影中のバッテリー残量時間表示
あと何分連続撮影で使えるかを液晶画面、またはファインダーに表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

❶ ビューファインダーを上げる。

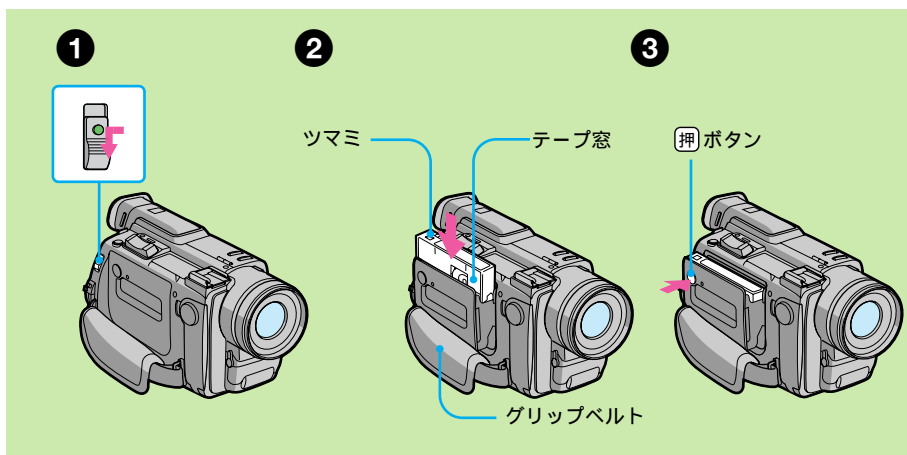
❷ バッテリーを押しながら下へずらす。
バッテリーは本体に確実に取り付ける。

本体から取りはずす

1 ビューファインダーを上げる。
2 バッテリー取りはずしボタンを押しこみながらバッテリーを上へずらす。

使用時間

バッテリー	ビューファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時*	**実撮影時****	**連続撮影時***	**実撮影時****
NP-F550	約150（135）分	約75（70）分	約120（105）分	約65（55）分
NP-F750	約315（275）分	約165（145）分	約250（220）分	約140（120）分
NP-F950	約485（440）分	約255（230）分	約375（335）分	約210（185）分
NP-F530	約120（110）分	約60（55）分	約95（85）分	約50（45）分
NP-F730	約270（245）分	約140（130）分	約210（190）分	約115（105）分
NP-F930	約420（375）分	約220（195）分	約325（295）分	約180（165）分
NP-CF540	約145（130）分	約75（65）分	約110（100）分	約60（55）分

満充電してから使用したときの時間。（　）内は実用充電してからの時間。
* 25℃で連続撮影したときの時間の目安。低温では使用時間が短くなります。
** 録画、スタンバイ、電源入/切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。
NP-500／510／710はお使いになれません。

準備3 カセットを入れる

ご注意

カセット入れに指をはさまないようにご注意ください。

カセットメモリー付きミニDVカセットをご使用のとき

カセットメモリー機能を正しくお使いいただくために123ページをご覧ください。

カセット入れが開きにくいときは

グリップベルトをゆるめてください。

1 青いボタンを押しながら、カセット取出しスイッチを矢印の方向へずらす。

カセット入れが自動的に開く。

2 カセットを入れる。

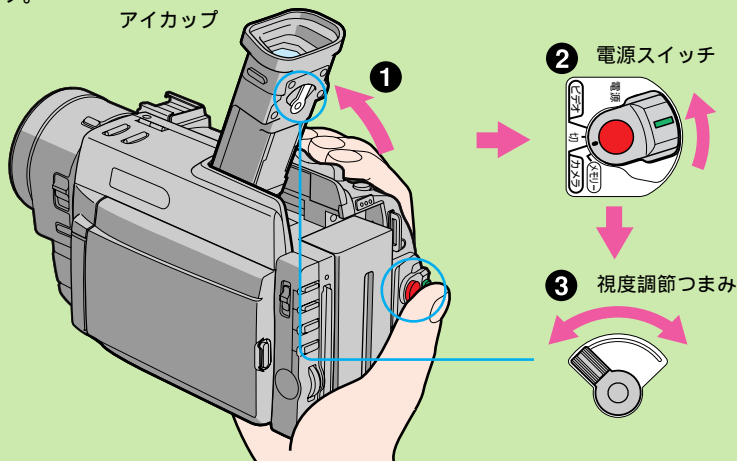
テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上にして入れる。

3 押ボタンを押して、カセット入れを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順2で取り出す。

準備4 ファインダーを調節する

ファインダーの画像がはっきり見えないとき、自分の視力に合わせて調節します。

液晶画面を開いていると
ファインダーに画像は出ません。ただし、対面撮影（16ページ）中は液晶画面を開いているときもファインダーに画像が出ます。

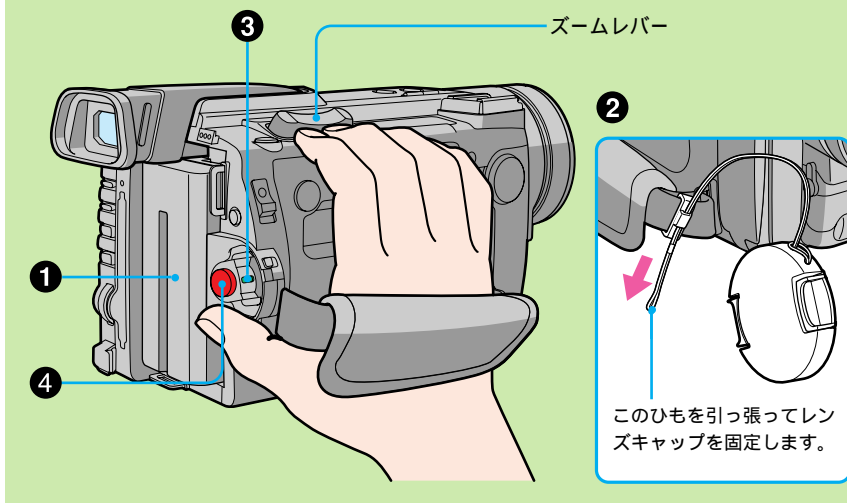
❶ ビューファインダーを上げる。

❷ 緑のボタンを押しながら、「カメラ」にする。

❸ 視度調節つまみを動かす。

ファインダーの文字がはっきり見えるようにする。

撮影する

ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

- お手持ちのパソコンで画像を処理したり、後でスチル再生をするときは、あらかじめメニューで「プログレッシブ」を「入」にしてから撮影することをおすすめします。画質は向上しますが、動きのあるものを撮影すると、再生時、画像がぶれることがあります。
- ファインダーや液晶画面、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

撮影スタンバイが5分以上続くと

自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影をはじめるときは電源スイッチを一度「切」にしてから「カメラ」に戻します。

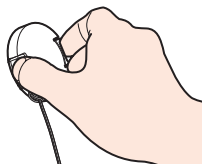
長時間録画したいときは

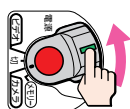
メニューの「録画モード」を「LP」にします（91ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは、本機で再生することをおすすめします。

❶ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

「準備1〜4」（8〜11ページ）をご覧ください。

❷ レンズキャップをはずす。

キャップの両側をつまんではずす。

❸ 緑のボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

撮影スタンバイになる。

撮影スタンバイ

ビューファインダーについて
ビューファインダーは、NP-F730／F750／F930／F950／CF540をご使用のときは伸ばしてご使用ください。持ち上げるときや元の位置に戻すときは、指をはさまないようにご注意ください。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した場面はきれいにつながります。バッテリーの交換は電源スイッチを「切」にしてから行えば、きれいなつなぎ撮りができます。
カセットメモリー付きのカセットでは、カセットを取り出した後でもエンドサーチ（18ページ）を使うと、きれいにつながります。

次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変える。
- LPモードでつなぎ撮りをする。

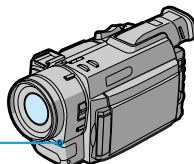
レンズフードを正しく取り付けないと
画像の四隅にフードの影が映る（ケラレが出る）ことがあります。

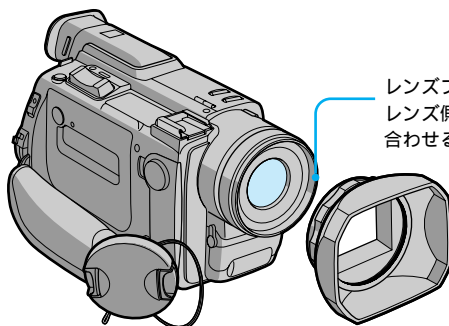
別売りフィルターキットの種類によっては
レンズフードを取り付けられないことがあります。フィルターなどを取りはずしてからレンズフードを取り付けてください。

ロックつまみについて

ロックつまみを左側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時は右側（解除）になっています。）

スタート/ストップボタンを押す。

撮影が始まる。
もう1度押すと止まる。

付属のレンズフードを取り付ける

美しい画像を撮るために、屋内、屋外に関係なくレンズフードを取り付けることをおすすめします。

レンズフードの上からもレンズキャップをつけることができます。

タイムコードについて
ビューファインダー内と液晶画面にテープ走行時間が「0:00:00」（時：分：秒）と出ます。ビデオモードのときには「0:00:00:00」（時：分：秒：フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。（詳しくは146ページ）

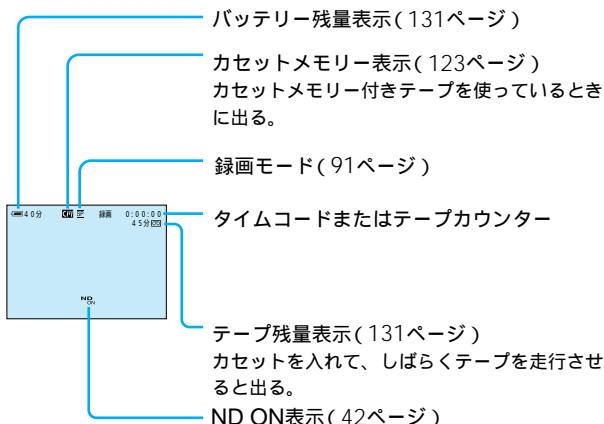
テープの残量表示について
テープの種類によっては正しく表示されないことがあります。また表示が出ない場合は、再生または録画が始まると数秒で表示が出ます。

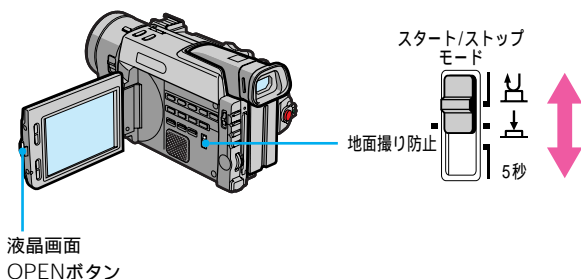
ご注意

- 「5秒」「地面撮り防止」を選ぶと、フェーダーボタンは働きません。
- 「5秒」を選ぶと、タイムコードは表示されません。

スタート/ストップモードで「5秒」を選んだとき
画面に「•••••」が出て1秒たつごとに • が1つずつ消えます。撮影時間を延長するには • がすべて消えてしまわないうちに、もう1度スタート/ストップボタンを押します。押したときからまた約5秒間撮影されます。

撮影中の表示

これらの表示はテープには記録されません。

スタート/ストップモードを選ぶ

液晶画面OPENボタンを押しながら、液晶画面を開く。

：スタート/ストップボタンを押すと撮影が始まり、再び押すと止まります（お買い上げ時の設定）。

地面撮り防止：スタート/ストップボタンを押している間のみ撮影し、離すと止まります。録画を止め忘れて地面などを撮ってしまうのを防ぎます。

5秒：スタート/ストップボタンを押すと5秒間撮影して止まります。

近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。
ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

デジタルズームについて
- デジタルズームを使うと、ズーム倍率は48倍までになります。
- メニューで「プログレッシブ」を「入」にすると、デジタルズームは使えません。

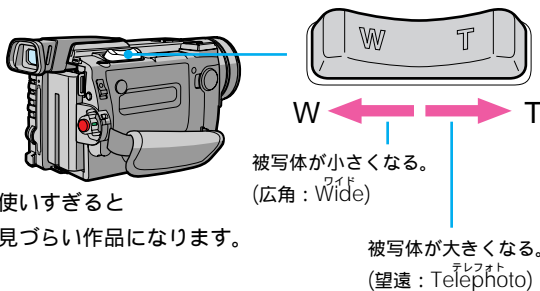
ご注意
液晶画面を開いているときはファインダーには画像が映りません。ただし、対面撮影中はファインダーにも画像が映ります。

液晶画面は
屋外では日差しの加減で液晶画面が見えにくいことがあります。

液晶バックライトの明るさは
メニューの「パネルバックライト」で変えることができます（90ページ）。

画面の明るさ／液晶バックライトは
調節してもテープ上に記録される画像に変化はありません。

ズームする

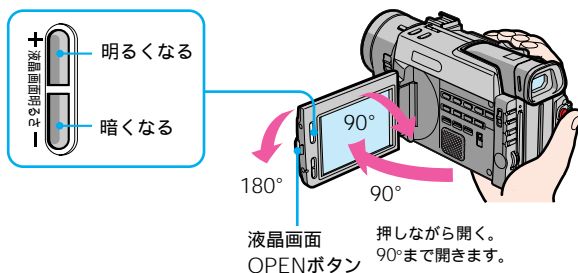
ズームレバーを押す。

使いすぎると
見づらい作品になります。

12倍を超えるズームをするには

メニューで「デジタルズーム」を「入」にします（89ページ）。
画像をデジタル処理するため画質が低下します。

液晶画面を見ながら撮影する

液晶画面OPENボタンを押しながら、液晶画面を開く。

画面の明るさを調節する　**角度を調節する**

前方向に180°まで、手前に90°まで回転し、角度を調節できます。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
以下の機能は働きません。
- メニュー
- リモコンのゼロセットメモリーボタン
- タイトル

対面撮影中の表示
- 撮影スタンバイ中は❚❚●、撮影中は●が表示されます。
- その他の表示は左右が反転します。表示が出ないものもあります。

液晶画面を見せながら撮影する－対面撮影

液晶画面を180°回転させると、相手に自分が撮られている映像を見せながらビューファインダーをのぞいて撮影できます。本体を固定しておけば、液晶画面を見ながら自分も一緒に映ることもできます。

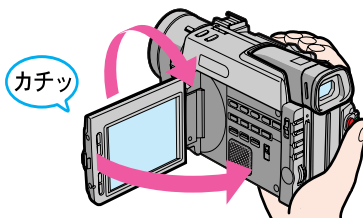
自分を撮るとき　液晶画面に映る映像　記録される映像

❶ [撮影スタンバイ中]に
液晶画面を180°**回転させる。**

対面撮影モード表示 ☺ が出る。

❷ **撮影する。**

液晶画面を閉じる

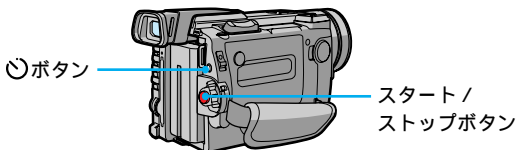
液晶画面をカチッというまで垂直にしてから本体に戻す。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー録画を実行したあと。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」にしたとき。

ボタンを押した直後は

画面が暗くなることがありますが、撮影している画像には影響ありません。

セルフタイマー録画

セルフタイマーを使用すると、10秒後に、自動的に撮影が始まります。自分を撮影したいときなどに使用してください。

1 [撮影スタンバイ中]に**ボタンを押す。**
セルフタイマー表示が出る。

2 **スタート／ストップボタンを押す。**
セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が早くなる。10秒後に、自動的に撮影が始まる。

秒読み中に撮影を止めるとき

スタート／ストップボタンをもう1度押す。リモコンを使うと便利です。

セルフタイマーで静止画を撮るとき

手順2でフォトボタンを押す。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。

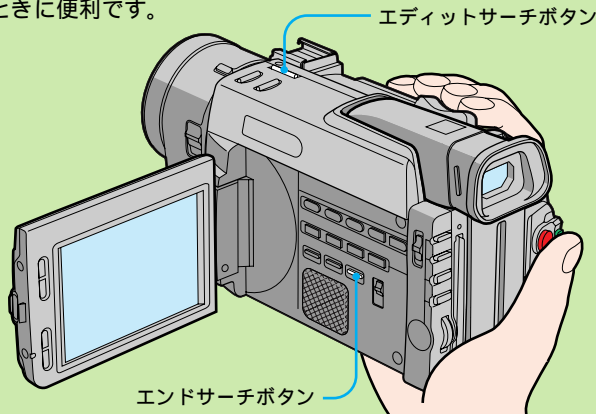
撮影が終わったら

1 **電源スイッチを「切」にする**

2 **カセットを取り出す。**

3 **バッテリーを取りはずす。**

次の撮影開始点を探す

電源スイッチを「カメラ」にしたまま画像をチェックしたり、サーチしたりできます。撮った画面が気になるときや、最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときに便利です。

エディットサーチボタン

エンドサーチボタン

エンドサーチは
カセットメモリーの付いていないカセットは、一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチは働きます。ただし、テープの冒頭や途中に一度無記録部分を作ると正しく動作しないことがあります。（123ページ）

カセットを入れてから一度も撮影していないとき
カセットメモリーの付いていないカセットでは、エンドサーチ機能は働きません。

長い内容を確認したいとき
電源スイッチを「ビデオ」にして、液晶画面やファインダーで再生画像を見ます。（19ページ）

最後に撮影した部分に戻る－エンドサーチ

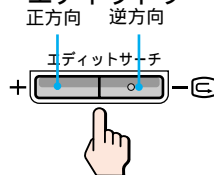
エンドサーチ

[撮影スタンバイ中]に**エンドサーチボタンを押す。**

最後に撮影した終わりの約5秒間が再生されて撮影スタンバイに戻る。スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できます。

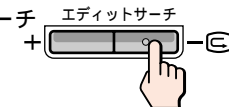
正方向または逆方向に再生する－エディットサーチ

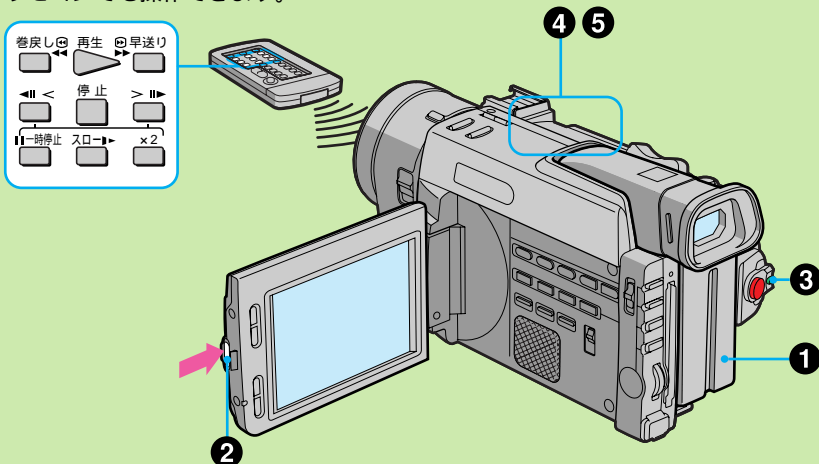
[撮影スタンバイ中]に**エディットサーチボタンを押し続ける。**

指を離したところが、次の撮影開始点になる。音は出ません。

最後の場面を確認する－レックレビュー

エディットサーチ

[撮影スタンバイ中]に**エディットサーチボタンをポンと1回押す。**

最後に撮影した場面が数秒間出て、再び撮影スタンバイに戻る。スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できます。

再生する

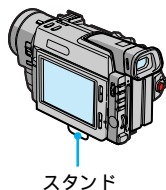
撮影したテープを液晶画面でもファインダーでも見られます。
リモコンでも操作できます。

ご注意

外国製のビデオソフトのなかには、本機で再生できないものもあります。これはカラーテレビ方式が異なるためです。

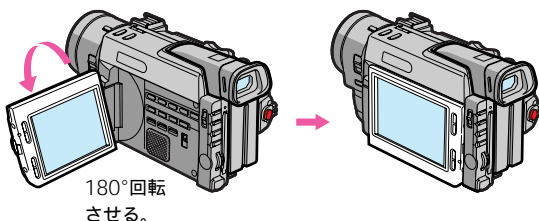
液晶画面を閉じると

スピーカーから音は出ません。液晶画面を外側に向けて閉じているときは音が出ます。

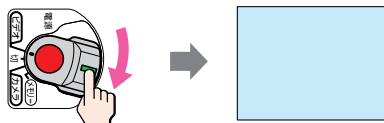
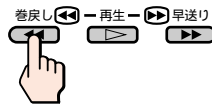
液晶画面が見にくいときは

底面のスタンドを立てます。

❶ バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。

❷ 液晶画面OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

❸ 緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。

ビデオ操作ボタンが点灯する。

次のページへつづく

❹ ◀◀巻戻しボタンを押す。

巻き戻しが始まる。

❺ ▷再生ボタンを押す。

画像が映る。

液晶画面での再生時間

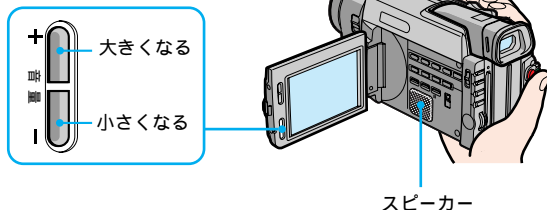
バッテリー	再生時間
NP-F550	約150（135）分
NP-F750	約315（275）分
NP-F950	約485（440）分
NP-F530	約120（110）分
NP-F730	約270（245）分
NP-F930	約420（375）分
NP-CF540	約145（130）分

満充電してから使用したときの時間。（　）内は実用充電してからの時間。低温では使用時間が短くなります。

メニューでパネルバックライトを「明るい」にしたときのバッテリーの使用時間は液晶画面を使っての再生時間より約1〜2割程度短くなります。

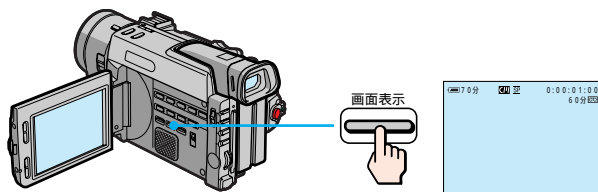
ヘッドホンで音を聞くには
ヘッドホンを ∩（ヘッドホン）端子につなぎます。音量＋／－ボタンで音量調節ができます。
このとき、スピーカーから音は出ません。

音量を調節する

音量＋／－ボタンを押して調節する。

タイムコードなどの表示を出す－画面表示機能

本体またはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面に表示が出ます。

消すときは、もう1度押します。

再生する（つづき）

エンドサーチは
カセットメモリーの付いていないカセットは、一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチが働きます。（123ページ）

一時停止（静止画）について
- 5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度▷再生ボタンを押します。
- 前の画像が残ることがあります。

スロー再生について
本機にはスローの画像もなめらかに再生する機能があります。ただしi DV入力/出力端子から出力される信号にはこの機能は働きません。

変速再生中は
音声は出ません。

いろいろな再生

止める
[再生中]に□停止ボタンを押す。

静止画を見る
[再生中]に❚❚一時停止ボタンを押す。
もう1度押すか、▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする
[停止中]に▶▶早送りボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す
[停止中]に◀◀巻戻しボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する
[再生中]にリモコンの<ボタンを押す。
▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

ひとコマずつ画像を見る（コマ送り再生）
[一時停止中]にリモコンの❚❚▶（コマ送り）または◀❚❚（コマ送り）ボタンを押す。▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で画像を見る（倍速再生）
[再生中]にリモコンの×2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの<ボタンを押してから×2ボタンを押す。▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り/巻き戻しする
[再生中]に▶▶早送りボタン/◀◀巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

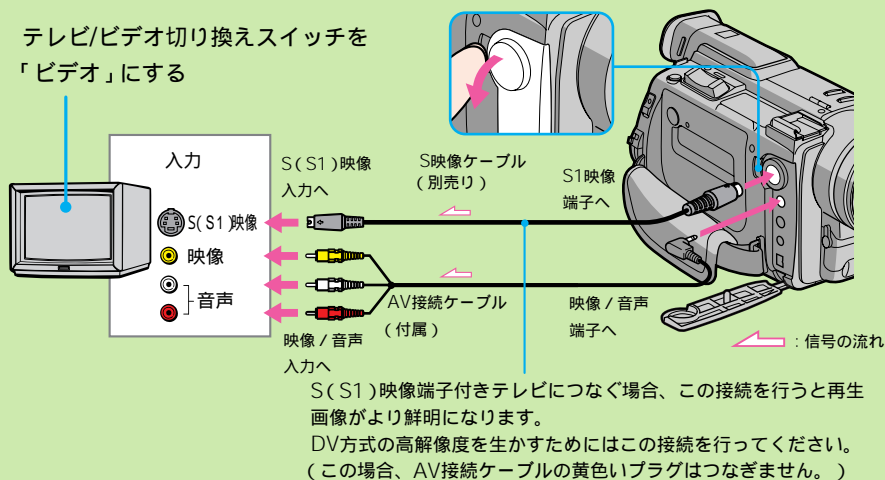
早送り/巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）
[早送り中]または[巻き戻し中]に▶▶早送りボタン/◀◀巻戻しボタンを押し続ける。離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

スロー画を見る
[再生中]にリモコンのスロー❚▶ボタンを押す。
逆方向にスローで再生するときはリモコンの<ボタンを押してからスロー❚▶ボタンを押す。▷再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）
[停止中]にエンドサーチボタンを押す。最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は別売りのACチャージャーを使ってコンセントからとることをおすすめします（84ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

S（S1）映像端子付きテレビにつなぐ場合、この接続を行うと再生画像がより鮮明になります。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
（この場合、AV接続ケーブルの黄色いプラグはつなぎません。）

お手持ちのテレビにS1映像入力端子がついているときは
本機のS1映像端子とつなぐと、本機で撮影したワイド画像を映すと自動的にワイド画像に切り換わります。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出すには
メニューで「画面表示」を「ビデオ出力／パネル」にし、画面表示ボタンを押します。消すときはもう1度押します。

モニターの色調を調整するときは
メニューで「カラーバー」を「入」にします。（92ページ）
画面にカラーバーが表示されます。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

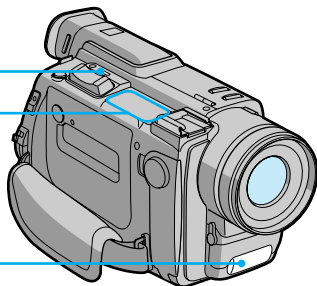
AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。

モノラル音声でお聞きになりたいときは別売りの接続コードRK-C165をお使いください。

ケーブルを使わずに見る－LASER AVLINK

別売りのAVコードレスIRレシーバーをテレビにつないでおくと、ケーブルを接続しなくても本機で再生した画像をテレビで見られます。

詳しくはAVコードレスIRレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

❶ テレビにIRレシーバーをつなぎ、IRレシーバーの電源を入れる。

❷ テレビの電源を入れ、テレビ側のテレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

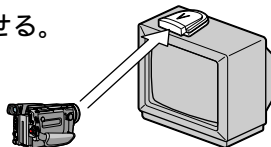
❸ LASER AVLINK ボタンを押す。

ボタンのランプが点灯する。

❹ ▷再生ボタンを押す。

再生が始まる。

❺ 本機のLASER AVLINK発光部とIRレシーバーの向きを合わせる。

再生中の画像がきれいにテレビに映るようにする。

LASER AVLINKを解除する

LASER AVLINKボタンを押して、ボタンのランプを消す。

電源スイッチを「切」にすると

自動的に解除されます。

LASER AVLINK（レーザーエーブイリンク）とは

マークのある LASER AVLINK 対応の機器間で赤外線による映像と音声の送受信をおこなうシステムです。LASER AVLINK はソニー株式会社の商標です。

ソニー製のテレビの場合は

- 電源について
  本機のメニューで「オートTVオン」を「入」に設定して、テレビの主電源を入れておくと、下記の2つの方法で自動的にテレビの電源を入れられます。
  —LASER AVLINK発光部をテレビのリモコン受光部に向けて、LASER AVLINKボタンを押す。
  —LASER AVLINK ボタンを点灯させて、▷再生ボタンを押す。
- TV入力切り換えについて
  本機のメニューで「オートTVオン」を「入」に設定し、「TV入力切りかえ」をIRレシーバーをつないだテレビの入力端子（ビデオ1/2/3）と同じに設定すると、テレビの入力も自動的に切り換わります。（テレビによっては、切り換わるときに一瞬画像や音声がとぎれることがあります。）
- 機種によっては、操作できないことがあります。

LASER AVLINKを使うと

バッテリーの使用時間が短くなりますので、使わないときは、LASER AVLINKボタンを解除しておいてください。

LASER AVLINKは次のときに操作できます

- 電源スイッチが「ビデオ」のとき
- 電源スイッチが「カメラ」で、ミニDVテープが入っていないとき。（店頭デモンストレーション用）

コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると

赤外線の発光が妨げられることがあります。

静止画を撮る–フォト撮影

ここでは、ミニDVテープに写真のような静止画を記録する方法を説明します。60分テープならSPモードで約510枚撮れます。
本機ではこのページの方法以外に、メモリーカードスロットをつかって別売りのPCカードに静止画を記録することができます*。（108ページ）

* ミニDVテープにも全画素で静止画／動画を撮ることができます。詳しくは27ページをご覧ください。

ご注意

静止画を記録中は電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

カメラ録画中にフォトボタンを押すと

押したときに映っている画像が記録されます。軽く押して画像を確認することはできません。
画像が約7秒間静止画で記録された後、撮影スタンバイになります。

リモコンのフォトボタンを押すと

押したときに映っている画像が記録されます。

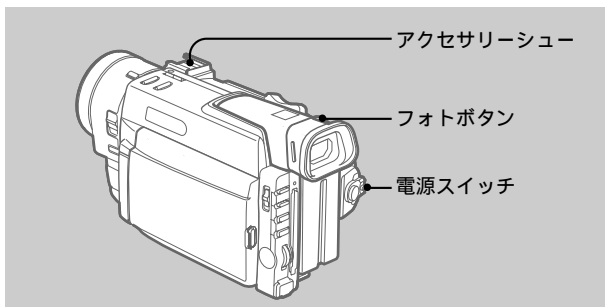
暗いときは

別売りのビデオフラッシュライトHVL-FDH2をアクセサリーシューに取り付けてご使用ください。明るさを手動調節しているときは、自動調節に戻すことをおすすめします。

ビデオフラッシュライトHVL-FDH2を使うときは

画面下部に「ϟ」（フラッシュ充電完了）マークが出たことを確認してください。

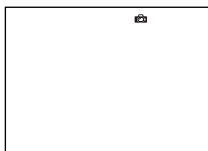
撮影中にフォトモード撮影にすると

ビデオフラッシュは効きません。（「ϟ」も出ません。）

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき録画はされません。

画像を選びなおすときはフォトボタンを離してからもう1度軽く押す。

❸ フォトボタンを強く押し込む。

録画中は●がひとつずつ消える。

ボタンを押し込んだときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。

ビデオプリンターにS映像入力端子がついているときは
別売りのS映像ケーブルでつなぐと、プリント画像がより鮮明になります。

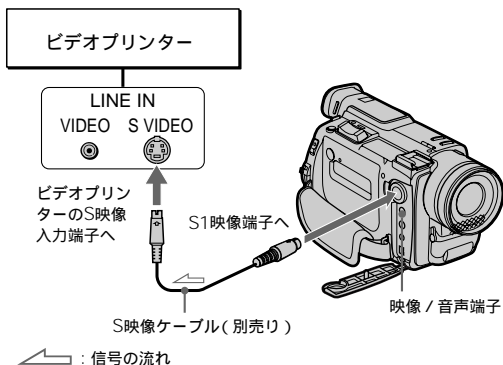
ミニDVテープに記録した静止画をパソコンに取り込む

付属のフロッピーディスクアダプターまたは別売りのPCカードを本機に接続し、静止画をフロッピーディスクなどにコピーしてから、パソコンに取り込みます。詳しくは104〜113ページをご覧ください。

また、別売りのDV静止画キャプチャーカードキットDVBK-CW200（PC/AT互換機用）やDV静止画キャプチャーボードキットDVBK-W2000（PC/AT互換機用）、DVBK-M2000（Macintosh用）をご使用中のかたは、そちらもご利用になれます。

詳しくはDV静止画キャプチャーカードキットまたはDV静止画キャプチャーボードキットの取扱説明書をご覧ください。

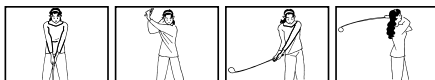
静止画を別売りのビデオプリンターでプリントする

本機と別売りのビデオプリンターを使うとビデオプリンターに画像を取り込み、プリントできます。

ビデオプリンターにS映像入力端子がないときは、付属のAV接続ケーブルを本機の映像／音声端子につないで、黄色いプラグをビデオプリンターの映像入力端子につなぎます。

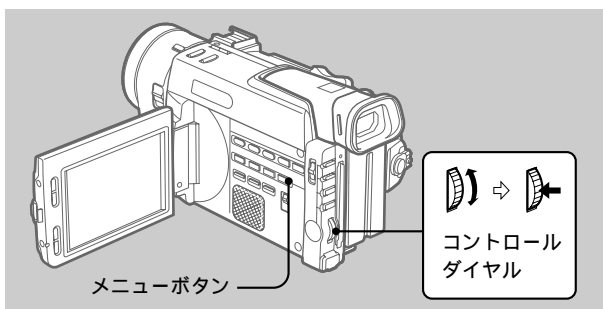
ビデオプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

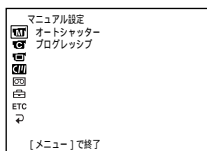
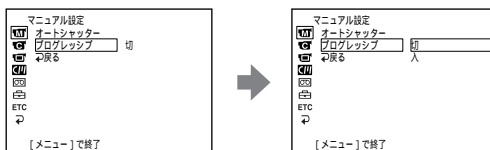
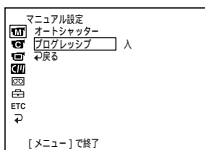
全画素で撮る－プログレッシブモード

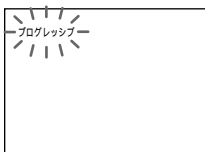
撮影したデジタル画像をパソコンなどで処理するときは、あらかじめ下記の手順でプログレッシブモードを選んでおきます。ひとコマごとに、より鮮明な画像をミニDVテープに記録することができます。

一時停止しても画像がぶれないのでスポーツのフォームを解析するときに便利です。

全画素書き出し（プログレッシブ）とは？
通常のテレビ放送では、1つの画面を細かい2つのフィールドに分け、1/60秒ごとに交互に映しています。瞬間ごとの画像は見た目の面積の半分にしか映っていません。これに対し、一度に全画素（フレーム）を書き出す記録方式をプログレッシブといいます。画像は鮮明になりますが、動きのある被写体は動きがぎこちなくなります。

工場出荷時の設定は
ミニDVテープに動画・静止画を撮るときは従来のテレビの画像方式（インターレース方式）になるように設定されています。

蛍光灯などの照明下では
蛍光灯、電球などの照明下でプログレッシブモードにして撮影すると、画面が明るく光る現象（フリッカー）が現れることがありますが、故障ではありません。気になるときはメニューで「プログレッシブ」を「切」にしてください。

1 [撮影スタンバイ]中に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

2 **コントロールダイヤルを回して、アイコン「M」を選び、ダイヤルを押す。**

3 **コントロールダイヤルを回して「プログレッシブ」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ コントロールダイヤルを回して、「入」を選び、ダイヤルを押す。

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

プログレッシブ表示が出る。

プログレッシブモードを解除する

手順4で「切」を選び、コントロールダイヤルを押す。

フェードイン・フェードアウトする

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

フェーダー

オーバーラップ（フェードインのみ）

モノトーンフェーダー

フェードインは白黒からカラーに、

フェードアウトはカラーから白黒になります。

ご注意

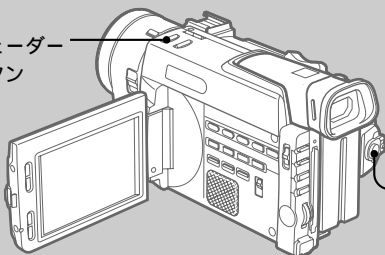
フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
- デジタルエフェクトボタンを使う操作
- フォト撮影

こんなときに使うと効果的です
- 大きな場面転換（フェードイン・フェードアウト）
- 物語の始めなど（フェードイン）
- 一日の終わりなど（フェードアウト）
- 余韻を残して場面を変える

フェードを多用すると
被写体の状況がわかりづらくなり、見づらい映像になります。

タイトルはフェードしません
不要な場合はタイトルを消してから行ってください。

スタート／ストップモードが「地面撮り防止」または「5秒」のとき
フェードイン・フェードアウトはできません。

「オーバーラップ」を出すと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中はオーバーラップ表示が早い点滅になり、再生画が出ます。このとき、テープの状態によっては、きれいな画像を撮影できないことがあります。

1
- フェードインは[撮影スタンバイ中]に
- フェードアウトは[撮影中]に

フェーダーボタンを押して希望のフェーダーモード表示を出す。

押すたびに変わります。
フェーダー→モノトーンフェーダー→オーバーラップ→（表示無し）
表示は前回使ったモードから表示されます。

2 スタート／ストップボタンを押す。

フェーダーモード表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

フェード終了後：自動的に解除される。

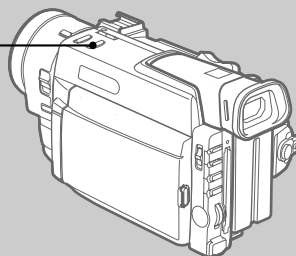
フェード前：スタート／ストップボタンを押す前にもう1度フェーダーボタンを押し、フェーダーモード表示を消す。

逆光を補正する

逆光のときは背景が明るすぎて被写体が暗めになるので、明るさ補正をして撮ります。

- 被写体の背後に光源があり、被写体が暗く映るとき
- 画面の中に強い光を発するものがあるとき
- 白い服を着た人物が白い壁の前にいるとき

ご注意

次のボタンを押すと、逆光補正は解除されます。
- 明るさボタン
- シャッタースピードボタン

逆光補正ボタンを押す。

逆光補正表示◪が出る。

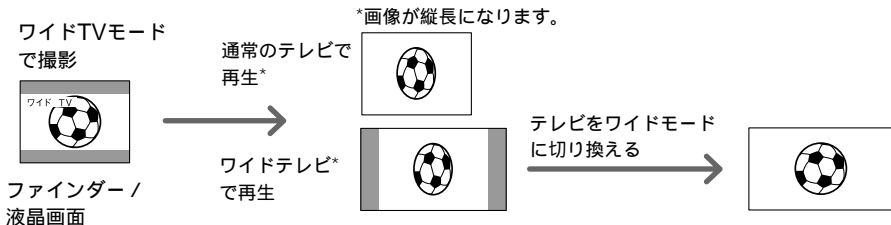
被写体の明るさが補正される。

逆光補正を解除する

逆光補正ボタンをもう1度押して、逆光補正表示◪を消す。

横長の画面にする－ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影します。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたいとき

ワイドTVモードで撮影すると
ファインダーと液晶画面では上下に黒い帯が出て、ワイド画面になります。通常のテレビで再生すると画像は縦長になります。

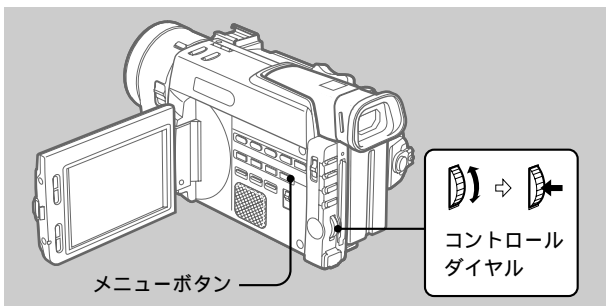
テレビの接続について
下記の接続のとき、「ワイドTVモード」で記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。

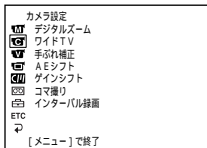
- ビデオIDシステム(ID-1)方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS1映像入力端子に接続したとき。

ワイドTVモード中は
以下の操作はできません。

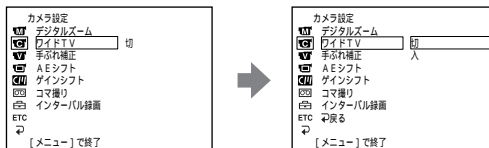
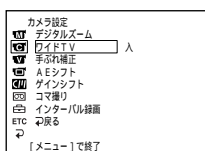
- オールドムービー

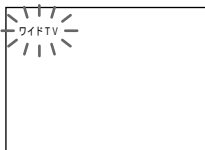
メニューで「プログレッシブ」を「入」にすると
ワイドTVモードは働きません。

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。

❶ [撮影スタンバイ]中に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「」を選び、ダイヤルを押す。**

横長の画面にする－ワイドTVモード（つづき）

ワイドTVモードを解除するときは
必ず「撮影スタンバイ」にしてください。

❸ コントロールダイヤルを回して「ワイドTV」を選び、ダイヤルを押す。

❹ コントロールダイヤルを回して「入」を選び、ダイヤルを押す。

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

ワイドTV表示が出る。

ワイドTVモードを解除する

手順４で「切」を選び、コントロールダイヤルを押す。

画像に特殊効果を加える－ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

ソラリ
→明暗を際だたせたイラストのように

モノトーン →白黒に

セピア → 古い写真のような色合いに

スリム
→縦に引き伸ばしたように

ストレッチ
→横に引き伸ばしたように

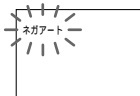
電源スイッチを「切」にすると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

ピクチャーエフェクト中は
オールドムービーは選べません。

メニューで「プログレッシブ」を「入」にすると
スリムとストレッチは選べません。

❶ [撮影スタンバイ中]または[撮影中]に
ピクチャーエフェクトボタンを押す。

ピクチャーエフェクト表示が出る。

❷ **コントロールダイヤルを回して希望のピクチャーエフェクト表示を出す。**

ネガアート

次の順で変わります
ネガアート↔セピア↔モノトーン↔ソラリ↔スリム↔ストレッチ

ピクチャーエフェクトを解除する

ピクチャーエフェクトボタンを押し、ピクチャーエフェクト表示を消す。

効果的な演出を加えて撮る－デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像に様々な演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に動画を重ねて撮影します。

フラッシュモーション
コマ送り撮影をします。

ルミナンスキー
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込みます。

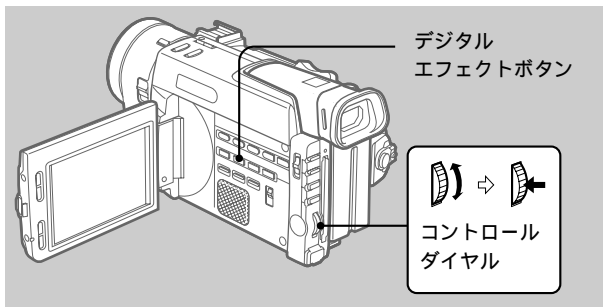
トレイル
被写体の動きを尾を引くようにして撮影します。

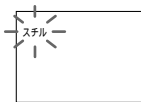
オールドムービー
画面は横長、画像はセピア、シャッタースピードは自動的に設定され、昔の映画の雰囲気で撮影します。

ご注意

デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
- フェーダーボタンを使う操作
- フォトボタンを使う操作

オールドムービーを選ぶと
以下の操作ができません。
- プログラムAEボタンを使う操作
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクトボタンを使う操作

電源スイッチを「切」にすると
自動的に解除されます。

1 ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に **デジタルエフェクトボタンを押す。**

デジタルエフェクト表示が出る。

2 **コントロールダイヤルを回して、使いたいモードを選ぶ。**

次の順で変わります。
スチル←→フラッシュ←→ルミキー←→トレイル←→オールドムービー

❸ コントロールダイヤルを押す。

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。

スチルとルミナンスキーでは､押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ コントロールダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下のとおり。

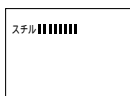
スチル：撮影中の動画に対する静止画の割合。

フラッシュ：コマ送りする間隔。

ルミナンスキー： 静止画の、動画を取り込む部分の明るさ。

トレイル：残像が残る時間。

オールドムービー：調節は必要ありません。

スチル IIIIIIII

バー表示。長くなるほど効果が大きくなる。
次のデジタルエフェクトで表示される。
スチル、フラッシュ、ルミナンスキー、トレイル。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、デジタルエフェクト表示を消す。

手動調節で撮る

通常本機では、撮影のために必要な各調節を自動で行っています。ただし、お好みにより次の機能を手動で調節できます。

■ **オートロックスイッチをマニュアルにして手動調節できる機能**
画像明るさ、シャッタースピード、ホワイトバランス、プログラムAE

■ **メニューを使って調節する機能**
ゼブラパターン、マイク音レベル、手振れ補正の解除、ゲインシフト、AEシフト

■ **その他のボタン／スイッチを使って調節する機能**
NDフィルター、フォーカス

ここでは、プログラムAE（48ページ）、フォーカス（50ページ）以外の調節を説明します。

オートロックスイッチ

位置を下のように変えることで各機能の設定を保持/解除します。

こんなときに使うと便利です

- 逆光補正を細かく行いたいとき
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
- 夜景を撮りたいときなど。

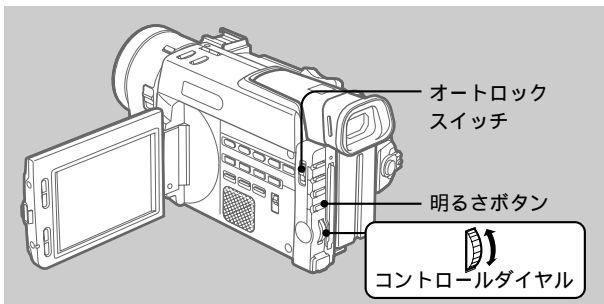
ご注意

明るさ調節をしているときは逆光補正は働きません。

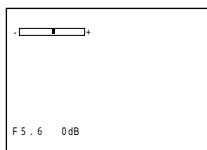
明るさを手動調節しているとき
プログラムAEボタンを押すと明るさ調節は自動に戻ります。

コントロールダイヤルは
両方向へ回ります。回転が止まる位置はありません。

画像の明るさを調節する

画像をお好みの明るさに手動調節し、固定できます。

❶ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に
オートロックスイッチをまん中（マニュアル）の位置にする。

❷ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に
明るさボタンを押す。

明るさ表示が出る。

❸ **コントロールダイヤルを回し、明るさを調節する。**

自動調節に戻す

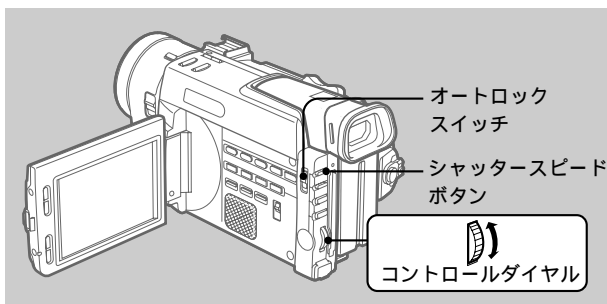
オートロックスイッチを「オートロック」にする。または明るさボタンを押して、明るさ表示を消す。

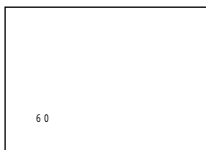
スローシャッターでは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

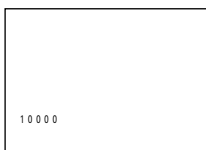
シャッタースピードを調節する

❶ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に
オートロックスイッチをまん中（マニュアル）の位置にする。

使いこなす—撮影—

次のページへつづく

❷ シャッタースピードボタンを押す。

シャッタースピード表示が出る。

❸ コントロールダイヤルを回して、シャッタースピードを調節する。

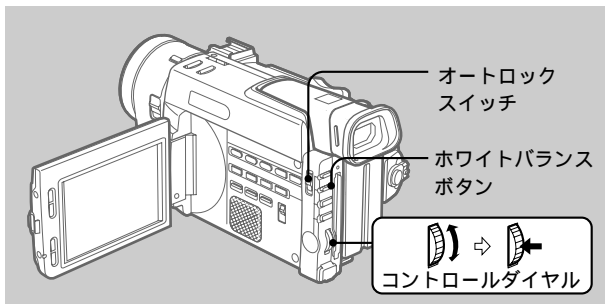
シャッタースピードは$^{1}/_{4}$から$^{1}/_{10000}$の範囲で変わる。

手動調節を解除する

オートロックスイッチを「オートロック」にする。または
シャッタースピードボタンを押して、シャッタースピード表示を消す。

自然な色あいに調節する－ホワイトバランス

これから撮ろうとする光の状態で、被写体そのものの色を撮影できるように調節することをホワイトバランスを合わせるといいます。通常は、自動的にホワイトバランスの調整が行われています。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
手順3で☼（屋内）を出して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
室内で撮影する場合でも、☼（屋内）に設定すると、正しいホワイトバランスが設定できません。⛅で設定し直すか、自動調節で撮影してください。

光源が変わったときは

- 撮影スタンバイ中にホワイトバランスを合わせ直してください。撮影中はホワイトバランスを設定できません。
- アイリス（レンズ絞り）やシャッタースピードはホワイトバランスと関連があります。
  アイリスやシャッタースピードを手動で調節してから、屋外から屋内、または屋内から屋外に移動した場合には、ホワイトバランスを合わせ直してください。
- 「オートロック」で撮影していて、屋外から屋内、または屋内から屋外へ移動した場合、あるいはバッテリーを交換した場合、電源スイッチを「カメラ」にしてからレンズを10秒間くらい白っぽい被写体に向けてください。それから撮影を始めるとよりよい色合いに調節されます。

画面内の⛅について

遅い点滅：ホワイトバランスが未設定
早い点滅：ホワイトバランス調節中
点灯：　ホワイトバランス設定終了

コントロールダイヤルを押しても⛅表示が点滅から点灯に変わらないときは

ホワイトバランスの設定ができません。自動調節にして撮影してください。

❶ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に
オートロックスイッチをまん中（マニュアル）の位置にする。

❷ **ホワイトバランスボタンを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回し、お好みのホワイトバランス表示を表示させる。**

回すたびに、表示が、⛅↔☀（屋外）↔💡（屋内）と変わる。

表示	撮影状況例
⛅	• 光源に合わせてホワイトバランスの設定をするとき ［撮影中］はできません。下記の手順にしたがって設定し直してください。
☀（屋外）	• 夜景やネオン、花火などを撮るとき • 日の出、日没などを撮るとき • 昼光色蛍光灯の下で撮るとき
💡（屋内）	• パーティー会場など照明条件が変化する場所 • スタジオなどビデオライトの下 • ナトリウムランプや水銀灯の下

手順3で⛅を選んだときは

被写体を照らす照明条件が変わらない場合、その条件のまま、より正しいホワイトバランスを設定できます。下記の手順に従って設定してください。

[画面に⛅を出した状態で]

1 **白い紙などを画面いっぱいに映す。**

2 **コントロールダイヤルを押す。**

⛅が早い点滅から点灯に変われば設定終了です。この設定はバッテリーを取りはずしても約1時間保持されます。

自動調節に戻す

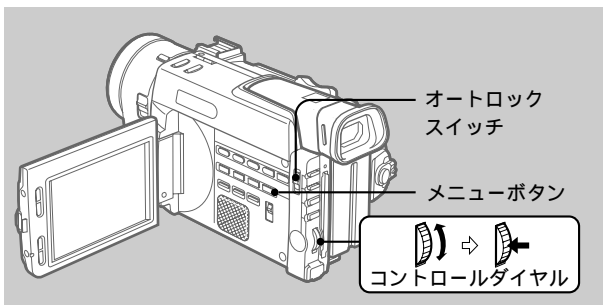
オートロックスイッチを「オートロック」にする。またはホワイトバランスボタンを押して、ホワイトバランス表示を消す。

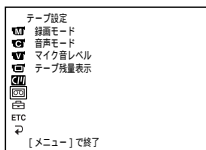
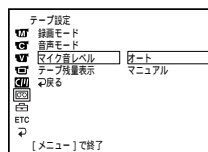
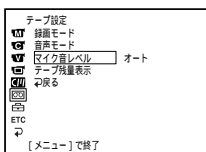
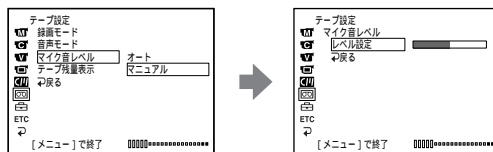
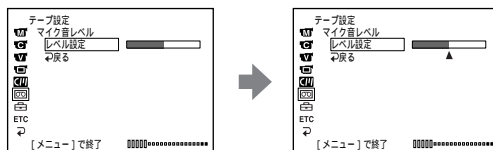
調節したマイク音レベルの保持期間は
バッテリーをはずしたあと、約5分間です。その後は自動的に工場出荷時と同じレベルに設定されます。

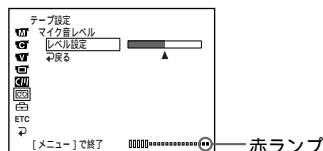
マイク音レベルを手動調節すると
画面下部にマイク音レベル表示が出ます。

映像／音声端子から入力された音声は
レベルを調節できません。

マイク音レベルを調節する

録画するときの、音声の大きさ（マイク音レベル）を設定できます。ヘッドホンをつけてレベルを確認することをおすすめします。

❶ [撮影スタンバイ]中に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

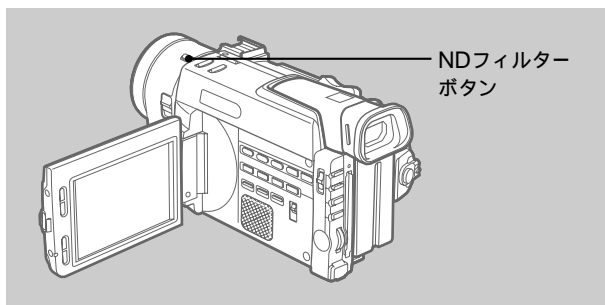
❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「📼」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「マイク音レベル」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ コントロールダイヤルを回して「マニュアル」を選び、ダイヤルを押す。

❺ コントロールダイヤルを回して「レベル設定」を選び、ダイヤルを押す。

❻ コントロールダイヤルを回して、マイク音レベルを調節する。

右端の赤ランプが点灯しないように調節する。ヘッドホンをつけて録音レベルを確認することをおすすめします。

❼ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

マイク音レベルを自動で調節する

手順４で「オート」を選び、コントロールダイヤルを押す。

NDフィルターを使う

本機には、NDフィルター（光量約16%相当）が内蔵されています。NDフィルターを使うと、明るすぎる場面を撮るときに生じるぼけを防ぎ、はっきりときれいに撮れます。

画面内に「ND ON」が点滅したら

NDフィルターが必要です。

NDフィルターボタンを押して、「ND ON」を点灯させる。

NDフィルターが入ります。

画面内に「ND OFF」が点滅したら

NDフィルターは不要です。

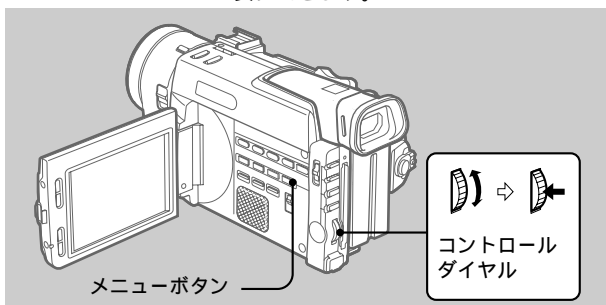
NDフィルターボタンを押して、「ND OFF」の点滅を終わらせる。

NDフィルターが解除されます。

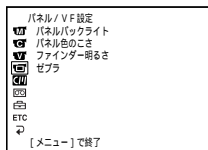
ゼブラパターンは
- 100IRE以上で表示されます。
- テープには記録されません。

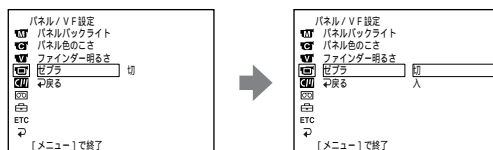
ゼブラパターンを使って調節する

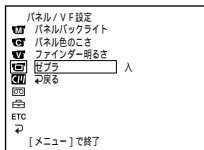
ゼブラパターン

ゼブラパターンとは、液晶画面またはファインダー内に映る画像のなかで、輝度が一定レベルを超える部分に出る、ななめの縞模様のことです。ゼブラパターンの出る部分は白とびが生じることがあります。そのため、撮影の前にメニュー画面でパターンが出るよう設定し、明るさを調節するときの目安にできます。

❶ [撮影スタンバイ中に]**メニューボタンを押してメニューを出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。**

パネル／ＶＦ設定
パネルバックライト
パネル色のこさ
ファインダー明るさ
ゼブラ
ETC
［メニュー］で終了

❸ **コントロールダイヤルを回して「ゼブラ」を選び、ダイヤルを押す。**

次のページへつづく

❹ コントロールダイヤルを回して「ゼブラ」を「入」にして、ダイヤルを押す。

パネル／ＶＦ設定
パネルバックライト
パネル色のこさ
ファインダー明るさ
ゼブラ　入
戻る
ETC
［メニュー］で終了

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

セブラパターンを解除する

手順4で「切」を選び、コントロールダイヤルを押す。

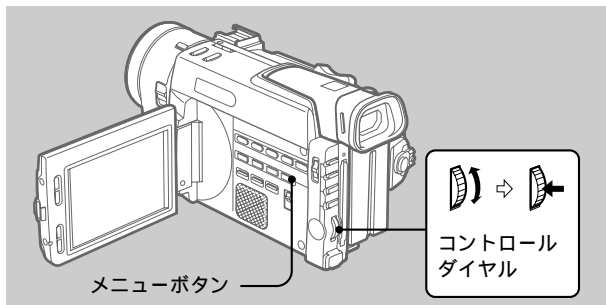
こんなときに使うと便利です
三脚に取り付けるなど手振れの心配がないとき。

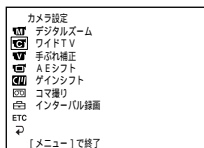
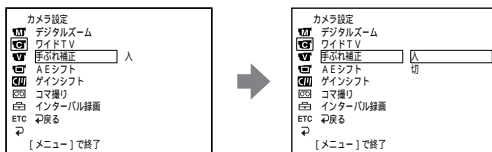
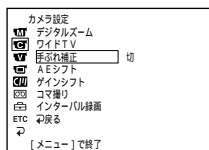
ご注意

「手ぶれ補正」が「入」になっていても、手振れが大きすぎると、補正されないことがあります。

手振れ補正を解除すると
ハンディカムを左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手振れ補正「切」表示 が出ます。

次の別売りのレンズを取り付けると手振れ補正が効きにくくなります
- テレコンバージョンレンズ
- ワイドコンバージョンレンズ

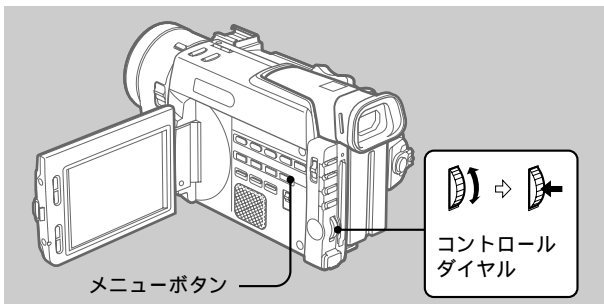
手振れ補正を解除する

❶ [撮影スタンバイ中]に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ コントロールダイヤルを回して、アイコン「C」を選び、ダイヤルを押す。

❸ コントロールダイヤルを回して「手ぶれ補正」を選び、ダイヤルを押す。

❹ コントロールダイヤルを回して、「切」を選び、ダイヤルを押す。

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

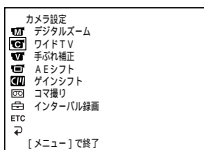
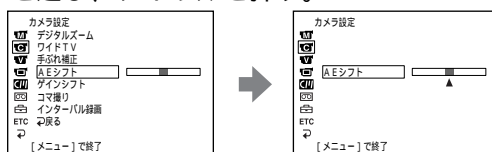
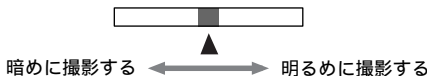
手振れ補正を働かせるときは

手順4で「入」を選び、コントロールダイヤルを押す。

AEシフトを調節すると
画面下部に AS −4～ AS +4が表示されます。数字はバーの位置によって変わります。

AEシフトを調節する

❶ [撮影スタンバイ中]に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

次のページへつづく

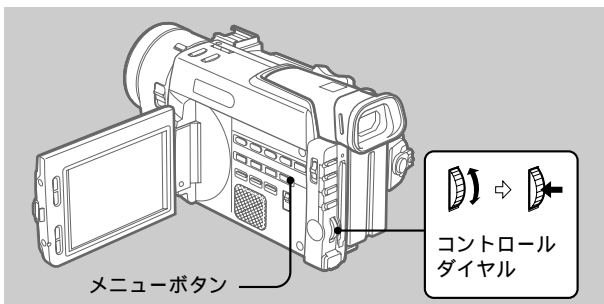
❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「AEシフト」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ **コントロールダイヤルを回して、明るさを調節して、ダイヤルを押す。**

❺ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

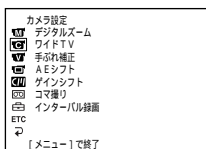
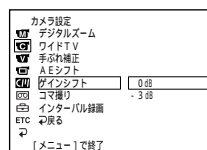
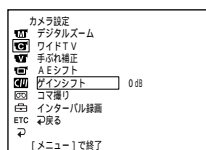
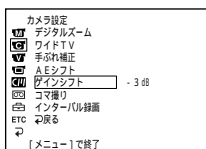
AEシフトを解除する

手順4でバーをまん中に合わせ、コントロールダイヤルを押す。

ゲインシフトとは
明るい場面では自動露出補正のゲインをできるだけ−3dBになるように自動調節して撮影します。そのため、明るい場面ではノイズを少なくして撮影できます。暗い部分では通常と同じです。

ゲインシフトを設定すると
画面下部にGSが表示されます。

ゲインシフトを調節する

❶ [撮影スタンバイ中]に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「ゲインシフト」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ **コントロールダイヤルを回して、「−**3dB**」を選び、ダイヤルを押す。**

❺ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

ゲインシフトを解除する

手順4で「0dB」を選び、コントロールダイヤルを押す。

目的に合わせて撮る－プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

アイリス優先モード
アイリス値を手動で切り換えることができます。シャッタースピードは自動的に調節されます。

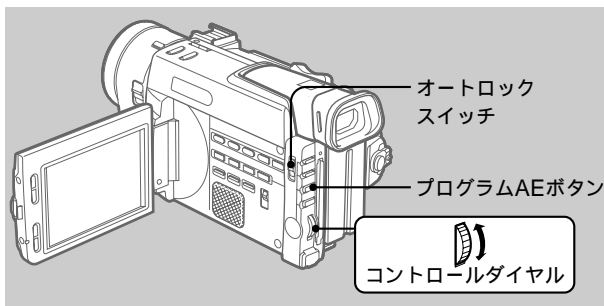
シャッタースピード優先モード
シャッタースピードを手動で切り換えることができます。アイリス値は自動的に調節されます。

スポーツレッスンモード
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のブレを少なくします。

サンセット&ムーンモード
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに再現します。

キャンドルモード
暗いところでも、被写体を明るく撮影することができます。

ご注意

- 次のモードでは近くのもの（距離50cm以内）にピントが合わないようにフォーカスを制御します。
  －スポーツレッスンモード
- 次のモードでは遠景（距離10m以上）のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  －サンセット＆ムーンモード

❶ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に**オートロックスイッチをまん中（マニュアル）の位置にする。**

❷ **プログラム**AE**ボタンを押す。**

プログラムAE表示が出る。

プログラムAE表示は次の順で変わります
アイリス優先モード←→シャッタースピード優先モード←→スポーツレッスンモード←→サンセット＆ムーンモード←→キャンドルモード

プログラムAEモードで撮影中でも
明るさを調節できます。

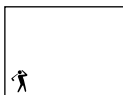
ズームをT側（望遠）にしているときは
F1.6、F2、F2.4は選べません。

被写界深度について
被写体にピントを合わせると、その被写体の前後の像にぼけを生じますが、実用上ピントが合っているとみなせる範囲があります。このピントが合っているように見える範囲のことを被写界深度といいます。
この範囲が広いときは「被写界深度が深い」、また範囲が狭いときには「被写界深度が浅い」といいます。
被写界深度はアイリス（レンズ絞り）や焦点距離（ズーム）によって下の表のように変化します。

アイリス（レンズ絞り）	被写界深度
開放側（F値小）	浅い
絞り側（F値大）	深い

ズーム（焦点距離）	被写界深度
望遠（T）	浅い
広角（W）	深い

3 コントロールダイヤルを回し、希望のプログラムAE表示を出す。

アイリス優先モードまたはシャッタースピード優先モードを選ぶときは、コントロールダイヤルを押し、次の手順にすすむ。

4 アイリス優先モード（AE A）またはシャッタースピード優先モード（AE S）を選んでいるときは、コントロールダイヤルを回し、希望のアイリス値（F値）またはシャッタースピードを選ぶ。

アイリス優先モード

ダイヤルを回すと、F値がF1.6からF11の範囲で変わる。数値が小さくなるほどアイリスは開き、大きくなるほど絞られる。アイリス（レンズ絞り）の変化に応じて、ゲインとシャッタースピードも変化する。

シャッタースピード優先モード

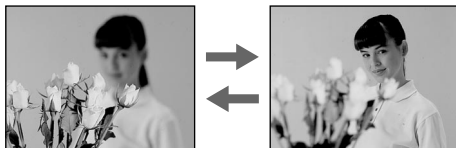
ダイヤルを回すとシャッタースピードが1/60から1/10000の範囲で変わる。数値が小さくなる（ファインダーの表示が大きくなる）ほど速いシャッタースピードになる。

シャッタースピードの変化に応じて、ゲインとアイリス（レンズ絞り）は自動的に変化する。

プログラムAEを解除する

オートロックスイッチを「オートロック」にする。またはプログラムAEボタンを押して、プログラムAE表示を消す。

手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピントをあわせることができます。

- 自動でピントが合いにくいとき
- ピントを固定したいとき
- 手前の花から後方の人物へと、意図的にピントの合う位置を変えたいときなど

こんなときに使うと効果的です

- 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
- 被写体が横じまだけのもののとき
- 被写体と背景とのコントラストが低いとき

ズームのときにもピントがずれないようにするには

ズームをT側（望遠）にしてからピントを合わせます。ただし、デジタルズームを使用するとピントが合わせにくくなります。

近づいて大きく撮るとき

ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

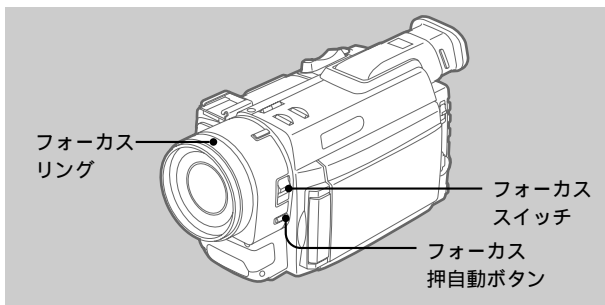
次のようなときには

手動ピント合わせをしたあと、なるべくW側（広角）で撮ります。

- 暗い室内で撮るとき
- 明るい野外で動きの激しいものを撮るとき

が次のマークになるとき

▲ ピントが無限遠にあるとき。

● それ以上近くにピント合わせをできないとき。

❶ [撮影中]または[撮影スタンバイ中]に
フォーカススイッチを「手動」にする。

手動ピント合わせ表示が出る。

❷ **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻す

フォーカススイッチを「自動」にする。

ピントを無限遠にして撮影する

フォーカススイッチを「無限」に合わせる。▲の表示が出る。

指を離すとピント合わせが手動に戻る。

遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

一時的にオートフォーカスで撮影する

フォーカス押自動ボタンを押す。押している間、オートフォーカスが働く。

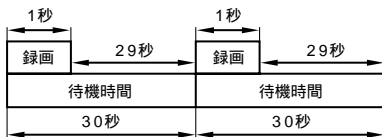
手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体へピントを移すようなときに使うと、自然にピントが合うようななめらかな画像になります。指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

一定時間おきに撮る－インターバル録画

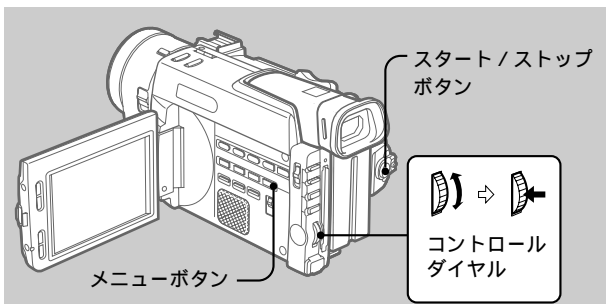
あらかじめ設定した時間ごとに、録画と録画停止を交互に行います。

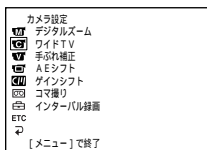
花の開花や、昆虫の羽化などの場面を時間をおいて撮影するとき。

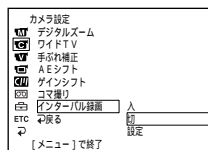
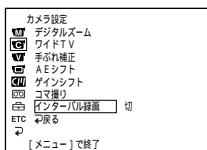
例

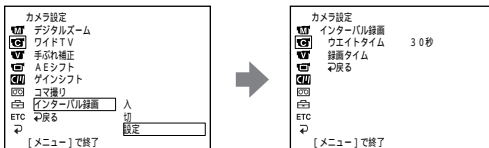
「ウエイトタイム」30秒、「録画タイム」1秒を選んだ場合（約30秒ごとに、約1秒録画されます。）

インターバル録画中は
画面に「インターバル」と表示が出ます。

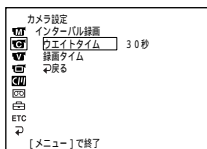
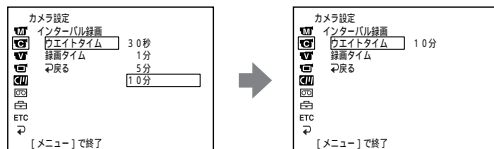
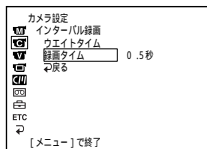
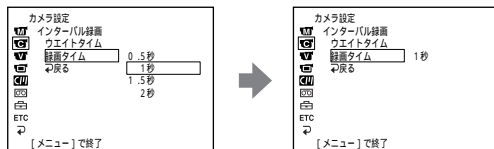
ご注意

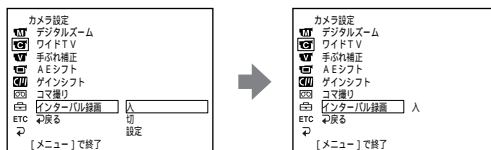
メモリーモードではインターバル録画はできません。

❶ [撮影スタンバイ中]に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「📷」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「インターバル録画」を選び、ダイヤルを押す。**

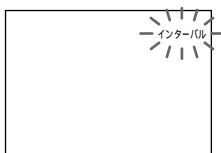
次のページへつづく

録画タイムは
最大±6フレームの誤差が出ることがあります。

❹ コントロールダイヤルを回して「設定」を選び、ダイヤルを押す。

❺ 「ウエイトタイム」と「録画タイム」を設定する。

1 **コントロールダイヤルを回して「ウエイトタイム」を選び、ダイヤルを押す。**

2 **コントロールダイヤルを回して「ウエイトタイム」を設定し、ダイヤルを押す。**

3 **コントロールダイヤルを回して「録画タイム」を選び、ダイヤルを押す。**

4 **コントロールダイヤルを回して「録画タイム」を設定し、ダイヤルを押す。**

5 **コントロールダイヤルを回して「戻る」を選び、ダイヤルを押す。**

❻ コントロールダイヤルを回して「インターバル録画」を「入」にして、ダイヤルを押す。

❼ メニューボタンを押す。

メニュー画面が消える。

インターバル表示が点滅する。

❽ スタート／ストップボタンを押す。

インターバル録画が始まる。

インターバル表示が点灯する。

インターバル録画を解除するには

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「インターバル録画」を「切」にする。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」、「メモリー」にする。

インターバル録画実行中に通常の録画をするには

スタート／ストップボタンを押す。

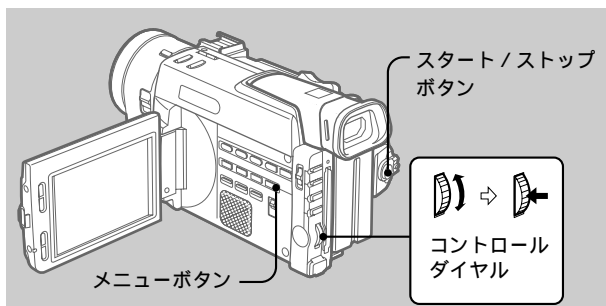
1回だけ通常の録画ができます。終了するには、もう1度スタート／ストップボタンを押します。

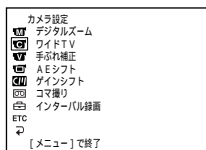
アニメーションのように撮る－コマ撮り

人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りし、アニメーションのような効果を出せます。本機を固定し、手順6以降をリモコンで操作することをおすすめします。

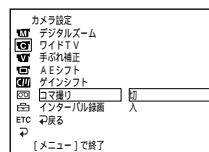
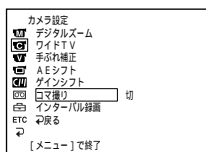
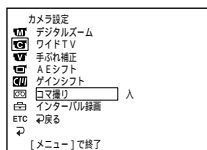
コマ撮りをすると
最終カットは通常の1コマよりも長くなります。

ご注意

コマ撮りを連続して行うと、テープ残量表示は正しく表示されません。

❶ [撮影スタンバイ]中に**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「コマ撮り」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ コントロールダイヤルを回して「入」を選び、ダイヤルを押す。

カメラ設定
デジタルズーム
ワイドＴＶ
手ぶれ補正
ＡＥシフト
ゲインシフト
コマ撮り　入
インターバル録画
ETC　戻る
［メニュー］で終了

❺ メニューボタンを押す。

メニュー画面が消える。

❻ スタート／ストップボタンを押す。

1コマ（約6フレーム）分の撮影が行われ、撮影スタンバイに戻る。

❼ 被写体を動かし、手順6を繰り返す。

コマ撮りを解除するには

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「コマ撮り」を「切」にする。
- 電源スイッチを「切」か「ビデオ」、「メモリー」にする。

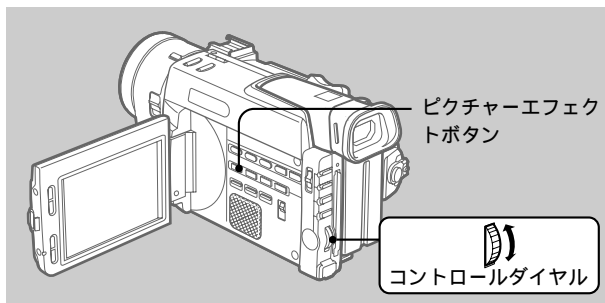
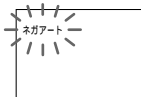
画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

再生しているテープの画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

ピクチャーエフェクトのうち、ネガアートとセピア、モノトーン、ソラリが使えます。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
自動的に解除されます。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は

DV入力／出力端子からは出力されません。

[再生中に] **ピクチャーエフェクトボタンを押し、コントロールダイヤルを回して使いたいモードを選ぶ。**

次の順で変わります。
ネガアート←→セピア←→モノトーン←→ソラリ

ピクチャーエフェクトについて詳しくは33ページをご覧ください。

ピクチャーエフェクトを解除する

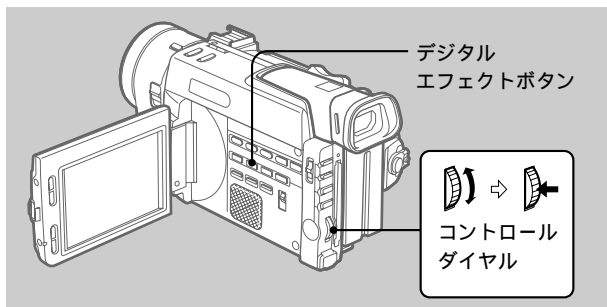
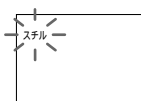
ピクチャーエフェクトボタンを押し、ピクチャーエフェクト表示を消す。

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

再生しているテープの画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

電源スイッチを「切」にするか、再生を停止すると
自動的に解除されます。

デジタルエフェクトを加えた画像は

i DV入力／出力端子からは出力されません。

❶ ［再生中に］**デジタルエフェクトボタンを押し、コントロールダイヤルを回して使いたいモードを選ぶ。**

次の順で変わります
スチル↔フラッシュ↔ルミキー↔トレイル

❷ **コントロールダイヤルを押す。**

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。スチルまたはルミキーを選んでいるときは、押したときの画像が静止画扱いになる。

❸ **コントロールダイヤルを回して、効果を調節する。**

デジタルエフェクトについて詳しくは34ページをご覧ください。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、デジタルエフェクト表示を消す。

見たい場面にすばやく戻す－ゼロセットメモリー

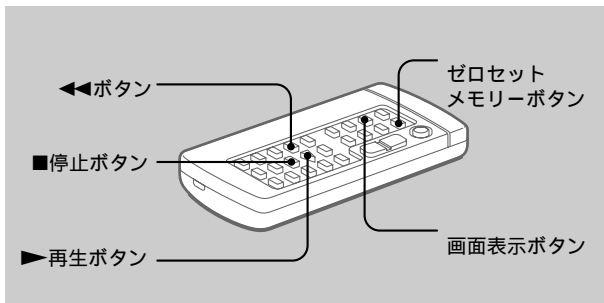
カウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。リモコンでのみ操作できます。

再生中に、後でもう1度見たいと思う場面があったときなど。

ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- テープの途中に記録されていない部分があるとゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。

撮影スタンバイ中にも操作できます

ある部分だけ撮り直したいときに、撮り直したい部分の終了点でゼロセットメモリーボタンを押しておきます。
撮り直したい部分の開始点まで巻き戻して撮影を始めると終了点でテープが停止し、再び撮影スタンバイになります。

❶ [再生中]に**画面表示ボタンを押す。**

❷ **後で見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**

カウンター値が「0:00:00」になる。
ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら、■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**

カウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止し、カウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **►再生ボタンを押す。**

もう1度再生される。

撮影日で頭出しする－日付サーチ

撮影した日付の変わり目を頭出しできます。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。リモコンでのみ操作できます。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するときなど。

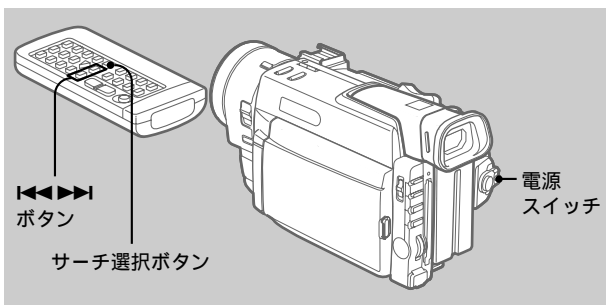
■カセットメモリーを使った日付サーチ ➡ 画面で撮影日を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わない日付サーチ ➡ 撮影した日付の変わり目を頭出し

ご注意

日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

冒頭や途中に無記録部のあるテープでは
日付サーチが正しく働かないことがあります。

1つのカセットのカセットメモリーに入る日付データは
6つまでです。

カセットメモリーを使って頭出しする

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（123ページ）

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

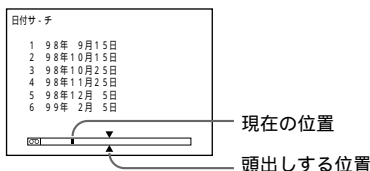
❷ **メニューでの項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。****（90ページ）**

お買い上げ時は「入」に設定されています。

❸ **サーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。**

日付サーチ画面が出る。

使いこなす―再生／サーチ―

次のページへつづく

❹ **⏮またはボタン⏭を押して、頭出ししたい日付を選ぶ。**

選んだ日付の場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **メニューで の項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（90ページ）**

❸ **サーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。**

❹ **⏮または⏭ボタンを押す。**

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

タイトル場面を頭出しする−タイトルサーチ

カセットメモリー付きカセットを使えば、タイトルを入れた場面を探せます（タイトルサーチ）。（123ページ）リモコンでのみ操作できます。

タイトルを入れた場面を探したいとき

カセットメモリーの付いていないカセットでは
タイトルを入れたり、タイトル場面を頭出ししたりできません。

タイトルを入れるには
77ページをご覧ください。

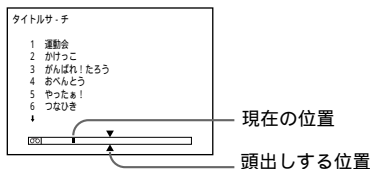
途中に無記録部のあるテープでは
タイトルサーチが正しく働かないことがあります。

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

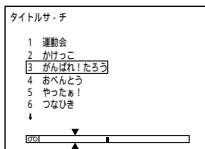
❷ **メニューでCMの項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（90ページ）**

お買い上げ時は「入」に設定されています。

❸ **サーチ選択ボタンを押して、タイトルサーチを選ぶ。**

タイトルサーチ画面が出る。

使いこなす―再生／サーチ―

❹ **I◀◀ または▶▶Iボタンを押して、頭出ししたいタイトルを選ぶ。**

選んだタイトルの場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

見たい静止画を探す－フォトサーチ／フォトスキャン

「フォト撮影」でミニDVテープに撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。

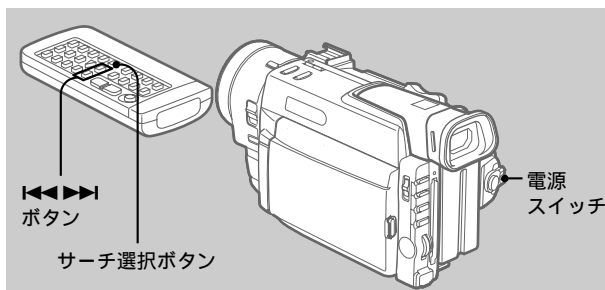
また、カセットメモリーとは関係なく静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。

リモコンでのみ操作できます。

静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するときなど。

■カセットメモリーを使ったフォトサーチ ➡ 画面で静止画の撮影日時を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わないフォトサーチ ➡ 撮影日時とは関係なく静止画を探して頭出し

途中に無記録部のあるテープでは
フォトサーチが正しく働かないことがあります。

カセットメモリーを使って静止画を探す－フォトサーチ

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（123ページ）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューで の項目の「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（90ページ）

お買い上げ時は「入」に設定されています。

❸ サーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。

フォトサーチ画面が出る。

次のページへつづく

4 ⏮またはⅠ⏭ボタンを押して、頭出ししたい静止画の撮影日時を選ぶ。

選んだ撮影日時の静止画が出る。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに静止画を探す ーフォトサーチ

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューで の項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（90ページ）

3 サーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。

4 ⏮または⏭ボタンを押す。

静止画の場面で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

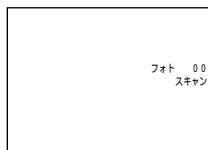
サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

静止画を次々に出して探すーフォトスキャン

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **サーチ選択ボタンを押して、フォトスキャンを選ぶ。**

フォトスキャン画面が出る。

❸ **⏮ または⏭ボタンを押す。**

静止画が順に5秒ずつ表示される。

フォトスキャンを止める

■ 停止ボタンを押す。

撮影日時とカメラデータを画面に出す－データコード

本機は、撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。再生時に希望の場所で出したり消したりできます。

再生中に撮影したときの日付・時刻やカメラデータを確認したいとき。

ご注意

メモリーカードスロットを使って撮った画像には、カメラデータは記録されていません。

次のときは、-- -- -- を表示します。

- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を合わせないで撮影したテープ

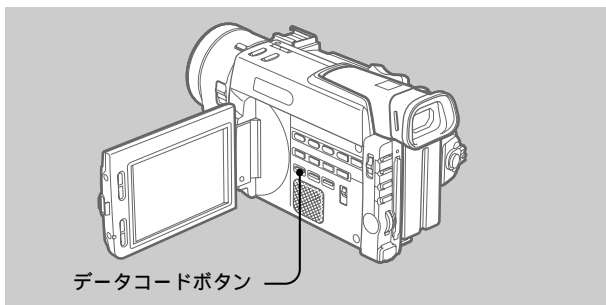
データコードは

本機をテレビにつなぐと、テレビ画面にも出ます（23ページ）。

カメラデータとは

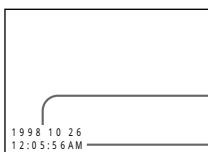
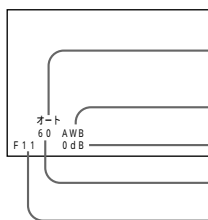
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

明るさを手動で最小にしておくと

絞り値表示の場所に「クローズ」と表示されます。

[再生中]に、**データコードボタンを押す。**

押すたびに次のように表示が変わります。

「日付表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

日付の表示

カメラデータの表示

カメラデータ表示を出さないようにする

メニューの「データコード」で「日付データ」を選ぶ。

データコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。

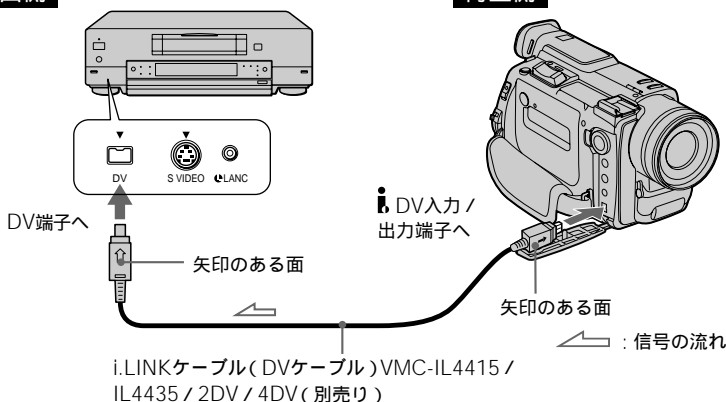
「日付表示」→（表示なし）

他のビデオへ録画する–ダビング編集

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）VMC-IL4415／IL4435／2DV／4DV（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容、メモリーインデックス画面の文字はダビングできません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです

本機は録画側としても使えます
i.LINKケーブル（DVケーブル）をつなぎかえなくても録画機または再生機として使えます。録画機として使うときは、液晶画面やファインダーに「DV入力」の表示が出るのを確認してください。両方の機器に出ることもあります。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

より精度の高い編集をするには
DVシンクロエディット（69ページ）をお使いください。

❶ 本機に録画済みのカセットを、録画機に録画用のカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機のカセットを再生し、録画機に録画したい場面でII一時停止ボタンを押す。

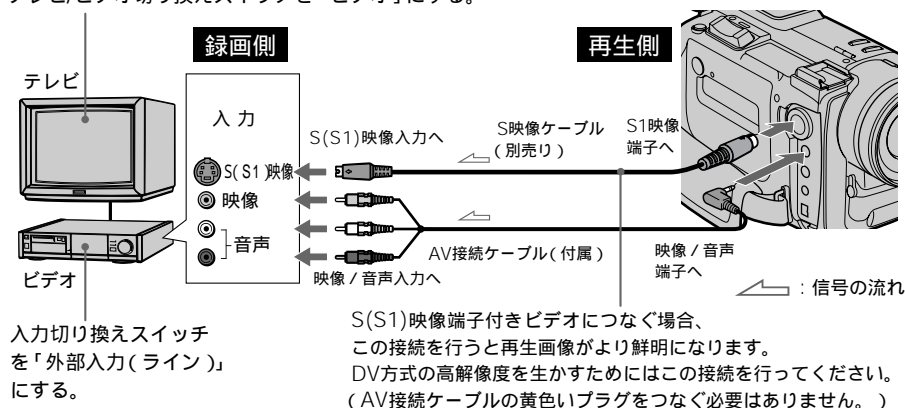
❹ 録画機を録画一時停止にする。

❺ 本機と録画機のII一時停止ボタンを同時に押す。

他のビデオへ録画する－ダビング編集（つづき）

AV接続ケーブルでつなぐ

本機と他のビデオ機器をAV接続ケーブルでつないで、ダビング・編集ができます。

相手側のビデオはDV方式だけでなく、以下のどの方式のビデオでも使えます。

次のボタンを押して画面の表示を消してから
ダビングしてください。
- 画面表示ボタン
- データコードボタン
- サーチ選択ボタン（リモコン）

消さないでダビングするとテープに記録されてしまいます。

より精度の高い編集をするには
本機を再生機として、ファインシンクロエディット機能のあるビデオデッキと本機をLANCケーブルでつなぎます。

❶ 本機に録画済みのカセットを、録画機に録画用のカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機のカセットを再生し、録画機に録画したい場面でⅡ一時停止ボタンを押す。

❹ 録画機を録画一時停止にする。

❺ 本機と録画機のⅡ一時停止ボタンを同時に押す。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のビデオにつなぐときは

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。
音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。モノラル音声で記録する場合は別売りの接続コードRK-C165をお使いください。

ミニDVテープに一部分ダビングする–DVシンクロエディット

編集をするための場面（プログラム）を選ぶだけで、i.LINK ケーブル（DVケーブル）で接続している他の機器に、テープの指定した部分だけをダビングすることができます。場面は、フレーム単位で選べます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容はダビングできません。

接続は67ページと同じです。

ご注意

- 他社のDV入力端子（i.LINK入力端子）搭載機器ではお使いになれません。
- 録画した部分の間に無記録部分のあるテープでは、DVシンクロエディットが正しく働かないことがあります。

ダビング時の誤差は

ソニー製DV端子付きDV機器と接続した場合、±5フレームです。

また、以下の条件では誤差が大きくなることがあります。

- 「ここから」と「ここまで」の間が5秒以下のとき
- 「ここから」をテープの最初に設定したとき
- 繰り返しDVシンクロエディットを行ったとき

❶ 本機に録画済のカセットを入れ、録画機に録画用のカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 録画機側の入力切換を「DV入力」にする。

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは電源スイッチを「ビデオ」にする。

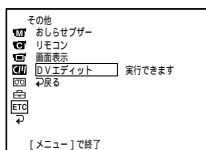
❹ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❺ コントロールダイヤルを回して、アイコン「ETC」を選び、ダイヤルを押す。

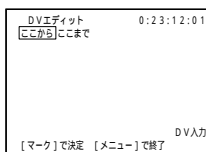
次のページへつづく

i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続していないと
「実行できません」と表示され、「DVエディット」は選べません。

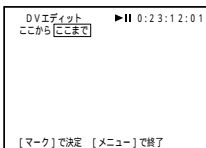
テープの無記録部には
「ここから」「ここまで」の設定はできません。

❻ **コントロールダイヤルを回して「DVエディット」を選び、ダイヤルを押す。**

❼ **ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。**

❽ **コントロールダイヤルまたはリモコンのマークボタンを押す。**

プログラムの「ここから」が設定される。

❾ **ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。**

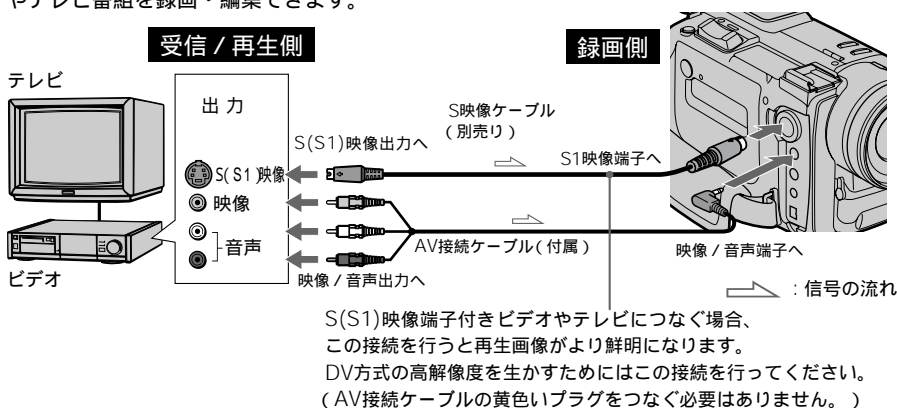
❿ **コントロールダイヤルまたはリモコンのマークボタンを押す。**

プログラムの「ここまで」が設定される。

ダビングが始まります。

ダビングが終了すると、本機も録画機も自動的に一時停止します。

ビデオやテレビから録画する

本機を録画機として使い、他のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

S(S1)映像端子付きビデオやテレビにつなぐ場合、この接続を行うと再生画像がより鮮明になります。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
（AV接続ケーブルの黄色いプラグをつなぐ必要はありません。）

ご注意

- ビデオやテレビにS（S1）映像出力端子がない場合、本機にS映像ケーブルはつながないでください。映像が出なくなります。
- メニューの「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」でカウンターなどを画面表示しているときは映像が出ません。「パネル」に切り換えてください。
- 他のビデオで早送りやスロー再生などを行うと、本機で録画中の画像が白黒になります。録画するときはテープを通常速度で再生してください。

音声出力端子がひとつ（モノラル）のビデオにつなぐときは

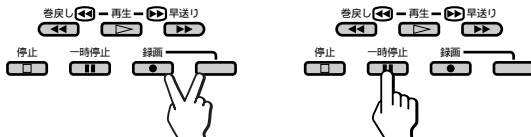
AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグを音声出力へつなぎます。音声は、左音声として記録されます。
モノラル音声で記録する場合は別売りの接続コードRK-C165をお使いください。

❶ 本機に録画用のカセットを、他のビデオに録画済みのカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。メニューの「画面表示」を選び「パネル」にする。

ビデオやテレビの画像が液晶画面に出る。

❸ 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐにII一時停止ボタンを押す。

❹ 他のビデオで再生を始める。または録画したいテレビ番組を受信する。

❺ 録画したい場面でII一時停止ボタンを押す。

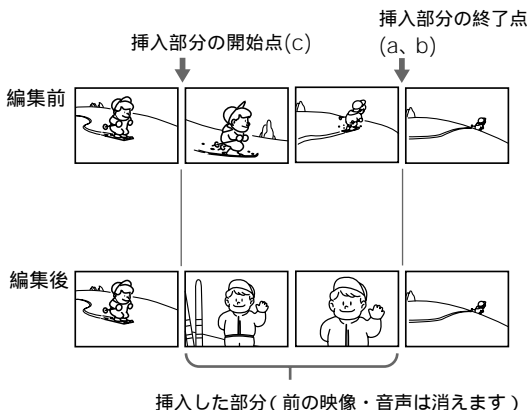
録画が始まる。

記録済みテープに画像と音声を挿入する

録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像や音声を挿入できます。

リモコンでのみ操作できます。

67ページまたは71ページの接続をし、他機に挿入したい部分の入ったテープを入れておきます。

挿入した部分（前の映像・音声は消えます）

ご注意

新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えますのでご注意ください。

新しく挿入された部分を再生すると

終了点の画像が乱れることがありますが、故障ではありません。

LPモード時は、開始点と終了点の画像と音声が乱れることがあります。

終了点を設定せずに録画するときは

手順3、4をとばします。

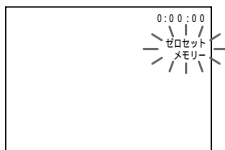
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 他機（再生側）で、挿入したい部分の始めを探し、再生一時停止状態にする。

❸ 本機で、挿入部分の終了点を探し、再生一時停止状態にする(a)。

❹ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す(b)。

「ゼロセットメモリー」が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、カウンター値が「0:00:00」になる。

❺ 本機で、挿入部分の開始点を探し、録画一時停止状態にする(c)。

❻ 本機と他機(再生機)の一時停止ボタンを同時に押す。

本機の挿入部分に、新たに再生側の映像と音声が記録され始める。

終了点(カウンター値「0:00:00」)付近で、自動的に本機は停止して、録画が終わり、ゼロセットメモリーが解除されます。

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順2からやり直す。

途中で止める

■停止ボタンを押す。

記録済みテープに音声を追加する－アフレコ

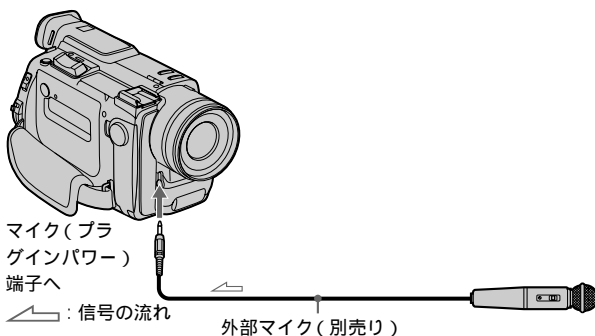
録画済みテープの指定した部分に音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。

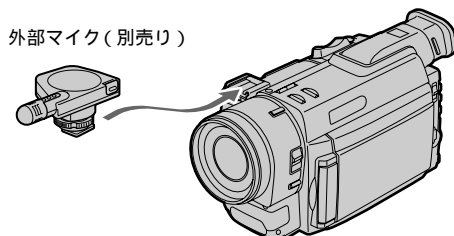
リモコンでのみ操作できます。

次の4つの方法のいずれかで、音声を録音してください。

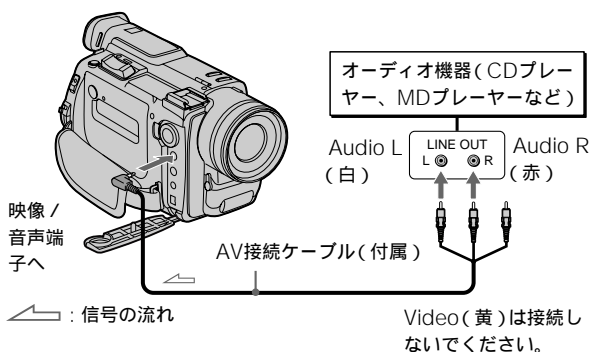
すべての接続をすると
追加する音声は、以下の順番で優先されて録音されます。
- マイク（プラグインパワー）端子
- インテリジェントアクセサリーシュー
- 映像／音声端子
- 内蔵マイク

i.LINK**ケーブル（DVケーブル）が接続されていると**
アフレコできません。

別売りの外部マイクでマイク端子からアフレコする場合

映像／音声端子にテレビなどをつないで画像と音声を確認することができます。アフレコする音声はスピーカーから出力されません。テレビかヘッドホンで確認してください。

別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューに接続してアフレコする場合

ご注意

映像／音声端子または内蔵マイクでアフレコするときは、S1映像端子、映像／音声端子から映像は出力されません。画像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はスピーカーかヘッドホンで確認してください。

映像／音声端子でアフレコする場合

内蔵マイクでアフレコする場合

接続は不要です。

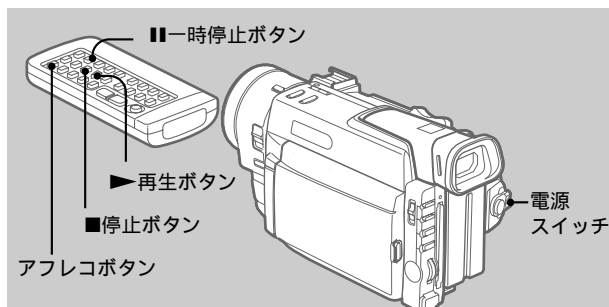
アフレコする

上記のいずれかの接続をして、次の操作をします。

❶ 本機に録画済みカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

使いこなす―編集―

次のページへつづく

ご注意

- 16BITモードで記録されたテープには、アフレコできません（91、146ページ）。
- 映像／音声端子またはマイク端子に何も接続していないときは、内蔵マイクからアフレコされます。
- LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。
- i DV端子からはアフレコできません。

より正確にアフレコするには
再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順3からアフレコをはじめると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

本機で録画されたテープに
アフレコすることをおすすめします。
他のビデオ（DCR-TRV900を含む）で録画したテープでアフレコすると音質が劣化することがあります。

アフレコ中にケーブルなどを抜いたりつないだりすると
アフレコが止まることがあります。

3 アフレコの開始点を決める。

►再生ボタンを押して再生し、アフレコを始めたいところで❚❚一時停止ボタンを押す。

4 リモコンのアフレコボタンを押す。

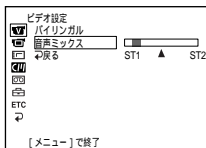
5 ❚❚一時停止ボタンを押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録します。撮影時の音声（ステレオ1）は出ません。

6 アフレコを終了したいところでリモコンの■停止ボタンを押す。

アフレコした音声を聞く

アフレコしたテープを再生する。

メニューの音声ミックスで撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音のバランスを調整します。

お買い上げ時はステレオ1のみの音声が出るように設定されています。メニューでバランスを調整しても、電源をはずして5分たつとバランスはステレオ1のみの音が出る設定に戻ります。

タイトルを入れる

CM のみ カセットメモリー付きカセットを使えば撮影中、または撮影後にタイトルを入れられます（インデックスタイトラー機能）。再生したときにタイトルを入れた場面から約5秒間タイトルが出ます。

あらかじめ記憶している8種類のタイトルと2種類の自分で作ったタイトルの中から内容にあったものを選べます（タイトルを作る→80ページ）。

ご注意

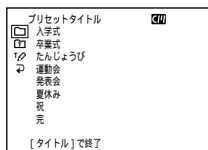
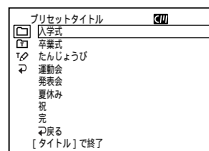
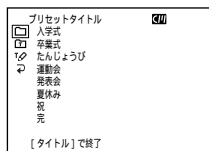
12文字をこえるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。12文字をこえるとサイズの決定後、「ちいさい」サイズに戻ります。

誤消去防止状態のカセットでは

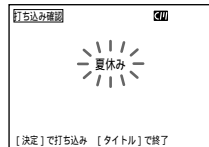
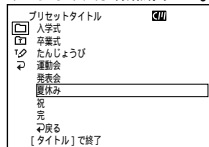
タイトルを入れられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

オリジナルタイトルを入れるときは

手順2で「」を選びます。オリジナルタイトルが作成されていないと、タイトル表示欄に「–––...」と表示されます。

❶ タイトルボタンを押す。

❷ コントロールダイヤルを回して、「」を選び、ダイヤルを押す。

❸ コントロールダイヤルを回して、入れたいタイトルを選びダイヤルを押す。

タイトルが点滅する。

次のページへつづく

設定表示と表示順

- 「色設定」
  しろ←→きいろ←→むらさき←→あか←→みずいろ←→みどり←→あお
- 「サイズ設定」
  ちいさい←→おおきい
- 「位置設定」
  1←→2←→3←→4←→5←→6←→7←→8←→9
  大きい数字になるほど位置が下になります。
  サイズ設定で「おおきい」を選んだときは、9の位置は選べません。

撮影の途中でタイトルを入れるときは

おしらせブザーは鳴りません。

1つのカセットに記憶できるタイトルは

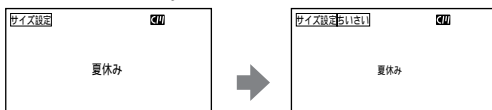
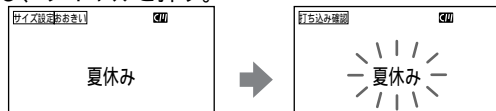
平均5文字で20タイトルです。ただし、カセットメモリーに日付データ／フォトデータ／カセットラベルデータが容量いっぱいに入っているときは、平均5文字で11タイトルです。１つのカセットのカセットメモリーに入る各データの容量は次の通りです。

- 日付データ　6つ
- フォトデータ　12枚
- カセットラベル1つ

❹ 色、サイズ、位置を選択する。

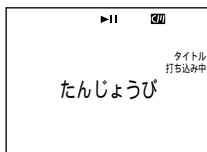
表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順5にすすむ。

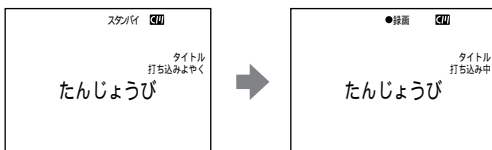
1 コントロールダイヤルを回して「色設定」または「サイズ設定」、「位置設定」を選び、ダイヤルを押す。

選べる項目が出る。

2 コントロールダイヤルを回して希望の項目を選び、ダイヤルを押す。

3 必要なだけ1、2を繰り返す。

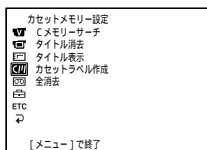
❺ タイトルを確認し、コントロールダイヤルを押す。

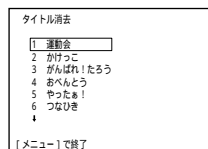
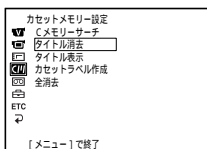
[再生中]、[再生一時停止中]、[撮影中] のとき

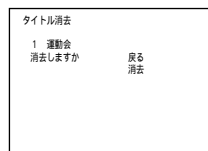
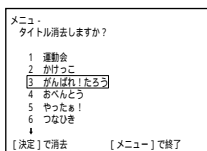
[打ち込み中] の表示が出る。約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

[撮影スタンバイ中] のとき

[打ち込みよやく] の表示が出る。スタート／ストップボタンを押して撮影を始めると同時に [打ち込み中] の表示になり、約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

タイトルを消す

❶ **メニューボタンを押してメニューを出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回してアイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「タイトル消去」を選び、ダイヤルを押す。**

タイトル消去画面が出る。

❹ **コントロールダイヤルを回して消したいタイトルを選び、ダイヤルを押す。**

「タイトル消去しますか？」の表示が出る。

❺ **消去するタイトルを確認し、コントロールダイヤルを回して「消去」を選び、ダイヤルを押す。**

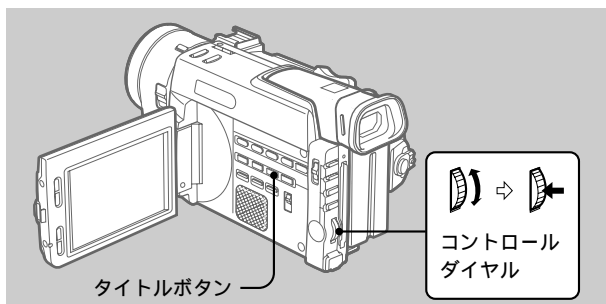
メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

タイトルを作る

20文字以内のタイトルを自分で作って2種類まで本機に記憶できます。

手順6で、作ったタイトルが20文字になると
それ以上の文字を選択することはできません。

撮影スタンバイ状態で、カセットを入れてタイトルを作成中に5分以上たつと自動的に電源が切れます
それまで作成したタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切」にしてから、もう1度はじめからやり直してください。
5分以上かかりそうなときは「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば電源は切れません。

1 ［撮影スタンバイ中］または［ビデオ］のとき**タイトルボタンを押す。**

2 コントロールダイヤルを回して、「T✎」を選び、ダイヤルを押す。

3 コントロールダイヤルを回して、1行目または2行目の「－－－…」を選び、ダイヤルを押す。

1行目はオリジナル1。2行目はオリジナル2。

［きごう］を選ぶと
アルファベットや数字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
［←］を選びます。一番後ろの文字が消えます。

❹ コントロールダイヤルを回して、希望の文字の入っている列を選び、ダイヤルを押す。

❺ コントロールダイヤルを回して、希望の文字を選び、ダイヤルを押す。

次の文字に移ります。

❻ 手順4、5を繰り返して希望のタイトルを作る。

❼ コントロールダイヤルを回して、［完成］を選び、ダイヤルを押す。

タイトルが記憶される。

❽ タイトルボタンを押して、タイトル画面を消す。

作成したタイトルを変更する

手順3で、変更したいオリジナルタイトルを選び、ダイヤルを押す。［←］を選び、ダイヤルを押して文字を消し、文字を選び直す。

カセットになまえを付ける－カセットラベル

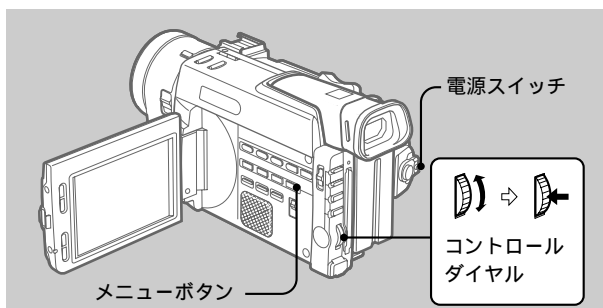
カセットメモリー付きカセットには、10文字までのなまえを付けることができます。

なまえを付けたカセットを入れ、電源を入れると、付けたなまえが自動的にファインダーや液晶画面、テレビ画面に約5秒間表示されます。

誤消去防止状態のカセットでは
カセットになまえをつけられません。
誤消去防止ツマミを元に戻してください。

カセットメモリーの容量がいっぱいのとき
マークが出ます。そのカセットに入っているタイトルを消せば、カセットになまえを付けられる容量ができます。

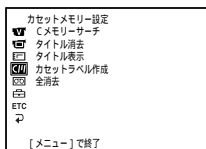
タイトルが入れてあると
カセットのなまえが表示されるときに、カセットに記憶されているタイトルが4つまで画面に出ます。

文字を入れるスペースが10文字分よりも少ないとき
カセットメモリー容量がいっぱいになっています。スペースが表示されている分だけ文字を入れることができます。

❶ なまえを付けたいカセットを入れる。

❷ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

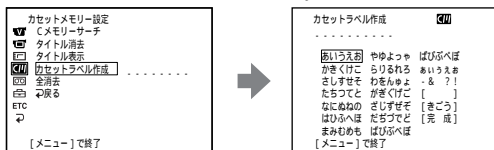
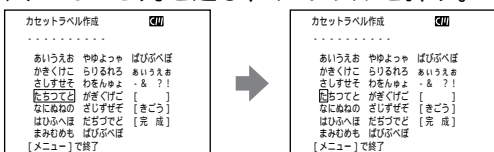
❸ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

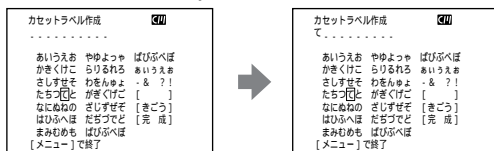
❹ コントロールダイヤルを回して、アイコン「CM」を選び、ダイヤルを押す。

カセットメモリー設定
Cメモリーサーチ
タイトル消去
タイトル表示
カセットラベル作成
全消去
ETC
［メニュー］で終了

[きごう]を選ぶと
アルファベットと記号が選べます。[かな]を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
[←] を選びます。一番後ろの文字が消えます。

❺ コントロールダイヤルを回して「カセットラベル作成」を選び、ダイヤルを押す。

カセットラベル作成画面が出る。

❻ コントロールダイヤルを回して希望の文字の入っている列を選び、ダイヤルを押す。

❼ コントロールダイヤルを回して希望の文字を選び、ダイヤルを押す。

次の文字に移ります。

❽ 手順6、7を繰り返して希望のカセットラベルを作る。

❾ コントロールダイヤルを回して「完成」を選び、ダイヤルを押す。

カセットラベルが記憶される。

作成したカセットラベルを消す

上の手順6で [←] を選んで消す。

作成したカセットラベルを変更する

カセットラベルを変更したいカセットを入れ、カセットラベルを作るときと同じ手順で作り直す。

バッテリー以外の電源で使う

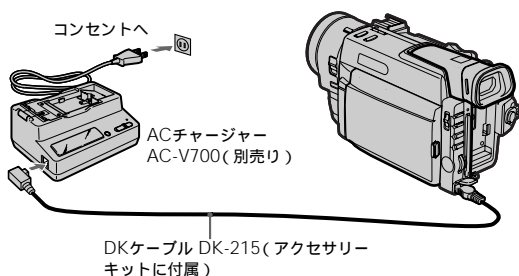
テープを再生するときなど、長時間使用するときは家庭用コンセントや自動車の電源を使うと、バッテリー切れの心配なく使えます。

ご注意

- コンセントにつないで使う場合は、ACチャージャーのモード切換スイッチをカメラ/ビデオ側にしてください。充電側にしていると電源は供給されません。
- DCチャージャーは、DC-V700またはDC-V515A以外は使用しないでください。

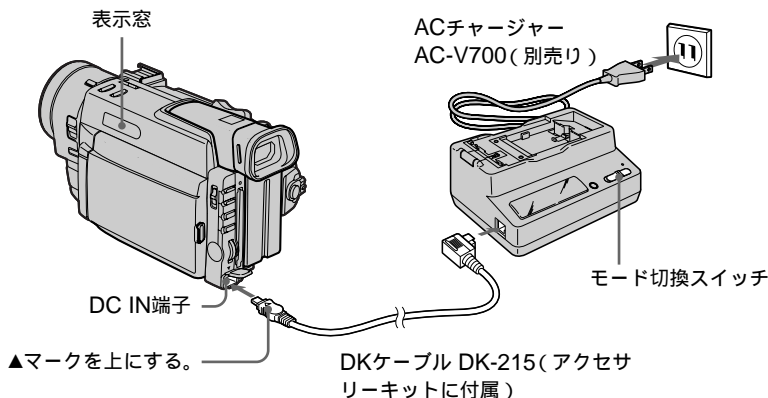
コンセントにつないで使うとき

接続コードをひっぱらないでください。プラグがコンセントから抜けることがあります。

コンセントにつないで使う

自動車電源につないで使う

DCチャージャーDC-V700（別売り）を接続コード、DKケーブルDK-215（アクセサリーキットに付属）を使って本機と自動車のシガレットライターソケットを接続してください。

本体に取り付けたバッテリーを充電する

本機に取り付けたバッテリーを充電することができます。（本体内充電）

ご注意

ACチャージャーに接続したDKケーブルを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

表示窓に表示されるバッテリー残量時間は

ビューファインダーでの連続撮影時間の目安です。実際の連続撮影時間とは異なることがあります。

バッテリー残量を計算するまでは

表示窓には“ – – – min ”が表示されます。

バッテリーの充電が終わったら

DKケーブルを、本機のDC IN端子から抜いて下さい。

1. **バッテリーを本機に取り付ける。（9ページ）**
2. **ACチャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」にする。**
3. **DC入力端子カバーを開け、DKケーブルを▲マークを上にして、本機のDC IN端子につなぐ。**
4. **DKケーブルをACチャージャーにつなぐ。**
5. **電源コードをコンセントにつなぐ。**

次のページへつづく

❻ 本機の電源スイッチを「切」にする。

充電が始まると、表示窓にバッテリー残量時間が表示される。

満充電

表示窓のバッテリーマークに「FULL」が表示されるまで充電したときの状態

実用充電

表示窓のバッテリーマークがすべて点灯するまで充電したときの状態

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-F550	約210分　（約150分）
NP-F750	約300分　（約240分）
NP-F950	約390分　（約330分）
NP-F530	約210分　（約150分）
NP-F730	約300分　（約240分）
NP-F930	約390分　（約330分）
NP-CF540	約210分　（約150分）

使い切ったバッテリーを充電したときの時間です。

メニューで設定を変える

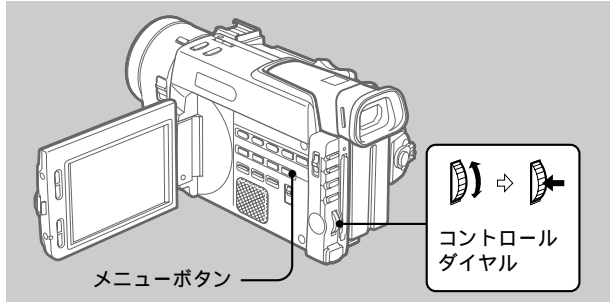
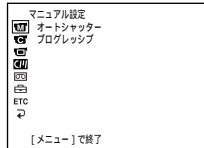
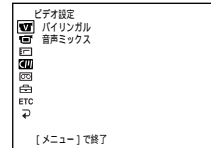
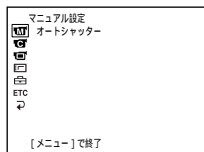
画面にあらわれるメニュー項目を、コントロールダイヤルで選択し、本機の工場出荷時の設定を一部変更することができます。次の順で選択します。

メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

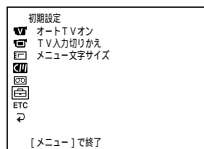
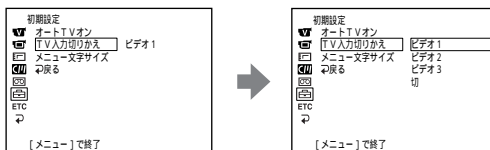
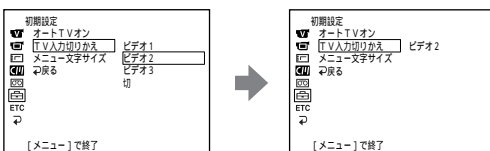
ご注意

対面撮影中は、液晶画面、ファインダーにメニュー画面が出ません。

メニュー項目は
以下の9つのアイコン（絵文字）で、区分けされています。

- M マニュアル設定
- C カメラ設定
- V ビデオ設定
- パネル／VF設定
- C/M カセットメモリー設定
- テープ設定
- メモリー設定
- 初期設定
- ETC その他

1 [撮影スタンバイ中]または[ビデオ]のとき
メニューボタンを押す。

撮影スタンバイ中のとき（「カメラ」のとき）

「ビデオ」のとき

「メモリー」のとき

2 **コントロールダイヤルを回して希望のアイコンを選び、ダイヤルを押す。**

次のページへつづく

❸ コントロールダイヤルを回して希望の項目を選び、ダイヤルを押す。

❹ コントロールダイヤルを回して設定を切り換え、ダイヤルを押す。

❺ 必要なだけ手順2〜4を繰り返す。

手順2に戻るには、コントロールダイヤルを回して「戻る」を選び、ダイヤルを押す。

メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	意味	電源スイッチの位置
M **オートシャッター**	●入	明るいとき、自動的に電子シャッターが働く。	「カメラ」「メモリー」
	切	明るいときでも、電子シャッターが働かない。	
プログレッシブ	●切	静止画／動画を全画素で記録しない。	「カメラ」
	入	静止画／動画を全画素で記録する。	
C **デジタルズーム**	入	ズームが12倍を超えるとデジタルズームが働く。（48倍まで）	「カメラ」
	●切	デジタルズームを使用しない。（ズームは12倍まで）	
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	「カメラ」
	入	ワイド録画モードにする。	
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」「メモリー」
	切	手ぶれ補正が働かない。（44ページ）	
AE**シフト**	—	AE（自動露出）の設定レベルを調節する。（45ページ）	「カメラ」「メモリー」
ゲインシフト	●0dB	ゲインを0dBに設定する。	「カメラ」「メモリー」
	−3dB	ゲインを−3dBに設定する。（46ページ）	
コマ撮り	●切	コマ撮り機能を働かせない。	「カメラ」
	入	コマ撮り機能を働かせる。（54ページ）	
インターバル録画	入	インターバル録画機能を働かせる（51ページ）。	「カメラ」
	●切	インターバル録画機能を働かせない。	
	設定	インターバル録画機能のウエイトタイムと録画タイムを設定する。	
V **バイリンガル**	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（124ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。（124ページ）	
	サブ	右音声または副音声で再生する。（124ページ）	
音声ミックス	—	音声モードST1←→ST2間のバランスを調節する。（76ページ）	「ビデオ」

メニュー項目の設定は
プログレッシブ、バイリンガル、音声ミックス、マイク音レベル、リモコンは電源をはずして5分たつと、お買い上げ時の設定に戻ります。また、コマ撮り、インターバル録画は電源スイッチを切ると、「切」になります。

その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持しています。

メニューで設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	意味	電源スイッチの位置
パネルバックライト	●明るさノーマル	通常はこの位置へ。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	液晶画面を明るくする。	
パネル色のこさ	—	液晶画面の色のこさを調節する。（93ページ）	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
ファインダー明るさ	—	ファインダーの明るさを調節する。（94ページ）	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
ゼブラ	●切	ゼブラパターンを表示させない。	「カメラ」「メモリー」
	入	ゼブラパターンを表示させる（43ページ）。	
連写	●切	連写しない。	「メモリー」
	入	4連写する。（STDモードの場合）（109ページ）	
	マルチ画面連写	9連写する。（109ページ）	
画質	スタンダード（STD）	メモリーカードスロットを使い、標準の画質で静止画を記録する。	「ビデオ」「メモリー」
	ファイン（FIN）	メモリーカードスロットを使い、高画質で静止画を記録する。	
	●スーパーファイン（SFN）	メモリーカードスロットを使い、最も高画質で静止画を記録する。	
プロテクト	●切	静止画の誤消去防止指定をしない。通常はこの位置へ。	「ビデオ」「メモリー」
	入	静止画を誤消去しないようにする。（114ページ）	
スライドショー	—	スライドショーをする。（121ページ）	「メモリー」
全消去	—	静止画を消去する。（117ページ）	「メモリー」
フォーマット		フォーマットする。（103ページ）	「メモリー」
オートフォトコピー	—	静止画をコピーする。（106ページ）	「ビデオ」
Cメモリーサーチ	●入	サーチ時にカセットメモリーを使用する。（59ページ）	「ビデオ」
	切	サーチ時にカセットメモリーを使用しない。	

パネルバックライトで「明るい」を選んだとき
撮影時のバッテリー使用時間が約1〜2割短くなります。
バッテリー以外の電源で使うときはパネルバックライトは自動的に「明るい」になります。このとき、メニューにパネルバックライトの項目は表示されません。

アイコン／項目	設定	意味	電源スイッチの位置
タイトル消去	—	タイトルを消去する。（79ページ）	「ビデオ」「カメラ」
タイトル表示	●入	タイトルを入れてあるところでタイトルを出す。	「ビデオ」
	切	タイトルを出さない。	
カセットラベル作成	—	カセットになまえを付ける。（82ページ）	「ビデオ」「カメラ」
全消去	—	カセットメモリーのデータをすべて消去します。	「ビデオ」「カメラ」
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。通常はこの位置へ。	「ビデオ」「カメラ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。	
音声モード	●12BIT	2つのステレオ音声が記録できる。通常はこの位置へ。	「ビデオ」「カメラ」
	16BIT	高音質で1つのステレオ音声が記録できる。	
マイク音レベル	●オート	録音レベルを自動で調節する。	「ビデオ」「カメラ」
	マニュアル	録音レベルを手動で調節する。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。1. 電源／テープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。2. ▷再生ボタンまたは画面表示ボタンを押してから8秒間。3. 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。	「ビデオ」「カメラ」
	入	テープ残量を常に表示する。	
データコード	●日付／カメラデータ	データコードボタンを押したとき日付・時刻とカメラデータを表示する。	「ビデオ」
	日付データ	日付・時刻を表示する。	
日時あわせ	—	時計を合わせ直すとき。（95ページ）	「カメラ」「メモリー」
オートTVオン	●切	テレビの電源を自動的に入れない。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	入	LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの電源を入れる。（24ページ）	

LPモードの録画時間は
SPモードの録画時間の1.5倍となります。

LPモードについて
- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- アフレコしたいときはSPモードで録画してください。LPモードで録画したテープにはアフレコできません。
- テープの途中で、SP/LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードを「16BIT」にすると
アフレコできません。

次のページへつづく

メニューで設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	意味	電源スイッチの位置
TV入力切りかえ	●ビデオ1 ビデオ2 ビデオ3	LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの入力を切り換える。（24ページ）	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	切	テレビの入力を切り換えない。	
メニュー文字サイズ	●ノーマル	通常の大きさでメニュー表示をする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	2×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。	
デモモード	●入	デモンストレーションを表示する。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	
ETC 時差補正	ー	時差の設定をする（97ページ）。	「カメラ」「メモリー」
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート／ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。 通常はこの位置へ。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ノーマル	撮影スタート／ストップ時や、誤った操作をしたときにブザーが鳴る。	
	切	ブザー音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンで誤動作するときはこの位置へ。	
画面表示	●パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」「メモリー」
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。	
カラーバー	●切	カラーバーを表示しない。	「カメラ」
	入	カラーバーを表示する。	
DVエディット	ー	i.LINK ケーブル（DVケーブル）でつないだ機器にDVシンクロエディットでダビングするときに選ぶ。（69ページ）	「ビデオ」

デモモードについて

- カセットが入った状態では操作できません。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。カセットを入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。再び「スタンバイ」にするにはメニューで「入」にしたまま電源スイッチを一度「切」にし、「カメラ」に戻します。
- すぐにデモンストレーションを見るには、カセットを取り出してメニューでデモモードを選び、「入」にしてメニュー画面を消します。

被写体に接近して撮るとき

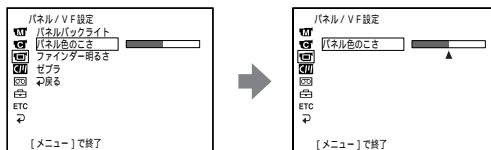
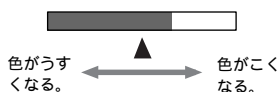
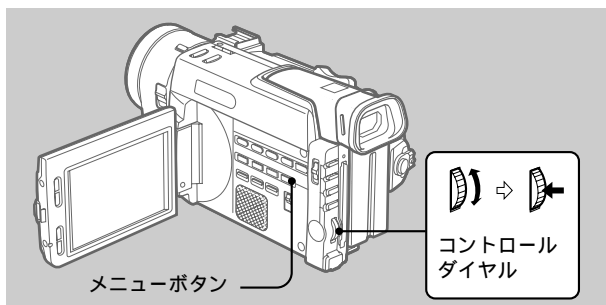
録画ランプが「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合、録画ランプを「切」にすることをおすすめします。

液晶画面の色のこさを調節する

❶ ［撮影スタンバイ中］または［ビデオ］のとき
メニューボタンを押してメニューを出す。

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「📹」を選び、ダイヤルを押す。**

パネル／ＶＦ設定
パネルバックライト
パネル色のこさ
ファインダー明るさ
ゼブラ
ETC
［メニュー］で終了

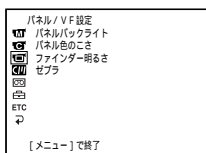
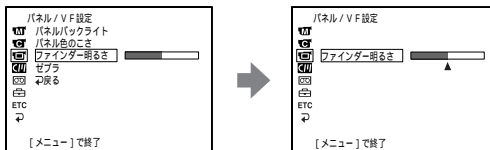
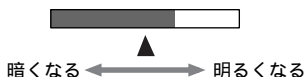
❸ **コントロールダイヤルを回し、「パネル色のこさ」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ **コントロールダイヤルを回し、色のこさを調節して、ダイヤルを押す。**

❺ **メニューボタンを押す。**

メニュー画面が消える。

ファインダーの明るさを調節する

❶ [撮影スタンバイ中]または[ビデオ]のとき
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❷ **コントロールダイヤルを回して、アイコン「」を選び、ダイヤルを押す。**

パネル／ＶＦ設定
パネルバックライト
パネル色のこさ
ファインダー明るさ
ゼブラ
ETC
［メニュー］で終了

❸ **コントロールダイヤルを回して「ファインダー明るさ」を選び、ダイヤルを押す。**

❹ **液晶画面を閉じてファインダーをのぞきながらコントロールダイヤルを回し、明るさを調節して、ダイヤルを押す。**

❺ **液晶画面を開けてメニューボタンを押す。**

メニュー画面が消える。

日付・時刻を合わせ直す

お買い上げ時にあらかじめ日付・時刻は設定されていますが、1年近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（136ページ）

- 海外に行くとき
- しばらく使わずにいて時計が合っていないとき

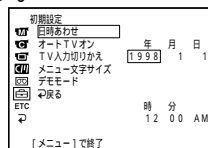
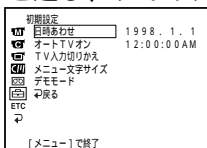
日時を設定しないと
テープには「– –. – –. – –」が、フロッピーディスクまたはPCカードには「80.1.1」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

❶ [撮影スタンバイ中] に**メニューボタンを押してメニューを出す。**

❷ **コントロールダイヤルを回してアイコン「🧰」を選び、ダイヤルを押す。**

❸ **コントロールダイヤルを回して「日時あわせ」を選び、ダイヤルを押す。**

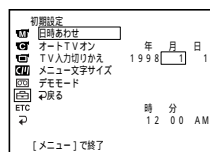
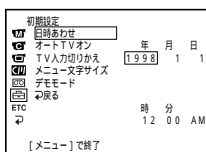
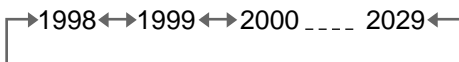
次のページへつづく

日付・時刻を合わせ直す（つづき）

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

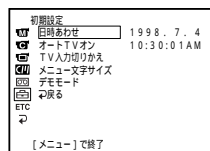
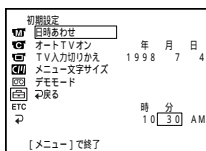
❹ 「年」を合わせる。

コントロールダイヤルを回して「年」を合わせ、ダイヤルを押す。

年表示は次のように変わる。

→1998↔1999↔2000 ＿＿＿＿ 2029←

❺ 手順4と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

❻ 「分」と「秒」を合わせる。

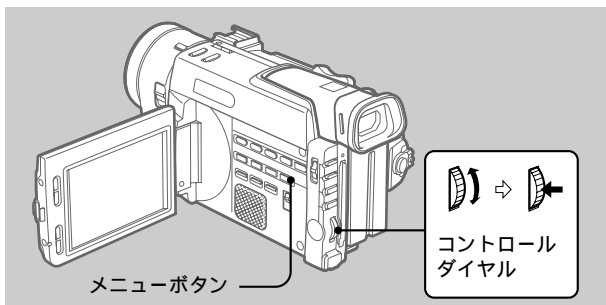
「分」を合わせて時報と同時にコントロールダイヤルを押す。時計が動き始める。

❼ メニューボタンを押す。

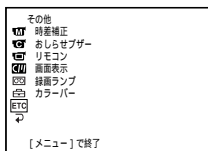
メニュー画面が消える。

時差補正

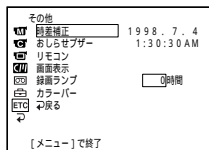
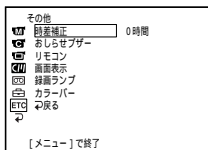
時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。また、時差を0に設定することにより、簡単にもとの場所の時間に戻すこともできます。

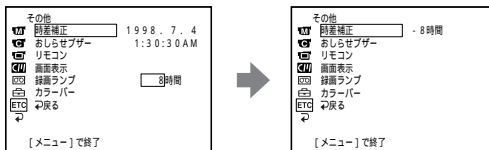
海外などの時差がある場所で撮影するときなど。

時刻が設定されていないと
時差補正の設定はできません。

1. [撮影スタンバイ中] に**メニューボタンを押してメニューを出す。**

2. **コントロールダイヤルを回してアイコン「**ETC**」を選び、ダイヤルを押す。**

3. **コントロールダイヤルを回して「時差補正」を選び、ダイヤルを押す。**

使いこなす—その他の使いかた—

次のページへつづく

❹ コントロールダイヤルを回して時差を設定し、ダイヤルを押す。

時刻も時差に合わせて変わる。

❺ メニューボタンを押す。

メニュー画面が消える。

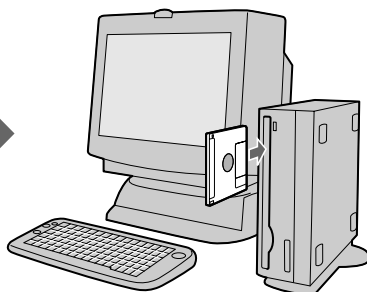
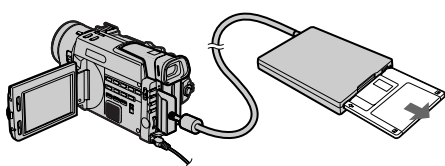
メモリーカードスロットを使う－はじめに

本機はPC Card Standard のATA仕様に準拠したメモリーカードスロットを装備しています。

付属のフロッピーディスクアダプターまたは別売りのメモリースティックやPCカードを接続すると、静止画をフロッピーディスクやメモリースティック、PCカードに取りこむことができます。さらに、フロッピーディスクやメモリースティック、PCカードを使用して、マビカやコンピューターなどに画像データを取りこむことができます。

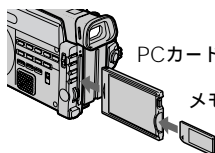
ご注意！

フロッピーディスクアダプターをつけたまま本機を持ち歩かないでください！

（使用例） フロッピーディスクアダプターで、フロッピーディスクに画像を取りこみ、パソコンで見る。

機能説明の方法

特に説明をしている場合をのぞき、この章で説明するイラストは、付属のフロッピーディスクアダプターのイラストを使用します。

メモリースティックの使用をおすすめします

別売りのメモリースティック/PCカードキットMSAKIT-PC4Aの使用をおすすめします。メモリースティックは、映像・音声などをデジタルデータとして記録できる新世代メディアです。操作のしかたはPCカードと同じです。詳しくはメモリースティック/PCカードキットの取扱説明書をお読みください。

使用できるPCカードの種類

PC Card Standard のATA仕様に準拠したTYPE II PCカードをお使いください。本機でフォーマットしてからお使いください。一度フォーマットすると、容量64MBまで対応しています。

動作確認済みPCカード

日立

HB286008A3、HB286015A3、HB286030A3、HB286045A3、HB286060A3

PCカードの取扱説明書もあわせてご覧ください。

付属のフロッピーディスクアダプターについて

本機専用のアダプターです。本機以外の機器に接続してご使用になった場合の動作は保証しません。

使用できるフロッピーディスクは

- サイズ：　3.5インチ
- タイプ：　2HD
- 容 量：　1.44Mバイト
- フォーマット：　MS-DOSフォーマット（512バイト×18セクタ）

上記以外の3.5インチ2HDフロッピーディスクで使用する場合は、本機でフォーマットしてお使いください。

次のページへつづく

画像の圧縮形式について（JPEG）
本機は、撮影した画像データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「. jpg」です。
同時にインデックス用にサムネイルデータも記録しています。インデックス表示用のデータは本機以外では見ることはできません。

画像のデータファイル名
MVC00001.jpg： PCカードに保存した例
MVC-0001.jpg： フロッピーディスクに保存した例

必ず安定した場所に置いてお使いください
フロッピーディスクアダプターをぐらついた台の上や傾いたところなどに置いたり、手で持ってお使いになると、製品が落ちるなどしてけがの原因になるだけでなく、正常に動作しないこともあります。

振動や衝撃を与えないでください
誤作動や画像が記録できなくなったりするだけでなく、フロッピーディスクが使えなくなったり、撮影済みの画像データが破損することがあります。また、ケーブルに無理な力を加えないでください。

湿気にご注意ください
フロッピーディスクアダプターは、水に濡れると動作しません。濡らさないようご注意ください。
また、温度差のある場所へ移動すると、フロッピーディスクアダプターに水滴が付く結露現象が起こることがあります。結露が起きたときは135ページの記載に従って、結露を取り除いてからご使用ください。

フロッピーディスクについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、必ずケースなどに入れて保管してください。
- クリーニングディスクは2HDタイプのみ使用できます。
- 3.5インチ2HDフロッピーディスクでも、使用環境によっては画像の読み書きができないものがあります。そのときは別の銘柄のフロッピーディスクをご使用ください。

電源について

メモリーカードスロットに関する操作を行うときは、別売りのACチャージャーを使って電源をコンセントから取ることをおすすめします。

バッテリー残量表示について
本機は、あと何分撮影／再生できるかを液晶画面に表示しますが、メモリーカードスロットを使用中は、消費電力が増えますので、正しい時間が表示されなくなることがありますが、故障ではありません。

電源の供給
別売りのビデオライトなどを本機のアクセサリーシューに取り付けて使用しているとき、フロッピーディスクやPCカードに画像を記録すると、一時的にアクセサリーシューへ電源が供給されなくなり、ビデオライトが消えることがあります。
それ以外の動作に支障はありません。

バッテリーケースを使用しているときは
EBP-L7など、乾電池を使用するバッテリーケースを使用しているときは、フロッピーディスクアダプターを使った操作はできません。画面に『" インフォリチウム "バッテリーを使ってください』と表示されます。

画像の再生互換性は

他機で作成した画像の本機での再生、本機で作成した画像の他機での再生については、保証いたしません。

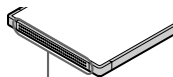
ご注意

メモリーカードスロットに指や物を入れないでください。

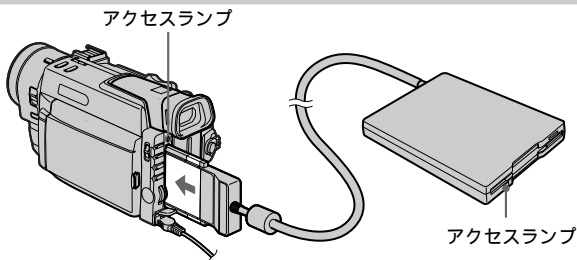
アクセスランプ点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、メモリーカードスロットに接続している機器を抜いたり、バッテリーを取り出したりしないでください。画像データが破壊されることがあります。

PCカードおよびフロッピーディスクアダプターのメモリースロット接続部について
記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。
- 修理や改造、分解などをしないでください。
- 直射日光の当たる場所、極端に高温／低温の場所、湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- カードに液体をこぼさないでください。
- 折り曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

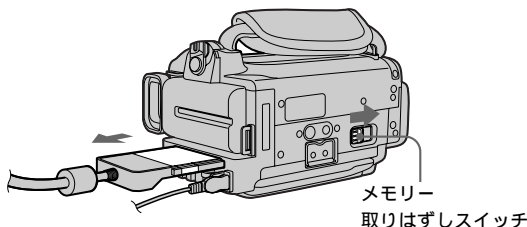
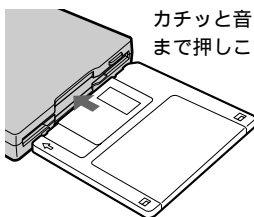
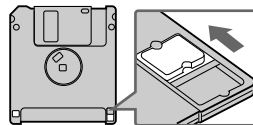
PCカードが取り出しにくいときは
バッテリーをはずしてからPCカードを取り出してください。

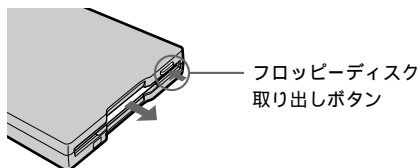
メモリースロット接続部の先端は
指先などでさわらないでください。

メモリースロット接続部の先端

ご注意
空のフロッピーディスクアダプターを本体に接続し、その後にフロッピーディスクを入れても、メモリー関係のボタンを操作しない限り、[icon] は消灯しません。

フロッピーディスクアダプターまたはPCカードを接続する

表面を液晶画面側に向け、カチッと音がするまで押しこむ。

フロッピーディスクアダプターまたはPCカードを取り出すとき

メモリー取りはずしスイッチを矢印の方向にスライドする。

フロッピーディスクを入れる

静止画を撮るときは、タブが誤消去防止になっていないことを確認する。

フロッピーディスクを取り出すとき

フロッピーディスク取り出しボタンを押す。

メモリーカードスロットを使う

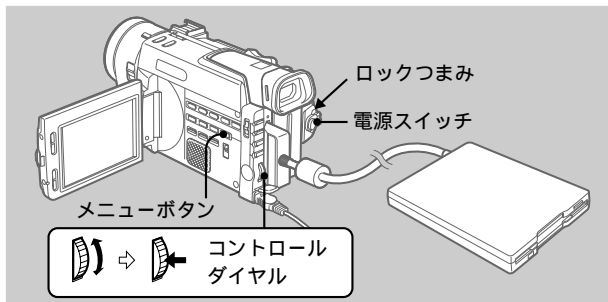
画質モードの違いは
画像はJPEGという方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量が画質モードにより、次のようになります。
（画素数は、画質モードに関係なく640×480で、圧縮前のデータ量は約600Kバイトです。）

スーパーファインモード	約150Kバイト
ファインモード	約100Kバイト
スタンダードモード	約60Kバイト

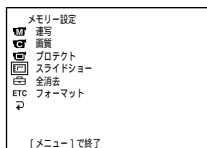
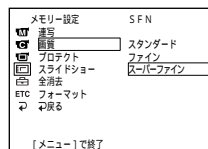
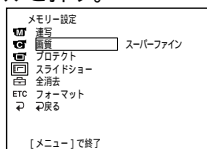
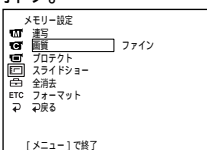
1枚のフロッピーディスクに記録できる枚数の目安
画質モードの設定および被写体の状況で撮影枚数が異なります。
SFN（スーパーファイン）
約7〜8枚
FIN（ファイン）
約14〜16枚
STD（スタンダード）
約23〜27枚

ご注意
画像によっては、画質モードを変えても、画質に差がないことがあります。

画質モードを選ぶ

あらかじめ静止画記録時の画質を選んで記録できます。画質モードを選ばないと自動的に「スーパーファイン」で記録されます。

1 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

2 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

3 コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。

4 コントロールダイヤルを回して「画質」を選び、ダイヤルを押す。

5 コントロールダイヤルを回して画質を選び、ダイヤルを押す。

6 メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

画質の設定について

設定	意味
スーパーファイン SFN	最も高画質で記録するときに使います。記録可能な静止画の数は、「ファイン」より減ります。約1／4に圧縮されます。
ファイン FIN	画質を優先するときに使います。約1／6に圧縮されます。
スタンダード STD	標準の画質です。約1／10に圧縮されます。

ご注意

- フォーマットするとフロッピーディスクまたはPCカードの内容はすべて失われます。
  フォーマットする前に内容を確認してください。画像にプロテクトがかかっていても消去されますのでご注意ください。
- 必ずバッテリーが充分に充電された状態でフォーマットしてください。
  フォーマットには最大約3分かかります。
- 「フォーマット中」と表示されている間は、電源スイッチを切り換えたりボタン操作をしないでください。

フロッピーディスクまたはPCカードをフォーマット（初期化）する

1 フロッピーディスクをフォーマットする場合は、フロッピーディスクアダプターにフロッピーディスクを入れる。

PCカードをフォーマットする場合は、メモリースロットにPCカードを入れる。

2 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。

本体のロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

3 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

4 コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。

5 コントロールダイヤルを回して「フォーマット」を選び、ダイヤルを押す。

6 さらにコントロールダイヤルをまわして右側の「フォーマット」を選び、ダイヤルを押す。

「フォーマットします」の表示が出る。

7 もう1度コントロールダイヤルを押す。

「フォーマット中」と表示され、フォーマットが始まる。終了すると「完了」と表示が出る。

メモリーカードスロットを使う

ミニDVテープの画像を静止画として取りこむ

ミニDVテープに記録された画像を、フロッピーディスクまたはPCカードに静止画として記録することができます。

また、ライン入力されている画像を取りこんで、フロッピーディスクまたはPCカードに静止画として記録することもできます。

アクセスランプ点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、メモリーカードスロットに接続している機器を抜いたり、バッテリーを取り出したりしないでください。画像データが破壊されることがあります。

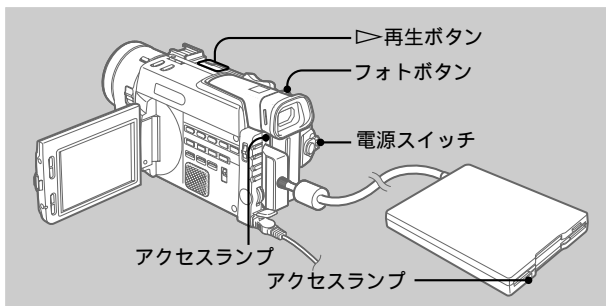
画面に「メモリーがいっぱいです」と表示されたら
PCカードまたはフロッピーディスクの容量がいっぱいです。

画面に「メモリーを確認してください」と表示されたら
フォーマットしていないなど、認識されないPCカードまたはフロッピーディスクを使用しています。フォーマット形式をご確認ください。

再生中にフォトボタンを軽く押すと
テープは一時停止します。

電源を入れて最初に静止画を取り込むときは
データの書き込みに時間がかかることがありますが故障ではありません。

ミニDVテープに記録された音声は
記録できません。

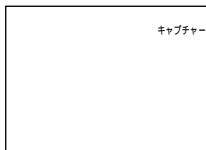
タイトルは
記録できません。フォトボタンを押し込んで、画像を記録しているときはタイトルは表示されません。

- 録画済みのミニDVテープを入れておいてください。
- あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

❶ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ▷再生ボタンを押す。

ミニDVテープの画像が映る。

❸ 画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

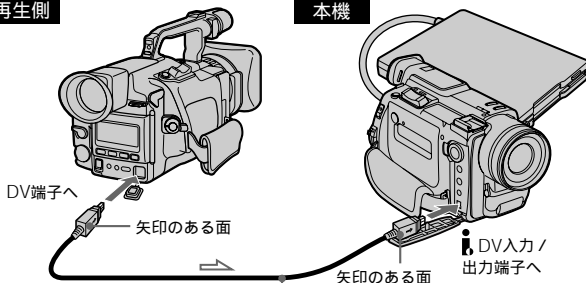
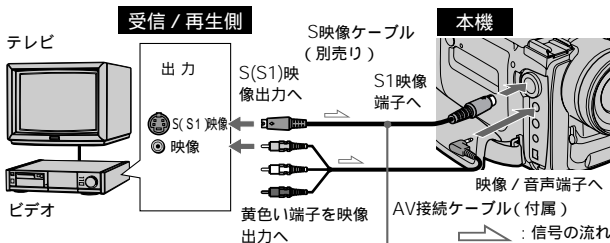
キャプチャー

ミニDVテープの画像が一時停止する。このとき記録はされません。

❹ フォトボタンを強く押し込む。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像がフロッピーディスクまたはPCカードに記録される。ミニDVテープの画像は再生に戻る。

他機をつないで静止画を取りこむ

i. DV入力／出力端子から取りこむ場合

映像入力端子から取りこむ場合

S(S1)映像端子付きビデオやテレビにつなぐ場合、
この接続を行うと再生画像がより鮮明になります。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
（AV接続ケーブルの黄色いプラグをつなぐ必要はありません。）

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューのETCの項目の「画面表示」を「パネル」にする。

他機の画像が液晶画面に映ります。

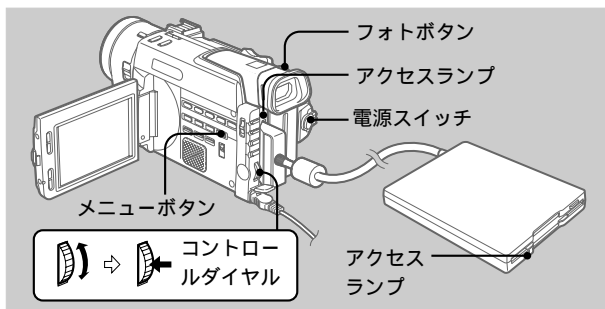
❷ 他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。

❸ 104ページの手順3〜4を行う。

ミニDVテープの静止画を自動記録する—オートフォトコピー

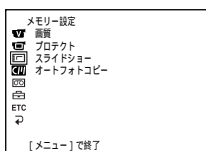
サーチ機能を使って、ミニDVテープに記録されている静止画のみをフロッピーディスクまたはPCカードに順次取りこんで、記録することができます。

アクセスランプ点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、メモリーカードスロットに接続している機器を抜いたり、バッテリーを取り出したりしないでください。画像データが破壊されることがあります。

ミニDVテープの静止画をすべてコピーしたいときは
ミニDVテープを最初まで巻き戻してから、コピーを行ってください。

- 録画済みのミニDVテープを入れて、巻き戻しておいてください。
- あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

❶ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

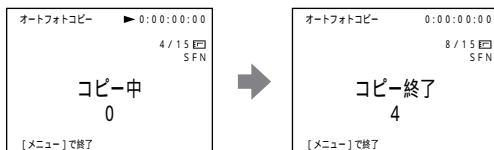
❸ コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。

途中でフロッピーディスクを入れかえると

前のフロッピーディスクに記録した画像データのうち、最後の画像から再び記録し始めます。

❹ コントロールダイヤルを回して「オートフォトコピー」を選び、ダイヤルを押す。

「フォトボタンを押してください」と表示される。

❺ フォトボタンを強く押し込む。

ミニDVテープの静止画がフロッピーディスクまたはPCカードに記録される。コピーされた静止画の数が表示され、コピーが終了すると、「コピー終了」と表示される。

コピーを中止する

メニューボタンを押してください。

フロッピーディスクまたはPCカードの容量がいっぱいになると

「メモリーフル」が表示され、コピーは終了します。

フロッピーディスクまたはPCカードを入れ換え、もう1度手順1から操作してください。

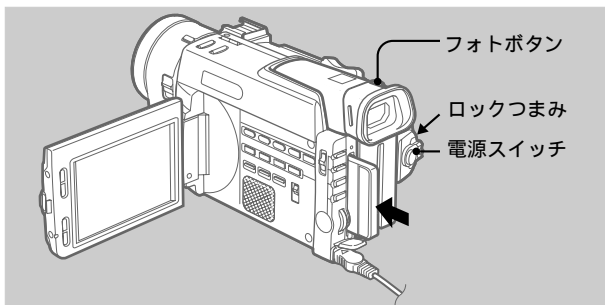
別売りのPCカードに静止画を撮る－メモリーフォト撮影

静止画を全画素（プログレッシブ）で、別売りのPCカードに記録することができます。

電源スイッチを「メモリー」にすると
デジタルズーム（倍率12倍以上）、ワイドTV、デジタルエフェクト、ピクチャーエフェクト、タイトルは使えません。

静止画を記録中は
電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

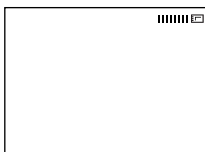
別売りのビデオライトなどを本機のアクセサリーシューに取り付けて使用していると
PCカードに画像を記録するとき、一時的にアクセサリーシューへ電源が供給されなくなり、ビデオライトが消えることがあります。故障ではありません。

あらかじめPCカードを挿入しておいてください。

❶ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

「カシャ」とシャッター音がして、画像が静止画になる。
このとき記録はされません。

❸ フォトボタンを強く押し込む。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像がPCカードに記録される。

連写の枚数は
画質モードによって違います。

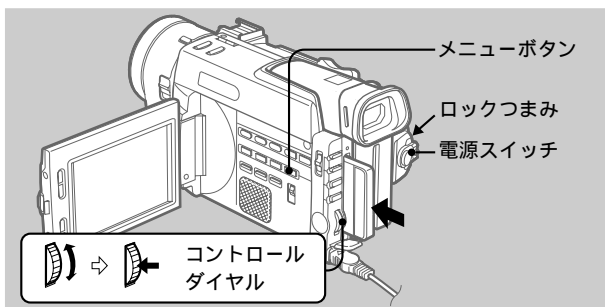
スーパーファイン	2枚
ファイン	3枚
スタンダード	4枚

ビデオフラッシュライト（別売り）は
本機のアクセサリーシューから電源を供給してご使用中は、連写/マルチ画面連写をしても発光しません。

連続して撮る（連写）

あらかじめ下記の設定をしてメモリーフォト撮影をすると、以下の連写ができます。

通常の連写
連続して2〜4枚の画像を連続撮影する。

マルチ画面連写
9枚の静止画を連続撮影して9分割の画面に表示する。

❶ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。**

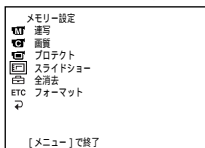
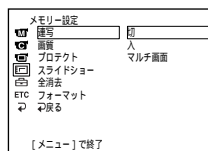
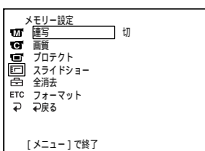
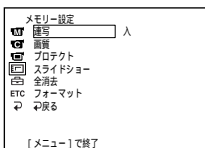
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

❷ **メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

メモリーカードスロットを使う

❸ コントロールダイヤルを回して、アイコン「 」を選び、ダイヤルを押す。

メモリー設定
連写
画質
プロテクト
スライドショー
全消去
ETC フォーマット

［メニュー］で終了

❹ コントロールダイヤルを回して「連写」を選び、ダイヤルを押す。

❺ コントロールダイヤルを回して設定を選び、ダイヤルを押す。

❻ メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

連写の設定について

設定	意味（画面に出る表示）
切	連続して撮影しません。
入	約0.8秒間隔で2～4枚の静止画を連続して撮影します。（ ）
マルチ画面連写	約0.3秒間隔で9枚の静止画を連続して撮影し、9分割された1つの画面に表示します。（ ）

静止画を見る－メモリーフォト再生

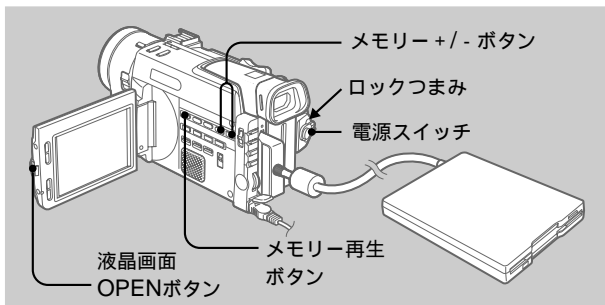
PCカードまたはフロッピーディスクに記憶してある静止画を見ることができます。

また、インデックス表示をすると、画像を6枚ずつ表示することができます。

テレビで見るときは

- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
  LASER AVLINKによる再生はできません。
- テレビや液晶画面でメモリーフォト再生をすると、画質が劣化しているように見えることがありますが、故障ではありません。データ上は問題ありません。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーからピーという音（ハウリング）が出ることがあります。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

本機で再生できないことがあります。

あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

1 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

2 液晶画面OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

3 メモリー再生ボタンを押す。

最後に撮影した画像が出る。

4 メモリー+/－ボタンを押して、静止画を選ぶ。

前の画像を見るときは、メモリー－ボタンを押す。

次の画像を見るときは、メモリー＋ボタンを押す。

メモリーフォト再生を止める

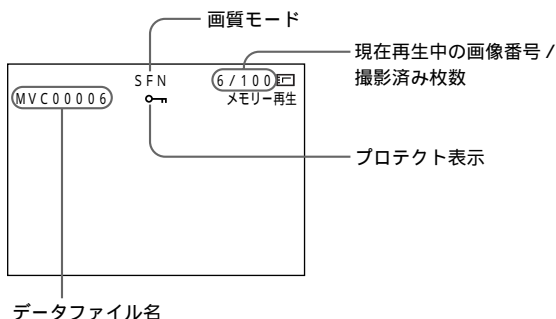
もう1度メモリー再生ボタンを押す。

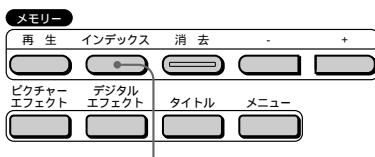
ご注意

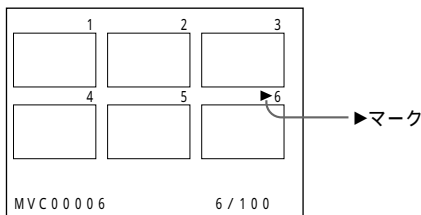
インデックス表示をしているときの画像右上の番号は、フロッピーディスクまたはPCカードの記録順を示す番号です。データファイル名（100ページ）とは違いますのでご注意ください。

画質モード表示は
撮影時の画質モードと異なることがありますが、故障ではありません。画質モードはデータファイルの容量によって表示されます。例えば、スーパーファイン（SFN）で撮った画像でも容量が小さいと、FINやSTDと表示されることがあります。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
インデックス表示をすることはできません。

静止画再生中の画面表示

画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

撮影した画像を6枚ずつ一度に再生できます。画像を検索するときなどに便利です。

メモリーインデックスボタンを押す。

インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示される。

- 次の6枚を見るときは、メモリー＋ボタンを押し続ける。
- 前の6枚を見るときは、メモリー－ボタンを押し続ける。

1枚の表示（シングル表示）に戻す

メモリー＋/－ボタンで▶マークを表示したい画像に移動し、メモリー再生ボタンを押す。

パソコンで見る

本機で撮影した画像データはJPEG方式で圧縮されています。

JPEG画像を見ることのできるアプリケーションがインストールされているパソコンで、フロッピーディスクまたはPCカードの画像を見ることができます。

画像の取り込みなど詳しい操作方法については、各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

例：Windows 95がインストールされているパソコンでの操作

1 **Windows 95を起動し、フロッピーディスクをパソコンのディスクドライブに入れる。**

2 **[マイコンピュータ]を開き、[3.5インチFD]をダブルクリックする。**

3 **見たい画像のファイルをダブルクリックする。**

ファイル名について

本機では画像をJPEG（拡張子.jpg）方式で圧縮・保存していますが、同時にインデックス用にサムネイルデータも記録しています。インデックス表示用のデータは本機以外のパソコンなどでは見ることはできません。

推奨OS／アプリケーション例

OS
- Windows 3.1
- Windows95
- Windows NT3.51以降など

アプリケーション
- Microsoft Internet Explorerなど

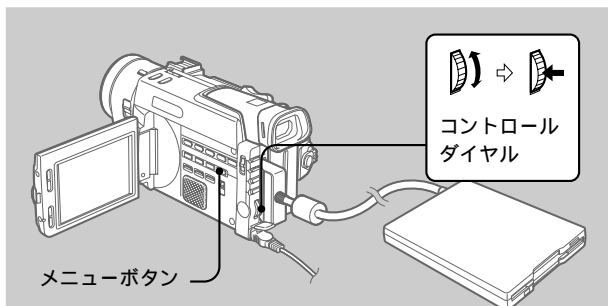
ご注意

- マッキントッシュではMac OS System 7.5以降のPC Exchangeを使うと、本機で撮影したフロッピーディスクまたはPCカードを使用することができます。画像を開くにはマッキントッシュ用アプリケーションが別途必要です。
- 本機で記録した画像をパソコンで見ると、入力時の映像信号の状態によっては、画面の端に帯が出ることがあります。故障ではありません。

大事な画像を残す－プロテクト

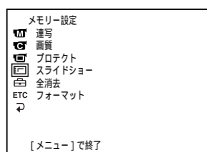
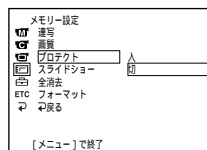
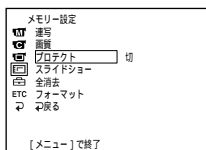
大事な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

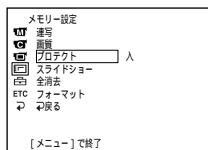
ご注意

フォーマットするとフロッピーディスクの内容はすべて失われます。
フォーマットする前に内容を確認してください。画像にプロテクトがかかっていても消去されますのでご注意ください。

あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

❶ プロテクトする画像を表示する。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ コントロールダイヤルを回して、アイコン「▭」を選び、ダイヤルを押す。

❹ コントロールダイヤルを回して「プロテクト」を選び、ダイヤルを押す。

❺ コントロールダイヤルを回して「入」を選び、ダイヤルを押す。

表示されている画像にプロテクトがかかる。

❻ メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

プロテクトされた画像のファイル名に「o━π」マークがつきます。

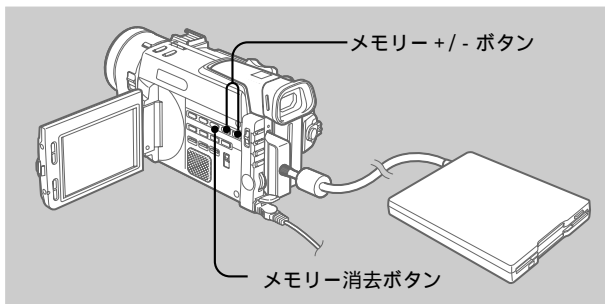
プロテクトを解除する

手順5で「切」を選び、コントロールダイヤルを押す。

画像を消す–消去

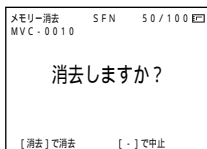
ご注意

- プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像はもとに戻せません。消去する前に内容を確認してください。

不要になった画像を消去する

あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

❶ 削除したい画像を表示する。

❷ メモリー消去ボタンを押す。

「消去しますか？」の表示が出る。

❸ もう1度メモリー消去ボタンを押す。

画像が消去される。

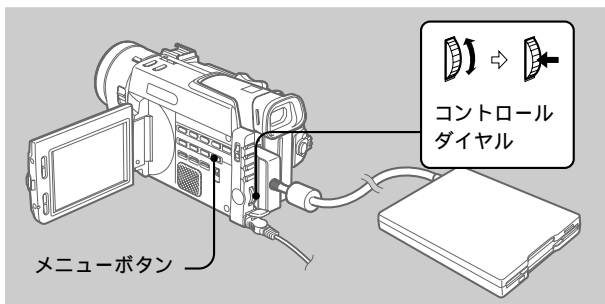
画像の消去を中止する

手順3でメモリー−ボタンを押す。

インデックス表示している画像を消す

メモリー+/−ボタンで▶マークを表示したい画像に移動してから、手順2と3を行ってください。

すべての画像を消去する

メモリーカードスロットと接続しているフロッピーディスクまたはPCカードのファイルのうち、プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

---

❶ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

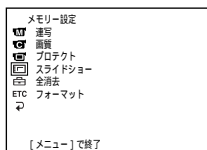
---

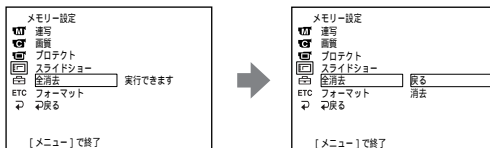
❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

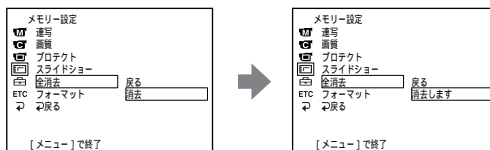
---

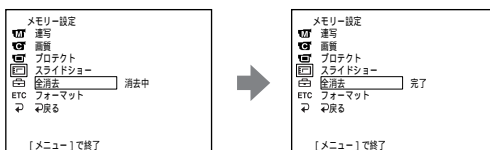
❸ コントロールダイヤルを回して、アイコン「」を選び、ダイヤルを押す。

メモリー設定
連写
画質
プロテクト
スライドショー
全消去
ETC フォーマット

［メニュー］で終了

「消去中」と表示されているときは
電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

❹ コントロールダイヤルを回して「全消去」を選び、ダイヤルを押す。

❺ コントロールダイヤルを回して「消去」を選び、ダイヤルを押す。

「消去」が「消去します」の表示に変わる。

❻ コントロールダイヤルで「消去します」を選び、ダイヤルを押す。

「消去中」と表示され、プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

全消去を中止する

手順4で「戻る」を選び、コントロールダイヤルを押す。

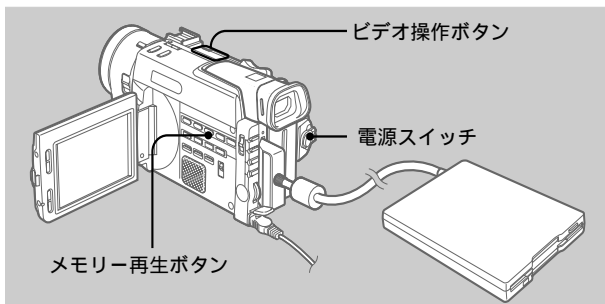
メモリーカードスロットで撮った画像をミニDVテープにダビングする

あらかじめ本機のメモリーカードスロットを使って撮った静止画やタイトルなどをミニDVテープにダビングすることができます。

ダビング中は
メモリー再生ボタン、メモリーインデックスボタン、メモリー消去ボタン、メモリー＋ボタン、メモリー－ボタンは操作できません。

インデックス画面は
録画できません。

ダビング一時停止中にエディットサーチをすると
メモリー再生は停止します。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
ダビングできないことがあります。

- 記録用のミニDVテープを入れておいてください。
- あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ビデオ操作ボタンを使って、静止画をダビングしたい場所を探し、ミニDVテープを再生一時停止にする。

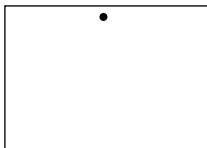
❸ ●録画ボタンを押し、録画一時停止にする。

次のページへつづく

録画中または録画スタンバイ中に画面表示ボタンを押すと
タイムコードなど、ミニDVテープに関する表示以外に、メモリー再生表示、ファイル名表示も見ることができます。

❹ ダビングしたい静止画をメモリー再生する。

❺ ❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。

録画を止めたいところで再度❚❚一時停止ボタンを押す。

❻ 他にもダビングする場合は、手順4〜5を繰り返す。

ダビングを途中で中止するときは

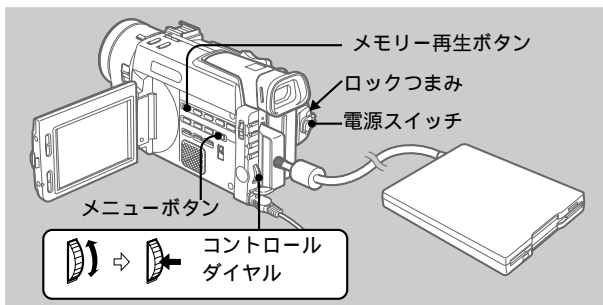
□停止ボタンを押す。

静止画を順番に自動再生する－スライドショー

画像を順番に次々に自動再生します。記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

テレビで見るときは
あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでください。LASER AVLINKによる再生はできません。

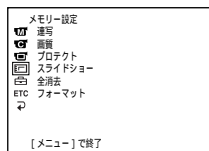
スライドショーは
ミニDVテープにダビングすることはできません。

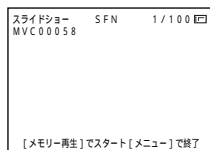
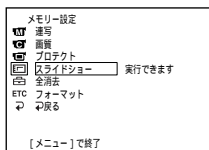
設定中にフロッピーディスクを入れ換えると
スライドショーは動作しません。フロッピーディスクを入れ換えたら、必ず初めから操作し直してください。

あらかじめフロッピーディスクを入れたフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入しておいてください。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にして「メモリー」にする。

2 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

3 コントロールダイヤルを回して、アイコン「▭」を選び、ダイヤルを押す。

4 コントロールダイヤルを回して「スライドショー」を選び、ダイヤルを押す。

次のページへつづく

❺ メモリー再生ボタンを押す。

フロッピーディスクまたはPCカードの画像が順番に再生される。すべて再生され、最初の画像がもう1度表示されて終了する。

スライドショーを中止する

メニューボタンを押す。

スライドショーを一時停止する

メモリー再生ボタンを押す。

お好みの画像からスライドショーを始める

手順2の前にメモリー＋/－ボタンで最初の画像を選んでおく。

使えるビデオカセット

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークのついたカセットをお使いください。*

8、Hi8方式や、VHS、VHSC、SVHS、SVHSC、β、ED Beta、DV方式のビデオカセットは使えません。

* ミニDVカセットには、カセットメモリー付きのものと、カセットメモリーなしのものがあります。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。
カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの冒頭や途中に1度無記録部を作ると、信号が不連続になり、タイトルが間違って表示されたり、サーチが誤動作することがあります。無記録部を作らないために、下記の操作を行ってください。

撮影の途中でテープを出し入れしたり、VTRモードで再生したり、またはエディットサーチを使った場合には、次の撮影の前にエンドサーチボタンを押し、撮影終了位置に戻す。

無記録部があったり、テープ上の信号が不連続なものは、上記の点に注意して新たにテープの最初から最後まで撮影すれば、カセットメモリー機能を正しくお使いいただけます。
カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に機能なしカメラレコーダーで録画したときも同じ症状が出ることがあります。
カセットメモリー付きカセットにはCM（Cassette Memory）マークが付いています。CMマークの付いたミニDVカセットをお使いください。

著作権保護信号について

再生するとき

本機で再生されるソフトに著作権保護のための信号が記録されている場合には、本機で再生した信号の他機での記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているソフトを本機で録画することはできません。このようなソフトを録画しようとすると液晶画面やファインダー、テレビ画面に「ダビングプロテクトされています。録画できません。」（コピー禁止）の表示が現われます。

その他

カセットのCM 4Kマークについて
この表示は、このカセットで4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセット（CM 16K マークが本体側面についています）まで対応しています。

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

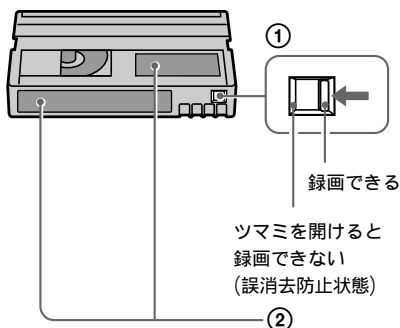
音声多重記録テープを再生するとき

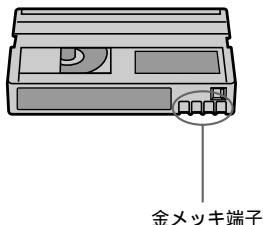
ステレオ音声で二重音声を記録したテープを再生するときは、左の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。メニューは電源スイッチを「ビデオ」にして出します。（89ページ）

本機では二重音声は記録できません。

ミニDVカセットについてのご注意

間違って消さないために

カセットの背にある左図①の誤消去防止ツマミを横にずらして、「赤」にします。

ミニDVカセットにラベルを貼るときは

左図②の場所以外には、絶対に貼らないでください。故障の原因になります。

ミニDVカセットの使用後は

ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店、ソニーサービス窓口またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。

ファインダーや液晶画面に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。134ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない	• 電源スイッチが「カメラ」になっていない。	•「カメラ」にする。	12
	• テープが終わりになっている。	• 巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	10、22
	• カセットが誤消去防止状態になっている。	• そのカセットで撮るなら誤消去防止ツマミを赤が見えない側にする。または新しいカセットを入れる。	10、124
	• テープがヘッドドラムに貼りついている（結露)。	• カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	135
	• スタート/ストップモードが「 地面撮り防止」になっている。	•「 」にする。	14
すぐに撮影が止まる	スタート/ストップモードが「 地面撮り防止」または「5秒」になっている。	•「 」にする。	14
電源が途中で切れる	撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	電源スイッチを一度「切」にしてから、「カメラ」にする。	—
ファインダーの画像がはっきりしない	視度調節が正しくない。	視度調節する。	11
手振れ補正が働かない	メニューの「手ぶれ補正」が「切」になっている。	「入」にする。	44
オートフォーカスが働かない	• 手動ピント合わせになっている。	• フォーカススイッチを「自動」にする。	50
	• オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	• 手動でピントを合わせて撮影する。	50
液晶画面とファインダー内に⊗が点滅している	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	135

故障かな？と思ったら（つづき）

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
フェーダーボタンが働かない	スタート/ストップモードが「 地面撮り防止」または「5秒」になっている。	「 」にする。	14
カウンターに5桁のアルファベットと数字が出ている	自己診断表示機能が働いている。	サービス番号にしたがって対応する。	134
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではない。	—	—
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる	スミア現象といい、故障ではない。	—	—
液晶画面やファインダーに見慣れぬ画面が現れる	カセットを入れずに電源を「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットを入れるとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	92
シャッター音が出ない	メニューの「お知らせブザー」が「切」になっている。	「お知らせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	92
コマ送りのように見える	メニューの「プログレッシブ」が「入」になっているか、電源スイッチが「メモリー」になっている。全画素書き出しのためで、故障ではない。	—	—
液晶画面やファインダーに「●●●●●」という表示が出る。	スタート／ストップモードが「5秒」になっている。	スタート／ストップモードを「 」に戻す。	14

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ビデオ操作ボタンが働かない	• 電源スイッチが「ビデオ」になっていない。	•「ビデオ」にする。	19
	• テープが終わりになっている。	• テープを巻き戻す。	22
ノイズが多かったり、映らなかったりする	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	135
音声が小さいまたは聞こえない	• 音量を最小にしている。	• 音量を大きくする。	21
	• メニューの「音声ミックス」がステレオ2側になっている。	• 音声ミックスを調節する。	76
撮影日を画面に出して日付サーチできない	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	• カセットメモリー付きカセットを使う。	59、123
	• メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。	•「入」にする。	90
タイトルサーチできない	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	• カセットメモリー付きカセットを使う。	61、123
	• メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。	•「入」にする。	90
	• タイトルが入っていない。	• タイトルを入れる。	77
アフレコした音声が聞こえない	メニューの「音声ミックス」がステレオ1側になっている。	音声ミックスを調節する。	76
タイトルが出ない	メニューの「タイトル表示」が「切」になっている。	「入」にする。	91
日付サーチやタイトルサーチが誤動作する	テープの途中に無記録部分がある。	—	123

次のページへつづく

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチをビデオ／カメラにしても動作しない	• バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。	• 充電されたバッテリーを取り付ける。	8、9
	• ACチャージャーのプラグがコンセントからはずれている。	• コンセントに差し込む。	84
エンドサーチが働かない	• カセットを入れてからエンドサーチボタンを押すまでに、一度も撮影していない。	—	18、22
	• カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出した。	—	18、22
エンドサーチが誤動作する	テープの途中に無記録部分がある。	—	123
ファインダーに画像が出ない	液晶画面が開いている。	液晶画面を閉じる。	—
バッテリーの消耗が早い	• 温度が極端に低いところで使用している。	—	—
	• 充電が不充分。	• 充分に充電する。	8
	• バッテリーそのものの寿命。	• 新しいバッテリーに交換する。	9
カセットが取り出せない	• 電源（バッテリーやACチャージャー）がはずれている。	• 電源をきちんと接続する。	9、84
	• バッテリーが消耗している。	• 充電されたバッテリーを取り付ける。	8、9
💧や⏏が点滅し、カセットの取り出し以外できない	結露	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	135
カセットメモリー付きのカセットを使用しているのにカセットメモリー表示が出ない	カセットの金メッキ端子が汚れている。または、ゴミが付着している。	金メッキ端子をクリーニングする。	124
テープ残量表示が出ない。	メニューの「テープ残量表示」が「オート」になっている。	常にテープ残量を出したいときは「テープ残量表示」を「入」にする。	91

メモリーカードスロット操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
操作を受け付けない	• バッテリーが消耗している。	• 充電したバッテリーを入れる。	8
	• フロッピーディスクの位置がずれている。	• フロッピーディスクを取り出して入れ直す 。	101
	• 電源スイッチが「カメラ」になっている。	•「メモリー」または「ビデオ」にする。	104、108
撮影ができない	• すでに限度いっぱいに撮影している。	• 不要な画像を消去してから撮影する。	116
	• フロッピーディスクまたはPCカードが入っていない。	• フロッピーディスクまたはPCカードを入れる。	101
	• 本機では使用できないフロッピーディスクを入れた。	• 2HD、1.44Mバイト、MS-DOSフォーマットのフロッピーディスクを使う。	99
	• フォーマットされていないフロッピーディスクを入れた。	• フォーマットする。	103
	• フロッピーディスクのタブが書き込み禁止になっている。	• 書き込み可能にする。	101
画像を消去できない	• プロテクトされている。	• プロテクトを解除する。	115

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
タイトルを入れられない	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	• カセットメモリー付きカセットを使う。	77、123
	• カセットのメモリーがいっぱいになっている。	• ほかのタイトルを消去する。	79
	• カセットが誤消去防止状態になっている。	• 誤消去防止ツマミを元に戻す。	124
	• 無記録部分にタイトルを入れようとしている。	• 録画された部分にタイトルを入れる。	77

次のページへつづく

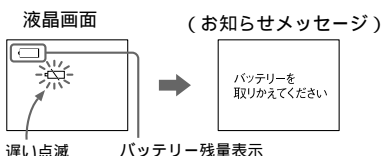
その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
カセットになまえを付けられない	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	• カセットメモリー付きカセットを使う。	82
	• カセットのメモリーがいっぱいになっている。	• タイトルをどれか消去する。	79
	• カセットが誤消去防止状態になっている。	• 誤消去防止ツマミを元に戻す。	124
ダビング編集中、i.LINKケーブル（DVケーブル）を正しく接続しているのにモニター画像が出ない	—	i.LINKケーブル（DVケーブル）を一度ぬいてからもう1度接続し直してください。	67
DVシンクロエディットが働かない	• 録画機側の入力切換ができていない。	• 据え置きDVデッキなら「入力切換」を「DV入力」に、デジタルビデオカメラレコーダーなら「電源スイッチ」を「ビデオ」にする。	69
	• ソニー以外のDV機器と接続している。	• 通常のダビングを行う。	67
	• 無記録部分にプログラム設定しようとしている。	• 録画された部分に設定し直す。	69
付属のワイヤレスリモコンが働かない	• メニューの「リモコン」を「切」にしている。	•「入」にする。	92
	• リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	• 障害物を取り除く。	—
	• リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	• ⊕極と⊖極を合わせて、正しく入れる。	143
	• 乾電池そのものの寿命。	• 新しい乾電池に交換する。	143
電源が入っているのに操作できない	—	バッテリーまたはACチャージャーのDKケーブルを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACチャージャーのDKケーブルを取り付け電源を入れる。それでも操作できないときは、スピーカー左のリセットボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	84、141

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面とファインダーには、次のような表示が出ます。詳しい説明は、(　) 内のページにあります。
- 対面撮影中はお知らせメッセージは出ません。
- 表示は実際には黄色です。
- ♪はおしらせブザー音の鳴るものです。

バッテリー残量

液晶画面　(お知らせメッセージ)

遅い点滅　バッテリー残量表示

バッテリー残量表示について*

残量表示が▭になると液晶画面とファインダーにマークが点滅する。

* 残量時間は使用状況や環境により正しく表示されない場合があります。

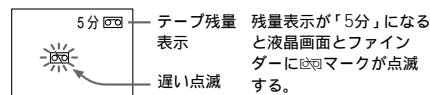
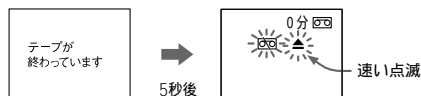
テープ残量

テープ残量表示

遅い点滅

残量表示が「5分」になると液晶画面とファインダーにマークが点滅する。

♪テープの終わり

5秒後
速い点滅

日付・時刻の未設定 (95ページ)

日付、時刻を設定してもこのメッセージが出る場合は、内蔵の充電式ボタン電池が放電しています。充電してください。(136ページ)

メニューで
日付 時刻を
あわせてください

バッテリー種類

本機はインフォリチウムバッテリー専用です。

"インフォリチウム"
バッテリーを
つかってください

バッテリーの寿命

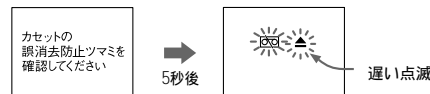
"インフォリチウム"バッテリーをお使いのときのみ表示が出ます。

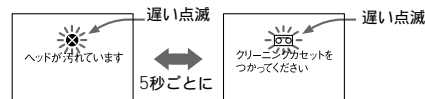
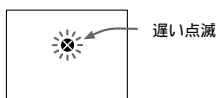
このバッテリーは
古くなりました
取りかえてください

♪カセットが入っていない

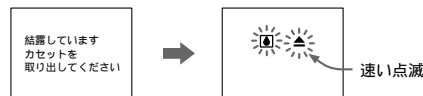
遅い点滅

♪カセット誤消去防止 (124ページ)

5秒後
遅い点滅

カセットの誤消去防止ツマミを確認する。

ヘッド汚れ (135ページ)

クリーニングカセットできれいにする。

♪結露 (135ページ)

速い点滅

テープを取り出し、カセット入れを開けたまま約1時間放置する。

その他

次のページへつづく

♪アフレコできない（74ページ）

音声モードが
ちがいます
確認してください

16BITで記録されたテープにアフレコしようとしたときに出ます。アフレコは12BITで記録されたテープにしかできません。

録画モードが
ちがいます
確認してください

LPで記録されたテープにアフレコしようとしたときに出ます。アフレコはSPで記録されたテープにしかできません。また、PAL方式のテープを使用したときもこの表示が出ます。

テープを
確認してください

なにも記録されていないテープにアフレコしようとしたときに出ます。

DVケーブルを
ぬいてください

i.LINKケーブル（DVケーブル）を接続した状態でアフレコしようとするとき出ます。

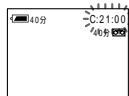
カセットメモリーが付いていない

カセットメモリー付き
カセットを
入れなおしてください

カセットメモリーを使ったサーチや、カセットラベル、タイトルの機能はカセットメモリーの付いたカセットでのみできます。

カセットメモリーの容量が足りない

メモリーが
いっぱいです

自己診断表示機能が働いている（134ページ）

本機が正しく動作していないとき、自己診断表示機能で本機の状態をお知らせしています。「C:□□:□□」のような表示が出たら、134ページをご覧ください。

♪その他の異常

一度カセットを取り出す。変わらない場合は、一度電源を切り、バッテリーを取りはずす。再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。それでも表示が消えないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

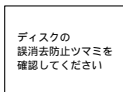
♪フロッピーディスクまたはPCカードに静止画を取り込めない

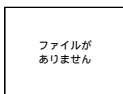
メモリーカードスロットにフロッピーディスクの入ったフロッピーディスクアダプター、またはPCカードを挿入していないときに出ます。

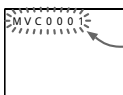
♪フロッピーディスクまたはPCカードが正しくフォーマットされていない（103ページ）

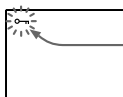
フロッピーディスクまたはPCカードが未フォーマットのとき、またはフォーマットが違うとき。（本機でフォーマットし直してください）。
または、メモリーカードまたはフロッピーディスクが故障したり結露したりしているとき出ます。

♪フロッピーディスクが誤消去防止になっている

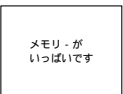
ディスクの
誤消去防止ツマミを
確認してください

♪フロッピーディスクに静止画が記録されていない

ファイルが
ありません

フロッピーディスクまたはPCカードに静止画が1枚も記録されていないときにメモリー再生しようとしたとき出ます。

♪エラーのある画像ファイルを再生しようとしている

エラーのある画像ファイルを再生しようとしたとき出ます。

♪画像がプロテクトされている（114ページ）

プロテクトされた画像を消去しようとしたとき出ます。

♪フロッピーディスクまたはPCカードの容量が足りない

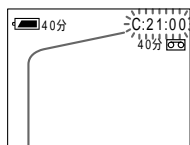
メモリーが
いっぱいです

フロッピーディスクまたはPCカードの容量がいっぱいになったとき出ます。

その他

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機が正しく動作していないときに、ファインダー（または液晶画面）にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

ファインダー（または液晶画面）

自己診断表示
- 「C:□□:□□」:
  お客様自身で正常に戻せる状態
- 「E:□□:□□」:
  テクニカルインフォメーションセンターまたはソニーサービス窓口に相談していただく状態

表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	”インフォリチウム ”以外のバッテリーを使用している。	”インフォリチウム ”バッテリーを使用してください。	8
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出し、約1時間後に入れ直す。	135
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットでビデオヘッドをきれいにする。	135
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。 • 電源を取りはずし、取り付け直してから再度操作し直す。	— —
E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターまたはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	—

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。

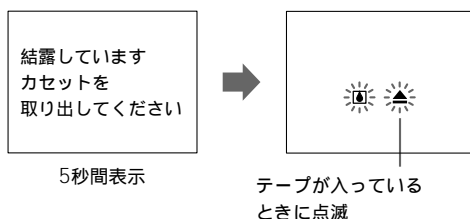
お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、フロッピーディスクやレンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、液晶画面やファインダーに下のように警告表示が出ます。ただし、レンズ／フロッピーディスクの結露では表示は出ません。

結露しています
カセットを
取り出してください

5秒間表示

テープが入っているときに点滅

結露が起きたときは

カセットまたはフロッピーディスクは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出し以外できません。

電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。

次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM12CLを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画面が出ない。
- 液晶画面やファインダーに「⊗ヘッドが汚れています」と「📼クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。または⊗が点滅する。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

（正常画）

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1年近く全く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合は日時は記録されないままで本機を使うことはできます。

充電方法

本機を別売りのACチャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切」にして24時間以上放置する。

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz (ステレオ1、ステレオ2) 16ビット48kHz (ステレオ)
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DVマークの付いたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81 mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間	SPモード：60分（DVM60使用時） LPモード：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	約2分30秒（DVM60使用時）
ビューファインダー	電子ビューファインダー：カラー
撮像素子	1/4インチCCD固体撮像素子（3CCD）
レンズ	12倍ズームレンズ（光学） 48倍（デジタル） 焦点距離 f = 4.3～51.6 mm （35 mmカメラ換算では41～495 mm） F 1.6～2.8 TTLオートフォーカス機構付き インナーフォーカスマクロ付き
色温度切り換え	自動追尾／、屋内（3200K）、屋外（5800K）
最低被写体照度	8ルクス（F 1.6）
被写体照度範囲	8～100,000ルクス
推奨被写体照度	100ルクス以上

入・出力端子

S1映像端子	入力／出力自動切り換え 4ピンミニDIN（1） 輝度信号：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負 色信号：0.286 Vp-p、75 Ω不均衡
映像／音声端子	入力／出力自動切り換え 特殊ステレオミニジャック（1） 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負 音声：327 mV（47 kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2 kΩ 入力インピーダンス47 kΩ以上
i.LINK DV入力／出力端子	4ピン特殊コネクター
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø 3.5）（1）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（Ø 3.5）（1） 0.388 mV、DC2.5V 入力インピーダンス6.8kΩ
ランク端子	ステレオミニミニジャック （Ø 2.5）（1）

液晶画面

画面サイズ	3.5型
有効画面領域	72.4×50.4mm （幅×高さ）
使用液晶パネル	TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリクス）駆動
総ドット数	184,580ドット 横839×縦220

LASER AVLINK

映像／音声	IR空間伝送EIAJ*準拠
音声キャリア	L ch：4.3MHz R ch：4.8MHz

電源部、その他

電源電圧	バッテリー挿入口入力7.2 V DC IN 端子入力8.4V
消費電力	ビューファインダーを使ってのカメラ録画時: 4.1W 液晶画面を使ってのカメラ録画時: 5.2W LASER AVLINK使用による再生時（液晶画面「切」時）: 3.9 W
動作温度	0 ℃～＋40 ℃
保存温度	－20 ℃～＋60 ℃
外形寸法 （最大突起部含まず）	93×103×193 mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約880 g（バッテリー、テープ含まず）
撮影時総質量	約1kg（バッテリーパックNP-F550、テープDVM60含む） 約1.1kg（バッテリーパックNP-F750、テープDVM60含む） 約1.2kg（バッテリーパックNP-F950、テープDVM60含む）
内蔵マイクロホン	ステレオエレクトレットコンデンサーマイク
スピーカー	ダイナミックスピーカー
付属品	フロッピーディスクアダプター（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3型乾電池（リモコン用）（2） レンズキャップ（1） レンズフード（1） AV接続ケーブル（1） 取扱説明書（1） 取扱説明書（安全のために）（1） 保証書（1） ソニーご相談窓口のご案内（1） 撮り方ビデオ（1）

フロッピーディスクアダプター

フロッピーディスク1枚あたりの記録枚数の目安

	SFNモード：約7～8枚 FINモード：約14～16枚 STDモード：約23～27枚
記憶媒体	3.5 インチ　2HDフロッピーディスク（1.44 Mバイト） MS-DOSフォーマット
外形寸法	フロッピー挿入部 約101.5×17.2×147 mm （幅×高さ×奥行き） PCカード部 約54×11×120 mm （幅×高さ×奥行き）
動作温度	＋5 ℃～＋40 ℃
本体質量	約380 g
電源電圧	本体より供給

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

＊EIAJ（日本電子機械工業会）規格

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

録画内容の補償はできません
万一、デジタルビデオカメラレコーダーやテープ、フロッピーディスク、PCカードなどの不具合により録画や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）、お買い上げ店または添付の"ソニーご相談窓口のご案内"にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

海外で使うとき

本機は外国でもお使いになれます

別売りのACチャージャーAC-V700は、AC100V～240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACチャージャーのプラグを直接差し込みます。	

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

各部のなまえ 使いかたの説明は、（ ）内のページにあります。

本体

エディットサーチボタン（18ページ）

逆光補正ボタン（30ページ）

フェーダーボタン（29ページ）

NDフィルターボタン（42ページ）

オートロックスイッチ（36ページ）

液晶画面OPENボタン（15ページ）

コントロールダイヤル（27ページ）

視度調節つまみ（11ページ）

フォトボタン（25ページ）

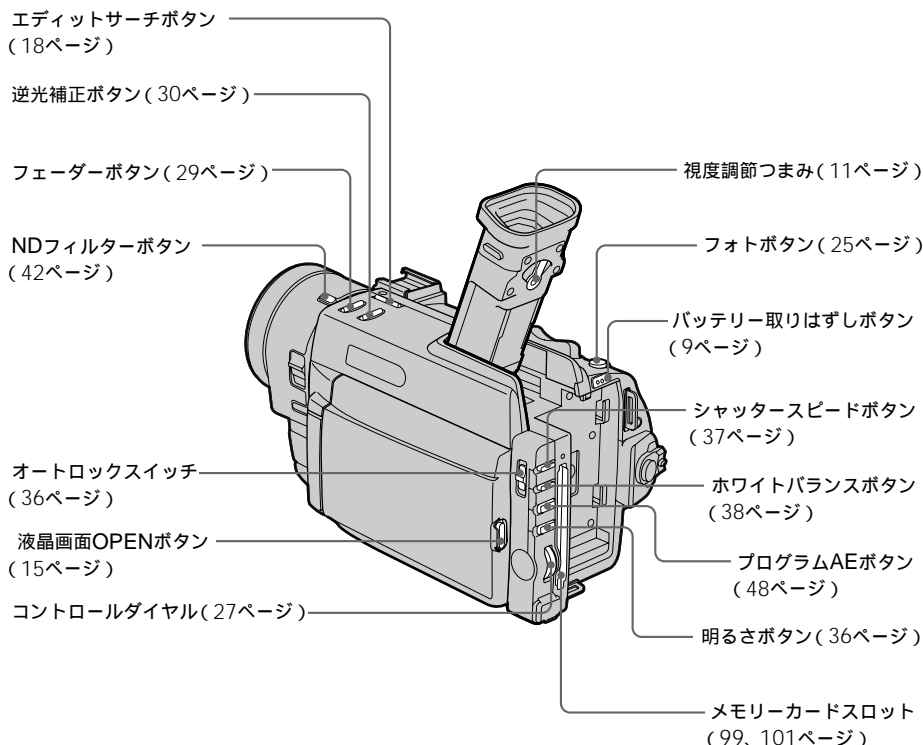
バッテリー取りはずしボタン（9ページ）

シャッタースピードボタン（37ページ）

ホワイトバランスボタン（38ページ）

プログラムAEボタン（48ページ）

明るさボタン（36ページ）

メモリーカードスロット（99、101ページ）

このマークは、ソニーのビデオ機器関連商品の純正マークです。

ソニーのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはソニーのロゴマークが付いているビデオ機器関連商品をおすすめします。

これは登録商標です。

i はi.LINKのマークです。
i.LINKとはIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様技術を意味し、ソニーの商標です。

i DV端子は、i.LINKに準拠したDV入出力専用の端子です。

ショルダーベルト（別売り）の取り付けかた

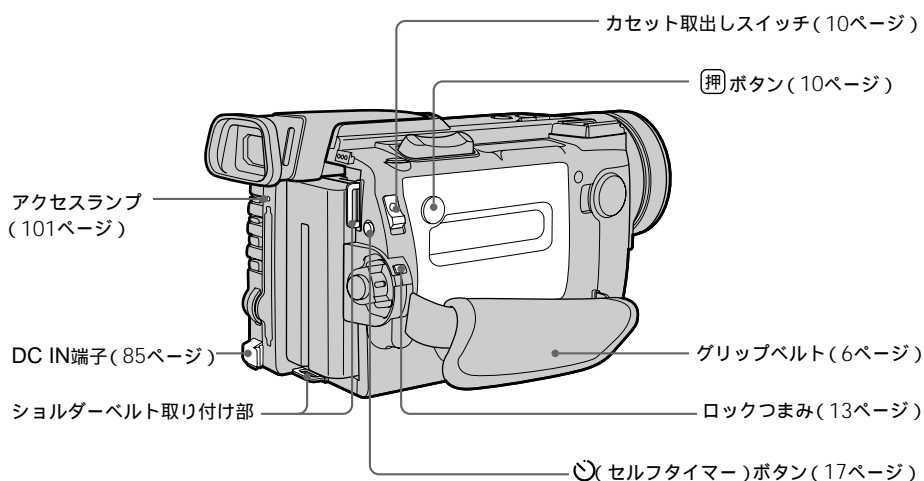
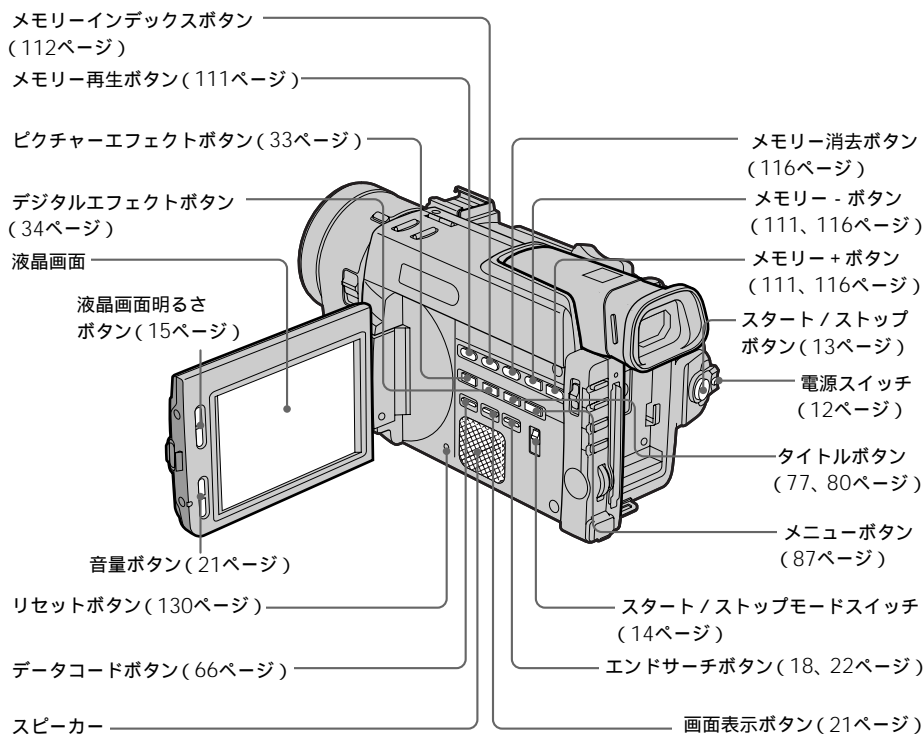
その他

Intelligent Accessory Shoe

インテリジェントアクセサリーシューについて

- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入／切ができます。
（お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。）
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

メモリーインデックスボタン
（112ページ）
メモリー再生ボタン（111ページ）
ピクチャーエフェクトボタン（33ページ）
デジタルエフェクトボタン
（34ページ）
液晶画面
液晶画面明るさ
ボタン（15ページ）
音量ボタン（21ページ）
リセットボタン（130ページ）
データコードボタン（66ページ）
スピーカー
メモリー消去ボタン
（116ページ）
メモリー－ボタン
（111、116ページ）
メモリー＋ボタン
（111、116ページ）
スタート／ストップ
ボタン（13ページ）
電源スイッチ
（12ページ）
タイトルボタン
（77、80ページ）
メニューボタン
（87ページ）
スタート／ストップモードスイッチ
（14ページ）
エンドサーチボタン（18、22ページ）
画面表示ボタン（21ページ）

その他

各部のなまえ（つづき） 使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

LANC（リモート）端子

DV入力／出力端子（67ページ）

ヘッドホン端子
ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものをお使いください。

映像／音声端子（23、68ページ）

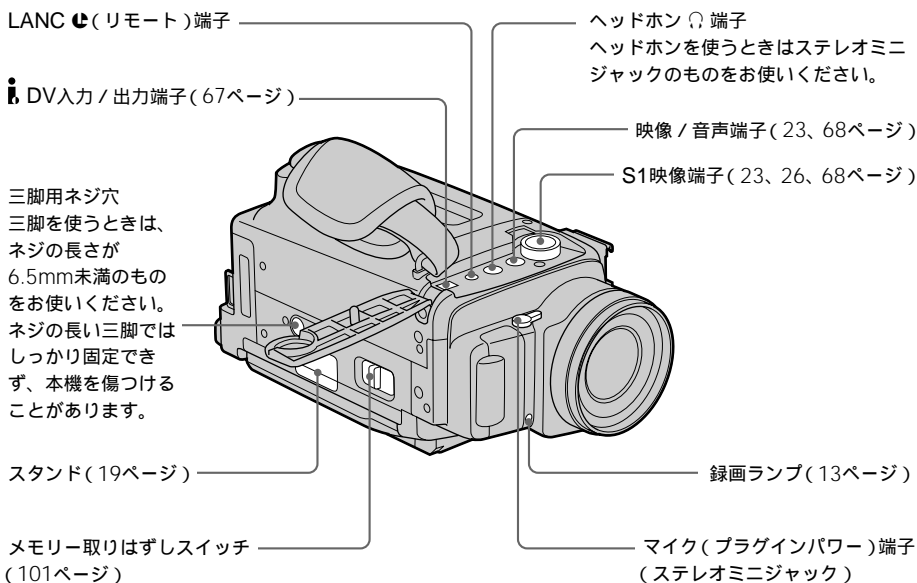
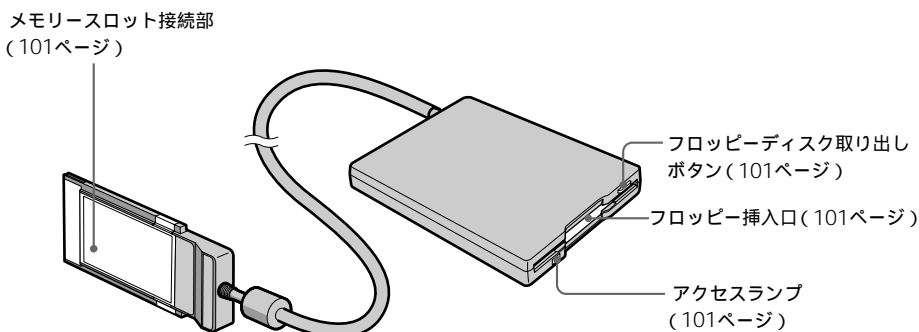
S1映像端子（23、26、68ページ）

三脚用ネジ穴
三脚を使うときは、ネジの長さが6.5mm未満のものをお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

スタンド（19ページ）

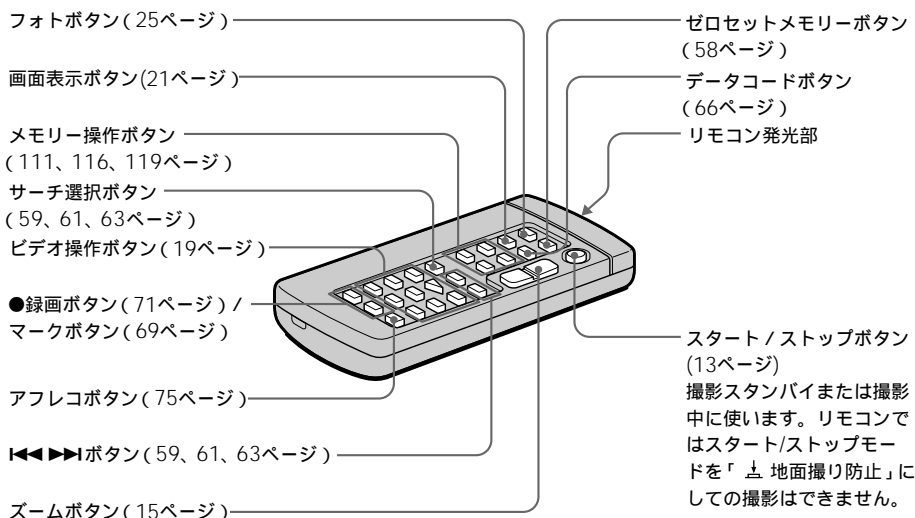
録画ランプ（13ページ）

メモリー取りはずしスイッチ（101ページ）

マイク（プラグインパワー）端子（ステレオミニジャック）

フロッピーディスクアダプター

別売りの外部マイクを使う場合
マイク（プラグインパワー）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

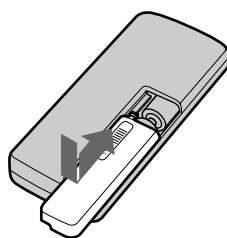
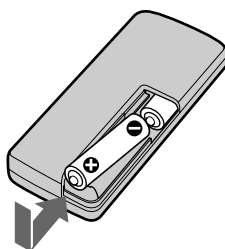
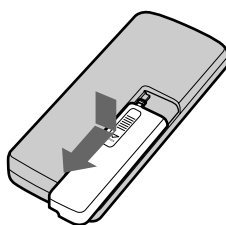
LANC（リモート）マークについて
は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

ヘッドホンを使うと
スピーカーから音は出ません。

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ 押しながらずらす。

❷ 入れる。単3形2本

❸ もとに戻す。

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

リモコンとリモコン受光部との間には

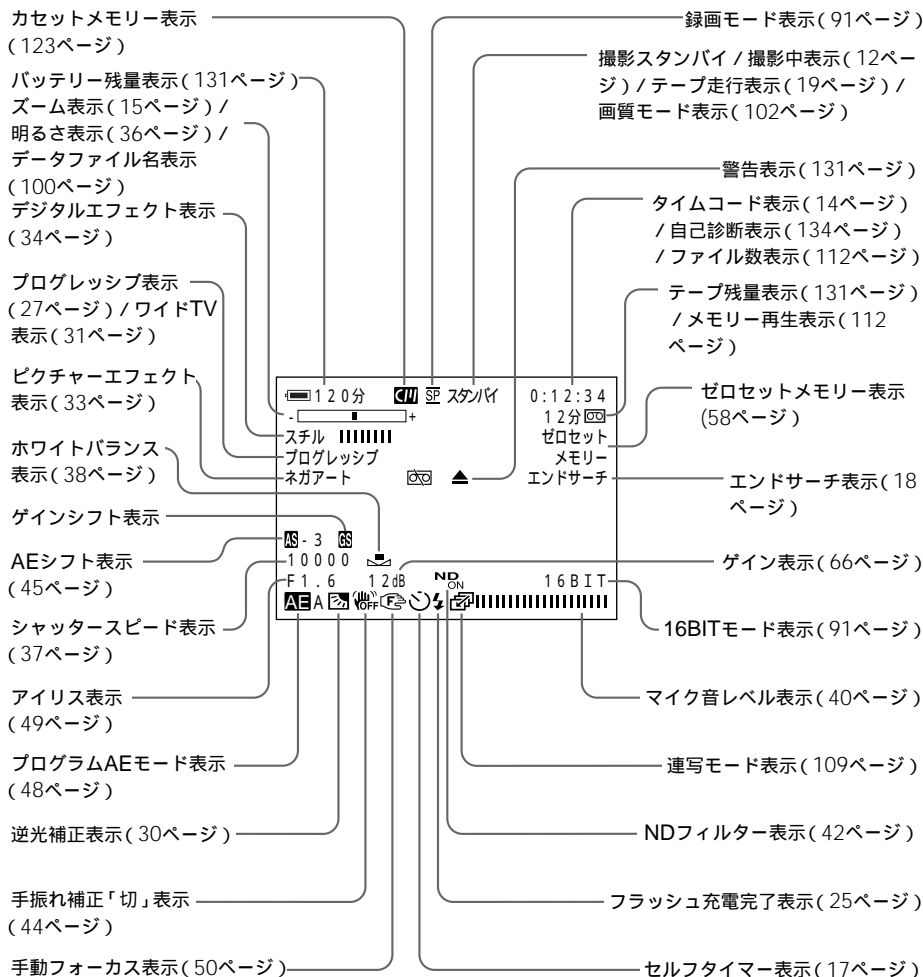
障害物がないようにご注意ください。

リモコンの操作範囲

リモコンの届く範囲は屋内使用時で約5mです。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。

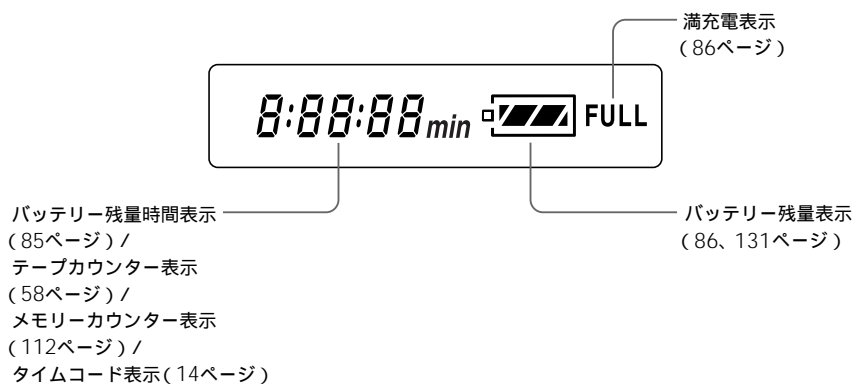
その他

次のページへつづく

液晶画面とビューファインダーの表示

デモンストレーションについて
メニューで設定しますが以下の手順でもデモンストレーションが見られます。
1 カセットを取り出して電源スイッチを「ビデオ」にする。
2 ▷再生ボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

デモンストレーションが出ないようにするには
1 電源スイッチを「ビデオ」にする。
2 □停止ボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

表示窓の表示

8:88:88 min
FULL
満充電表示
（86ページ）
バッテリー残量時間表示
（85ページ）／
テープカウンター表示
（58ページ）／
メモリーカウンター表示
（112ページ）／
タイムコード表示（14ページ）
バッテリー残量表示
（86、131ページ）

用語解説

ア行

音声モード …91ページ
音声の記録モードのこと。DV方式では、次の2種類がある。
① 12BITモード
ステレオ1（撮影時の音声）とステレオ2（アフレコした音声）の2つのステレオ音声が記録できる。
② 16BITモード
あとから音声を追加することはできないが、1つのステレオ音声を高音質で記録できる。

カ行

逆光補正…30ページ
逆光で被写体が黒っぽく映るのを防ぐ機能。本機は画面全体で明るさをいつも一定の量に保つ働きがある。逆光で撮影するときにもこの一定の「量」を保とうとして、被写体が暗めになる。逆光補正の機能を使うと、この「量」が多くなり被写体を明るめに自動調節する。

サ行

撮影スタンバイ…12ページ
「撮影を待機する・準備する」という意味。電源スイッチを「カメラ」にし、撮影一時停止で次の撮影を待機している状態。付属のレンズフードの装着をおすすめします。

自動ピント合わせ…12ページ
横方向に走査する映像信号からピントを検出する機能。そのため、被写体が横じまだけのものや背景とのコントラストの低いものは、自動でピントが合いにくいことがある。

視度調節…11ページ
ビューファインダー内の接眼レンズの位置を動かし、撮る人の視力に合わせて、ファインダーの画像がはっきり見えるように調節すること。

タ行

タイムコード…14ページ
テープ上の位置を映像とともに時・分・秒・フレーム（1フレーム＝約1/30秒）単位で記録する機能。1フレームが映像の1コマに対応している。DV方式ではフレーム単位でカウントできるので、テープ位置の正確なカウンターとして使える。テープの途中に無記録部分があるとタイムコードは0から始まる。本機のタイムコードはドロップフレーム方式である。

データコード …66ページ
テープを録画した日付（年・月・日）、時刻（時・分・秒）とカメラデータをテープに記録する機能。再生時、必要に応じて画面上に表示できる。後から撮影日時と撮影情報の確認をする場合などに使える。

手振れ補正 …44ページ
カメラの揺れを感知して、その揺れを補正する機能。手振れ補正を使用しても画質や画角、消費電力は変わらない。

ドロップフレーム方式…14ページ
本機はドロップフレーム方式を採用している。30フレーム／秒でカウントするタイムコードと、フレーム周期が29.97秒のNTSC映像信号との間に起きるずれは自動的に補正される。分の単位が更新されるときに、フレームを02から始めることで補正を行う。ただし分が10の倍数のときは00から始める。

ハ行

プログラムAE（エーイー） …48ページ
被写体や撮影状況により適した撮影を可能にする機能。本機には5種類のモードがある。
シャッタースピードやアイリス（絞り）をモードにより自動で調節する。

プログレッシブ …27**ページ**
通常のテレビ放送では、1つの画面を細かい2つのフィールドに分け、1/60秒ごとに交互に映して（走査して）いる。これをインターレース方式という。瞬間ごとのテレビの画像は、見た目の画面の半分の面積にしか映っていない。これに対し、フィールドで分けずに一度に全画素（フレーム）を書き出す記録方式をプログレッシブという。画像は鮮明になるが、動きのある被写体は動きがぎこちなくなる。

ヘッド …131**ページ**
映像や音声信号をテープに記録したり、テープに記録されている信号を読み取ったりする本機の心臓部分。使っているうちに汚れて、きれいに再生できなくなったときは、クリーニングカセットを使ってきれいにする。

ワ行

ワイドTV**モード** …31**ページ**
再生したときにワイド画面（横:縦＝16:9）になるように撮影するときの設定。
横縦比16:9のワイドテレビで再生したときに画面いっぱいに映るように画像を縦長に圧縮して記録する。横縦比4:3のふつうのテレビで再生すると縦長に押しつぶされた映像になる。

アルファベット順

ディーブイ
DV**静止画キャプチャーボード**…26**ページ**
デジタルビデオの画像をパソコンに静止画として取り込むためのパソコン用の拡張ボード（基板）。
本機の i DV端子を使って接続すると、デジタルのまま画像をパソコンに転送できる。市販のアプリケーションソフトウェアを使えばパソコンに取り込んだ画像をさまざまに加工したり、印刷したりできる。

ディーブイ
DV**方式**…67**ページ**
コンスーマー向けに新たに開発されたデジタルVTRの方式。映像および音声信号をデジタル信号でテープに記録するため、高画質、高音質で記録できる。

アイディー
ID-1**方式**…31**ページ**
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムのこと。この方式に対応しているテレビとつなぐと、自動的にテレビのワイドモードが切り換わる。

アイディー
ID-2**方式**
ID-1方式に加え、著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステム。

InfoLITHIUM**（インフォリチウム）バッテリー**…8**ページ**
”インフォリチウム”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持った新しいタイプのリチウムイオンバッテリー。本機はインフォリチウムバッテリー対応。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

レーザー　エーブイリンク
LASER AVLINK…24**ページ**
赤外線で映像と音声の送受信を行うシステム。

エヌディー
ND(Neutral Density)**フィルター**…42**ページ**
色調を変えずに光量を減少させるためのフィルター。本機では光量を約16%減少させるフィルターを内蔵している。

エヌティーエスシー
NTSC**方式** …138**ページ**
日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式。NTSC方式で記録されたテープは、ヨーロッパなどで使われているPAL（パル）やSECAM（セカム）方式のビデオでは再生できない。
海外で本機を使うときは、ご注意ください。

エス　エス
S**映像端子**/S1**映像入力/出力端子**…23、68**ページ**
映像信号を構成する色信号と輝度（白黒）信号を分離して、より鮮明な映像を再現する端子。
S1映像信号では、通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されている。

こんなときはこの機能

撮影するとき

撮影状況に合わせたい

明るい
　白い服の人物が白い壁の前にいる
　　→ 逆光補正（30ページ）
　背後に光があり顔が暗くなる
　　→ 逆光補正（30ページ）

暗い
　夜景、夕景、花火
　　→ サンセット＆ムーンモード（48ページ）
　暗いところで撮りたい
　　→ キャンドルモード（48ページ）

被写体の動きが速い
　ゴルフスイングなど
　　→ スポーツレッスンモード（48ページ）

三脚を使う
　→ 手振れ補正解除（44ページ）

画像をこうしたい

効果的な場面転換をしたい
　→ フェードイン、フェードアウト
　（29ページ）

写真のような静止画を撮りたい
　→ フォト撮影（25ページ）

意図的にピントを合わせたい
　→ 手動ピント合わせ（50ページ）

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたい
　→ ワイドTVモード（31ページ）

タイトルを出したい
　→ タイトル機能（77ページ）

ズーム時の画質の低下を抑えたい
　→ メニュー：デジタルズーム（89ページ）

画像にデジタル処理をしたい
　→ ピクチャーエフェクト（33ページ）
　→ デジタルエフェクト（34ページ）

後でパソコンに静止画を取り込みたい
　→ プログレッシブモード（27ページ）
　→ メモリーカードスロット（99ページ）

再生するとき

液晶画面の色がおかしい
　→ 液晶画面の色のこさを調節する（93ページ）

見たい場面にすばやく戻したい
　→ ゼロセットメモリー（58ページ）

タイトルの入った場面の頭出しをしたい
　→ タイトルサーチ（61ページ）

静止画の場面を探したい
　→ フォトサーチ（63ページ）

静止画だけ次々見たい
　→ フォトスキャン（63ページ）

撮影した日時を確認したい
　→ データコード（66ページ）

索引

その他

お問い合わせ窓口のご案内

■ デジタルイメージングカスタマーサポート

デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。

http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター

本機をお使いになって不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときのご相談窓口です。

電話： 0574-28-8088

受付時間： **月～土曜日　午前9時～午後7時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

Handycam Square (ハンディカム スクエア)

ハンディカムを楽しく使っていただくための情報をご案内するホームページです。

http://www.sony.co.jp/cam/

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

ソニー株式会社
〒141-0001
東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ　●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）　●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311
●Fax：0466-31-2595
受付時間：月～金 9:00～20:00、土・日・祝日 9:00～17:00

Printed in Japan